

91-235

ドクトル、  
フキロソフキル  
醫學士

戶塚卷藏纂著

# 獨逸社會的保險法細要

明治  
43. 3. 1  
交

國家醫學會發行

序

予カ舊友醫學士戸塚卷藏氏目下獨逸國ギーゼン大學  
ニアリテ社會經濟學ヲ專攻セラル、予今回歐米巡廻ノ  
途次氏ヲ其僑居ニ訪ヒ話頭偶々社會的強制保險法ニ  
及ブ、氏嘗テ記スル處ノ同法ニ關スル手録ヲ示サル、其  
論述スル所現時我國ノ急ニ當ルモノアルヲ見ル、因テ  
予之ヲ世ニ公ニセンコトヲ勸ム、氏曰ク記事稍舊套ニ屬  
シ且ツ淺薄卑近畢竟課業ノ緒餘ニ過キズ何ソ以テ人  
ニ示スニ足ラント、予以爲ク否ラス、社會問題ノ聲今ヤ  
漸ク世上ニ喧シク其主義ヲ論究スルモノ亦少カラズ

然レトモ實際ノ社會政策ヲ提唱スル者ニ至リテハ殆  
ント稀ナリトス、君カ稿スル所亦世ヲ益スル必ス多キ  
ヲ信ス、若シ夫レ細論詳説ノ大著ニ至テハ他日ヲ期シ  
テ可ナリト、氏予ノ意ヲ諒シ更ニ舊稿ニ増補改訂ヲ加  
ヘテ國家醫學會雜誌ヘ寄セラレシコトヲ諾ス本編即  
チ是ナリ、今ヤ將ニ稿ヲ送ラントスルニ及ビ聊カ蕪辭  
ヲ列ネテ其序ニ代ユルト云爾

明治三十九年十月下浣

伯林旅寓ニ於テ

醫學博士 片山國嘉識

### 例言

本編ハ予ガ獨逸國遊學中畏友片山醫學博士ノ德憑ニ依リ同國現行ノ勞働者  
保險及ビ同保護法ノ大要ヲ記述シ曩ニ國家醫學會雜誌ニ寄セ會員諸君ニ頒  
布シタル者ナリ。

抑モ社會的保險 *Sociale Versicherung* 一ニ勞働者保險 *Arbeiterversicherung* ト云フ  
蓋シ同法ハ其發布ノ當時(千八百八十一年)ニ於テハ勞働者ノミニ施行シタリ  
シガ其後數回ノ増補改正ヲ經今日ニ至リテハ勞働者以外ノ者ニモ亦被保ノ  
義務ヲ負ハシムルニ至レリ、爲メニ此ノ保險施行ノ範圍ハ頗ル擴大シタルヲ  
以テ之ヲ社會的保險ト名ヅクルノ寧ロ穩當ナリトノ説多シ故ニ予ハ此編ニ  
此題名ヲ用ヒタリ、然レドモ行文ノ踳躄ヲ避クル爲メニ本論中ニハ舊來ノ勞  
働者保險ノ語ヲ襲用シタル所アリ、又保險法ニ用ユル語辭ノ一定シタルモノ  
甚ダ鮮シ故ニ假定ノ譯名ヲ附シ其側ニ原語ヲ插入セリ他日ヲ待チテ是正ス  
ル所アルベシ

本編ハ元ヨリ梗概ヲ舉グルニ過ギザルガ故ニ往々記載ノ未ダ盡サル所アリ然レドモ之ヲ詳細ニ記述スルニハ獨逸工業條例及ビ各種ノ保險條例等ノ全般ニ互ラザルヲ得ザルガ故ニ講學ノ餘暇ヲ以テ完成スルコトハ難シトスル所ナリ。

予生來不文加フルニ此著元ヨリ成業ノ餘暇ニ成ルヲ以テ咄嗟ノ間ニ執筆シタルコト多シ此ノ故ニ送稿ノ時ニ當リ力メテ推敲添削ヲ施スト雖ドモ猶ホ上梓ノ後ニ及テハ支離滅裂讀ムニ堪ヘザル記述擧ゲテ數フルニ違ナキヲ知ル異日更ニ筆硯ヲ新ニシ内容ヲ改竄シ字句ヲ修正シテ第二版トシ世ニ公ニセンコトヲ期ス覽者幸ニ之ヲ諒セラレンコトヲ乞フ。

明治四十三年一月

纂著者識

### 獨逸社會的保險法綱要目次

第一編 緒論	一一四
第一 定義	一一四
第二 社會的保險法及其分類	一一五
第三 勞動者保險法ト貧民救助法ノ區別	一一六
第四 勞動者ヲ救済スル各種ノ方法	一一七
第五 勞動者保險法ノ起原	一一八
第六 勞動者保險ニ對スル抗議	一一九
第二編 總論	一二四
第一 勞動者保險ノ主義	一二四
第二 保險實行者	一二五
第三 保險ノ負擔	一二六
第四 保險ノ監督	一二七
第三編 各論	一三七
第一章 疾病保險	一三七
第一 趣意	一三三
第二 被保人	一三五
第三 保險施行機關	一三八

其 一	區保險所	17
其 二	工場保險所	17
其 三	土木業保險所	17
其 四	同業組合保險所	10
其 五	鑛山業保險所	10
其 六	市町村立保險所	11
第 四	疾病保險ノ加入	11
第 五	保險ノ負擔	12
第 六	保險金ノ釀出及ヒ保險加入金	12
<b>第二章 遭難保險</b>		
第 一	遭難保險ノ意義	13
第 二	起原及沿革	13
第 三	遭難統計	13
第 四	工業遭難保險	13
一	法律上ノ被保人	14
二	定款上ノ被保人	14
三	遭難保險負擔者	14
其 一	保險組合組織	14
其 二	保險ノ機關	14
其 三	組合ノ解散	14
其 四	組合ノ分合	14

四	遭難保險ノ負擔	14
其 一	負傷ニ對スル賠償	14
其 二	死亡ニ對スル賠償	14
五	賠償ノ確定	14
六	遭難保險金ノ釀出	14
七	遭難豫防	14
第 五	農林業遭難保險	14
一	被保者ノ範圍	14
二	保險負擔者	14
三	保險ノ負擔	14
第 六	海上遭難保險法	14
一	被保者ノ範圍	14
二	海上遭難保險負擔	14
三	遭難救濟ノ方法及賠償金	14
四	海上遭難保險負擔	14
五	遭難申告及遭難検査	14
六	賠償額ノ確定	14
七	賠償ニ關スル爭議ノ判決	14
八	賠償額ノ變更	14
九	賠償金受領ノ停止及一時賠償金	14
十	保險金ノ釀出	14
十一	海上遭難豫防	14

目次

十二	小船及漁船ノ海上避難保險	六
其一	被保人ノ範圍	六
其二	保險員擔	六
其三	保險員擔者	六
其四	保險金ノ釀出	六
第七	囚人避難手當	七
一	被救濟人ノ範圍	七
二	救濟員擔者	七
三	避難救濟員擔	七
第三章 老廢保險		
第一	起原	七
第二	趣意	七
第三	被保人ノ範圍	七
一	義務的保保者	七
二	任意保險	七
三	保險ノ繼續及ヒ復新	七
第四	老廢保險員擔者	七
第五	老廢保險員擔	七
一	廢疾救濟金	八
二	養老金	八
三	掛金半額ノ拂戻	八

四	廢疾ヲ豫防スル疾病治療	八
第六	保險掛金待期過渡期	八
一	掛金	八
二	待期	八
三	過渡期	八
第七	救濟金額ノ算定	八
第八	負擔額ノ按配	八
第九	保險金釀出ノ方法	九
一	老廢保險切手	九
二	貼付蓋紙	九
三	切手貼付代理者	九
四	貼付蓋紙及紛失又ハ汚損シタル蓋紙ノ處置	九
五	海員ニ對スル除外例	九
第十	救濟要求	九
第四章 勞働者保險ノ副機關		
第一	勞働保險仲裁裁判所	一〇
一	位置	一〇
二	組織	一〇
三	仲裁裁判施行	一〇
第二	地方保險局	一〇
一	地方保險局ノ組織	一〇

二	同事務章程	110
三	帝國保險局	111
	第五章 勞働者保險ノ成績	112-113
	第六章 自除各國ノ勞働者共濟法	113-114
第一	英吉利國	113
一	共濟組合	113
二	織工組合保險所	113
三	埋葬保險組合	113
四	遭難保險	113
第二	佛蘭西國	113
一	救濟組合	113
其一	成立及沿革	113
其二	救濟負擔	113
其三	組合ノ收入	113
二	養老保險局	113
三	生命及遭難保險	113
四	坑夫強制保險組合	113
五	海員共濟組合	113
六	遭難保險	113
第三	北米合衆國	113
一	鐵道職員保險	113

二	手工業者ニ屬スル勞働者組合ノ保險	114
	第七章 失業保險	121-120
第一	失業	121
第二	失業豫防	121
一	勞働紹介	121
二	解僱申告期延長	121
三	失業豫防ニ關スル同工業者ノ盟約	121
四	老廢保險法ノ改正	121
第三	失業保險	121
一	アドレル氏案	121
二	アンホマン氏案	121
三	シャントツ氏案	121
	第八章 同盟罷業保險	120-127
第一	同盟罷業概論	120
一	勞働拒絕	120
二	勞働者拒絕	120
三	製品排斥宣言	120
其一	主義及目的	120
其二	製品排斥ノ方法及手段	120
其三	製品排斥ノ經濟上ニ及ボス影響	120

第二 同盟罷業ニ對スル豫防策……………一七

一 英國ノ制度……………一六

二 獨逸國ノ制度……………一六

第三 同盟罷業保險……………一六

一 資本主ノ同盟罷業保險……………一七

二 勞働者ノ同盟罷業保險……………一七

第五 同盟業統計……………一七

獨逸社會的保險法綱要目次終

獨逸社會的保險法綱要

戶塚 卷藏 纂著

第二編 緒論

定義

第一 定義

保險ノ定義ニ就キテハ法學者ト經濟學者ト其見地ヲ異ニス、甲ハ曰ク保險ハ二種ノ契約ニシテ、契約者ノ一方(保險者)カ其拂込ヲナシタル他ノ一方(被保者)ニ此契約ニ定メタル損害ヲ生シタルトキ、之レヲ賠償スル者ナリト、乙ハ曰ク保險ハ一種ノ經濟機關ニシテ、此レニ由テ一ノ被保者ニ損害ヲ生シタルトキ、衆多ノ同一ノ被保者カ相共ニ負擔シテ之レヲ賠償シ得ル者ナリト、約言スレバ一ノ損害ノ賠償ヲ多數ノ同損害ヲ豫測シタル者ニ分擔セシムル經濟機關ナリト、

第二 社會的保險法及其分類

社會的保險ハ社會ノ或ル階級ニ在ル者ガ、經濟上ノ損害ニ遭遇シタル

社會的保險法及其分類

緒論



トキ同階級ニ在ル者ガ經濟上ノ分擔ニ由テコレヲ救濟スル方法ナリ此ノ經濟上ノ損害トハ疾病、遭難、老廢、其他季候ノ關係ニヨリ又ハ商工業ノ不振ノタメニ業ヲ失ヒ、且ツ同盟業罷業ノタメニ業ニ離レ、收入減少シ、若クハ杜絶スルモノヲ云フ、以上經濟上ノ損害ノ原因中、疾病、遭難、老廢等ニ對シテハ獨逸國ニ於テ早ク己ニ法律ヲ以テ強制保險法ヲ施行シ之レヲ救濟スルノ制ヲ定メタリ、故ニ以下專ラ此三箇ノ強制保險法ヲ述フヘシ、其他ノ原因ニ由テ業ヲ失ヒタル者ニ生シタル經濟上ノ損害ニ對スル救濟ハ未ダ法律ヲ以テ施行セラレズ、故ニ各自任意ノ保險組合ヲ組織シ之レニ備ヘタリ、而テ此救濟法ニモ各種ノ考案アルヲ以テ、次章ニ於テ之レヲ説クヘク、若シ夫レ同盟罷業ニ由テ生スル收入失喪ニ對スル保險ニ至リテハ、其發達最モ幼稚ニシテ成書ニ記載スル者甚ダ稀レナリ、故ニ唯其概要ヲ掲クルニ止ム、而テ續編ニハ此ノ損害ヲ豫防スヘキ勞働者保護法ヲ記述スヘシ、

第三 勞働者保險法ト貧民救助法ノ區別

勞働者ハ其職業ノ種類ニ從テ所謂職業病 *Berufskrankheiten* ニ罹リ、又不慮ノ遭難ニ出會スルコト他ノ階級ニ在ル者ニ比シテ多シ、而テ彼等之レガ爲メニ一朝收入ノ途ヲ失フ如キ困難ニ遇フトキハ、常ニ之レニ備フル餘資ナキカ故ニ其悲慘ノ狀況ハ推察スルニ餘リアリ、此際特ニ之レヲ救濟スヘキ適當ナル方法ヲキトキハ、只慈善家ノ救助ヲ待ツカ、或ハ公立ノ貧民救助法ニ據ラサルヘカラス、慈善家カ數多ノ勞働者ヲ救養スルコトノ不可能ナルハ勿論ナリ、而テ此ノ貧民救助法ハ地方行政上ノ設備ニシテ、之レニ由テ救恤セラル、者ハ無業ノ患者、老廢者ナレトモ、此等ハ遊惰ノ爲メ自箇ノ職業ヲ放擲シテ貧陋ニ陥リ、剩ヘ身體ノ健康ヲ害シ、所謂厄介者ナレハ、獨立シタル國民ノ資格ヲ失ヒ、其公權ヲ棄却スルニ至ル、然レトモ勞働者カ一朝不慮ノ災害ニ罹リ、已ヲ得ス、收入ノ道ヲ失フ者ハ猶ホ國家ニ有要ナル一員ナレハ、此ノ無賴ノ貧民ト同一視スルコトハ最モ不合理ノ處置ト言ハサルヲ得ス、人權ヲ重ン、スル今日ニ在リテハ、此ノ勞働者ヲ獨立國民ノ資格ヲ失ハサル程度ニ

於テ救済スルノ道ヲ講セサルヘカラス、是勞働者保險法ノ案出セラレタル所以ナリ、獨逸ニ於テハ此勞働者保險施行以來救助ヲ要スル貧民ノ數著ク減少シタリ、如何トナレハ貧困ノ原因ハ多クハ疾病、老廢ノ結果ニ屬スレハナリ、

#### 第四 勞働者ヲ救済スル各種ノ方法

一、勞働者ヲシテ任意自助ノ法ヲ獎勵スヘシト云フ者アリ實ニ然リ、道德上ヨリ見レバ此法最モ完全ナレトモ到底實行スルコト能ハサルヘシ、這ハ諸般ノ實驗ニ徴シテ判明ナル所ニシテ、勞働者中將來ノ災害ニ對シテ豫メ任意ニ覺悟ヲナス者ハ最モ稀ニ見ル所ナリ、且ツ英、佛等ニ於テハ此法ヲ設ケテ尙ホ其上ニ政府ヨリ補助シ其獎勵ニ盡力シツ、アレトモ此ノ法ヲ遵守スル勞働者ノ數到底豫期ニ達スル能ハスト云フ

二、前記ノ法ニヨリテ貯蓄シタリトスルモ其額ハ災害ヲ救恤スルニ充分ナラス、故ニ政府ハ之レニ對スル多額ノ補助ニ堪ヘサルヲ以テ勞

働者ヲシテ隨意ニ私立ソ會社ニ就キテ保險セシムルノ法ヲ講スヘシト云フ者アリ、是レ前法ニ比シテ一歩進ミタル考案ナリ、然レトモ勞働者ヲシテ保險シ人生ニ必要ナルコトヲ自覺セシムルハ最モ數多ク時日ト困難ヲ要スル者ナリ、

三、以上論述スル如ク何レモ缺點ヲ有シタル者ナレハ、保險ヲ強制的ニ施行シ勞働者全體ヲシテ盡ク此法ニ據ラシメ、尙ホ其他被保者ノ釀出額ヲ輕減セシメンカ爲メニ雇主ヲシテ其幾分ヲ負擔セシムルハ、各種ノ方法中最モ實行シ易ク且ツ其目的ヲ達スルニ確實ナル者トシテ獨逸國ニ於テハ卒先シテ施行スルニ至レリ、此法ハ已ニ中世期ノ頃ヨリ日耳曼人種ノ鑛山ニ於テ不完全ナカラモ行ハレタリ、要スルニ凡ソ各種ノ勞働者中、坑夫最モ多ク遭難及ヒ職業病ニ罹リ易ク、且ツ爾他ノ勞働者ニ比シテ其團結力最モ強大ナレハ、此ノ三箇ノ特性即チ(一)自治的相互ナルコト(二)雇主モ釀出額ノ一部ヲ負擔スヘキコト(三)坑夫全體如何ナル事情ヲ問ハス被保人タルヘキコト等ヲ有スル保險法ヲ實行

シタリ、

第五 労働者保険法ノ起原

一千八百年代ノ後半期ニ於テ獨逸國ニ於テハ社會問題勃興シ、爲メニ治安ヲ害セラル、恐レアリケレハ、千八百七十八年社會黨鎮壓令、千八百八十八年三月十八日ノ法律ニ由テ廢止セリ、ヲ出シテ集會、政社結成等ノ運動ヲ拘束シ、一方ニ於テハ此ノ鑛山ニ行ハル、保險法ヲ基礎トシテ強制保險法ヲ發布シ、以テ社會問題ノ解決ニ勉メタリ、同法ハ其後數回ノ改正擴張ヲ歴テ現今ノ規定ヲ見ルニ至レリ、

第六 労働者保険ニ對スル抗議

目今行ハル、強制保險ニ關シ其利害ノ研究ヲナス者鮮カラス、而テ其ノ主トスル處ハ何故ニ強制ノ必要アリヤノ疑點、及ヒ第三者即チ雇主ヲモ強制シテ被雇者保險料ノ一部ヲ負擔セシムルハ果シテ其當ヲ得タルモノナリヤ否ニアリ、今少シク此二點ニ於テ述フル處アラントス、一、説ヲナス者アリ曰ク、労働者ノ保險ニ就キテハ政府特ニ之レヲ強

制シテ施行セシムルノ必要ナキノミナラス却テ弊害アリ、政府ハ此ノ如ク個人ノ自由ヲ壓制スルノ權利ナシ、寧ロ之レヲ自然ノ成行ニ放任シテ其必要ニ迫ルニ及ンテ、労働者自ラ任意ノ動機ニ由テ備フル所アレハ可ナリ、且ツ政府ノ干涉ハ貴重ナル自個ノ活動ヲ麻痺セシメ、吾人カ最モ希望シツ、アル社會的自助ノ精神ヲ攪亂スルヲ以テ只管何事モ政府ニ依頼シ爲メニ社會的未來ノ國家ノ成立ヲ妨クル者ナリト、然レトモ經濟ノ寬裕ナラサル下級民ニハ保險最モ必要ナレトモ通常其得ル所ヲ以テ其失フ所ニ充ツルニ過キサル彼等ニ向テ保險料ヲ永久怠ラス拂込マシムルハ到底望ムヘカラス、又生存競争ノ激烈ナル今日ニ於テハ雇主ト被雇者トノ關係甚タ疎慢ニ流レ雇主カ任意ノ動機ニ由テ被雇人ヲ保護救済スルコトハ望ムヘカラス然ラハ之ヲ如何ニシテ則チ可ナラン、茲ニ於テ政府カ強制シテ勞銀ニ據テ衣食スル労働者及ヒ此レト同一階級ニ位スル者ヲシテ保險セシムルノ穩當ナル事ヲ認メタリ、一方ヨリ見ルトキハ此法ハ個人ノ自由ヲ束縛スル者ナリ、

然レトモ他ノ一方ヨリ見ルトキハ此束縛ハ罹災ノ豫備ヲナス能ハサル者又ハ之レヲナスヲ欲セサル者ニ對シテ却テ德行ト做スヲ得ヘシ、而シテ勞働者カ保險料ヲ盡ク負擔スルコト能ハサルハ固ヨリ明瞭ナル事實ナリ、而テ此負擔スルコト能ハサル者ヲ強制シテ保險スルニハ之レニ代リテ保險料ノ一部ヲ支出スルモノヲ要ス是レ即チ雇主又ハ政府ナリ、

二、說ヲナス者又曰ク此雇主又ハ政府カ拂込金ノ一部ヲ支拂フトキハ其性質ハ保險掛金ニ非スシテ贈與ナリ、換言スレバ慈善ノ作用ニ異ナラス、又雇主ニ於テ之レヲ支出スルトキハ爲メニ生産費ヲ増加シ自國ノ工業ハ外國ノ夫レト競争スルコト能ハサルベシト、然リ政府ノ支出ハ固ヨリ贈與ニシテ之レニ由テ保險ノ性質ヲ曖昧ナラシムルノ恐レアリ、故ニ政府ハ故ラニ支出スルモノニ非ス唯已ムヲ得サル場合ニ於テ支辨シ保險施行ヲ助成スルニ止マルノミ、雇主ヨリ支出スル者ハ夫レ之レト異ナリテ假令保險ノ大部ヲ負擔スルトモ雇

主ヨリ保險ニ支出シタル額カ勞銀トシテ支拂ヒタル額ト合シテ生産費ヨリ超過セサル限リハ恩惠贈與ト云フヘカラス、要スルニ此拂込金一部ノ負擔ハ最低額ノ勞銀ヲ政府ノ強制ニ由テ多少増額シタル者ニシテ此ノ負擔ノ額ト勞銀トヲ合シテ尋常ノ勞働生産費ト做スヲ得ヘシ、故ニ其増額ハ贈與ニ非スシテ雇主カ勞働者ニ對スル正當ノ義務ナリ、却テ此ノ正當ノ義務ニ由テ勞働者ハ恩惠贈與ノ救助ニ由テ僅カニ露命ヲ繋ク最貧民ニ陥落スルコトヲ豫防スルモノナリ、

又此ノ強制保險ハ外國ノ工業ト競争スルヲ妨クルノ恐レナシ、如何トナレハ今日競争シツ、アル邦國ニハ此ノ強制保險ヲ施行シツ、アルカ、否ラサレハ獨逸普通ノ勞銀ヨリモ多額ナルモノヲ拂ヒテ英佛米ノ如ク出產シツ、アル國ノミナレハナリ、若シ假ニ他國ト競争スルコト困難ナル時ハ社會政策ト經濟政策トノ調和ニ由テ之レヲ挽回スルヲ得ヘシ、

政府ノ法律ヲ以テ全國一般ニ強制的ニ此ノ法ヲ施行スルトキハ被保

者ハ些ノ煩勞ナク轉住シ又安心シテ永久ニ拂込金ヲナスコトヲ得ルナリ、

## 第二編 總論

### 第一 勞働者保險法ノ主義

勞働者保險法ノ主義ハ一方ニ向テハ固ヨリ強制ニシテ他ノ一方ニ向テハ頗ル自由ノ主義ヲ保持ス、而テ其強制主義ニ依ル者ハ被保人タルヘキ資格ヲ一定シ之レニ該當スルモノハ事情ノ如何ヲ論セス理由ノ有無ヲ問ハス、盡ク政府ノ法律及ヒ保險所ノ定款各論ニ詳ナリニヨリ強迫シテ被保人タラシメ所定ノ掛金ヲ拂込マシムルナリ、而テ此保險法中疾病ハ疾病保險所、遭難ハ保險組合、老廢ハ保險局等ニ於テ之レヲ施行スルナリ、被保人ニ對スル所置ハ此ノ如ク強制的ナレトモ保險事務ノ施行ハ極メテ自由ニシテ政府ハ只監督スルニ止マリ敢テ無用ノ干涉ヲナサス全般ノ事務ハ舉ケテ之ヲ勞働者及ヒ雇主ヨリ成立シタル法人團體ニ放任シテ其機關ヲ圓滑ニ運轉セシム、之レニ反シテ例ヘハ佛國ノ遭難賠償法ノ如キハ官營事業ト曰ハサルヲ得ス、如何トナレ

勞働者保險法ノ主

總論

ハ遭難ノ決定ハ工業巡視官ニ由テ行ハレ要求ノ額ハ裁判所ニ於テ裁  
決セラレ遭難豫防ハ行政官廳ノ事業ニ屬スレハナリ獨逸ニ於ケル此  
勞働保險ノ運動範圍ハ今日ニ於テハ著シク擴張セラレ全ク下級民ノ  
健康保持遭難及ヒ疾病ノ豫防酒害ノ矯正等社會生存上主要ノ問題ヲ  
解決スヘキ機關トナリタリ、

保險實行者

第二 保險實行者 Träger der Versicherung

保險實行者ハ任意保險所(各論ニ詳ナリ)ト合併スルコトアリ然レトモ  
通常保險ノ施行ヲ容易ナラシムル爲メ保險所又ハ保險組合ヲ設置ス、  
此ノ場合ニ於テハ被保ノ義務アル勞働者及ヒ拂込金ノ義務アル雇主  
共ニ事務ニ從事シ圓滑ニ其進行ヲ謀ル者トス、故ニ其組織ハ共同自治  
體ニシテ勞働者及ヒ雇主等共ニ拂込金ノ額ニ從テ役員ノ數ヲ定ム、而  
テ此自治體ハ盡ク法人團體ニシテ一地方ニ限リテ設立スルモノアリ、  
或ハ同職若シクハ類似ノ職業ニ従事スル者ヲ廣ク相合シテ設立スル  
者アリ、或ハ二者混合スル者アリテ其ノ地方ノ情況ニ由テ同シカラス、

要スルニ第一ノ場合ニ在テハ即チ一市町又ハ一郡ヲ限リテ此自治體  
ヲ組織シ如何ナル職業ト雖モ此中ニ編入スルナリ、第二ノ者ハ專ラ同  
職業ノ者ヨリ成立シ地方區分ニ重キヲ置カス、第三ノ者ハ一地方ニ限  
リ其區劃内ニ在ル同業者相合シ又ハ數種ノ同業者相合シテ一ノ自治  
體ヲ造ル、

保險ノ負擔

第三 保險ノ負擔 Leistung der Versicherung

強制保險ヲ施行スルニ當テ何程ヲ負擔スヘキヤノ際限ヲ定ムルコト  
又必要ナリ、而テ其際限ハ被保者カ日常生活ニ缺クヘカラサル程度ニ  
於テ補給スルヲ適當トス、且ツ此補給ニ由テ得ヘキ金員ハ他ノ任意保  
險ノ如ク一時ニ全額ヲ支出スルヲ禁シ一定ノ時日毎ニ分給スルヲ要  
ス、如何トナレハ被保者ハ幾日間此ノ補給ヲ要スルヤ豫メ知リ難ク、又  
假令其時日明カナル者ニ於テモ其困難ノ度長ク一定シ居ラサレハナ  
リ、例之ハ今茲ニ遭難ノ際ニハ輕微ナル外傷モ時日ヲ經ルニ隨テ増惡  
シタリトセンカ遭難當時ニ於ケル一時ノ出支ハ増惡シタル外傷ノ程

保險ノ監督

度ニ適セサレハナリ、故ニ其ノ小額ノ支出ヲ屢次續行シ、困難ノ程度ノ變更スル毎ニ之レヲ増減スルノマサレルニシカス、其他下級民ハ一時ノ多額金員受納ニ際シ浪費スルカ故ニ之レヲ防クノ道モ亦此ノ法ニ由ラサルヘカラス、

#### 第四 保險ノ監督

此ノ保險事務施行ノ監督ハ此ノ制度實行ノ爲メニ新設シタル帝國保險局 Reichsversicherungsamt 地方保險局 Landesversicherungsamt. 政府監督委員 Staatskommissär 等ニ於テ之レヲ行ヒ被保者ト保險實行者ノ争點ハ勞働者仲裁裁判所ニ於テ之レヲ和解ス、

### 第三編 各論

#### 第一章 疾病保險 Krankenversicherung

##### 第一 趣意

疾病保險ハ被保險者罹病ノタメニ收入杜絶シタル場合ニ於テ疾病治療及ヒ疾病中休養ニ要スル一定ノ金員ノ支出ヲ保障ス、

##### 第二 被保人

被保者ヲ分チテ二種トナス即チ被保者タルヘキ義務アル者及ヒ被保者タルヘキ権利アル者はレナリ、被保者タルヘキ義務アルモノヲ更ニ分チテ法律上 Gesetzliche 被保者及ヒ定款上 statutarische ノ被保者トナス、  
其一 法律上ノ被保者ハ次ニ列舉シタル職業ニ従事スル者トナス、  
(一) 鑛業及ヒ工場ニ就業スル坑夫、職工及ヒ運送業ニ従事スル者但シ海運ニ従事スルモノハ特ニ海員條例中ニ保險ノ規定アルヲ以テ之レヲ除ク)

疾病保險

趣意

被保人

(一) 商業ニ従事スル者其徒弟 Lehrling 及ヒ助手 Gehilfe oder Gesellen (但シ  
藥業ニ従事スルモノヲ除ク)

(二) 手工業 Handwerker ニ従事スル者其徒弟及ヒ助手

(三) 辯護士、公證人、執達吏、疾病保險所、保險組合及ヒ其他ノ保險業ニ従  
事スル者

(四) 郵便電信ノ技術員及ヒ陸海軍ノ經理部ニ就職スル者

(五) 官吏及ヒ公吏

以上被保者ノ中(一)ニ屬スルモノハ其勞銀收額ノ多寡ニ係ラス被保者  
タルノ義務ヲ負ヒ、其他ノ業務ニ従事スルモノハ一ケ年二千馬克以下  
ノ所得アルモノニ限ル者トス

其二 定款上ノ被保人 前記ノ法律上ノ被保人ハ政府ノ法律上必然  
被保ノ義務ヲ負フヘキモノナレトモ地方ノ狀況及ヒ其他ノ社會政策  
上疾病保險ノ有利、必要ヲ認ムル場合ニ於テハ保險所ノ定款中ニ左ノ  
各項ニ該當スル者ヲ被保人タラシムル規定ヲ設クルヲ得、之レニ準據

スル者ヲ定款上ノ被保人ト云フ

(一) 職業ノ性質上一週以上繼續シテ就業スル能ハサル者

(二) 市町村ノ役場ノ職務ニ従事シ法律上ノ被保人タル義務ナキ者(但  
シ一ケ年二百馬克以下ノ所得ヲ領收スル者ニ限ル)

(三) 雇主ノ家族ニシテ直接雇主ノ職業ニ従事セサル者

(四) 自家工業者 Hausindustrielle ニシテ自家ニ小工場ヲ有シ、原料ヲ所有  
シ、依頼ニ應シテ物品ヲ生産シ又ハ自家ニ於テ販賣スル者

(五) 農業及ヒ林業ニ従事スル勞働者及ヒ吏員

以上ノ被保者中、被保ノ義務ヲ免ル、者ハ

(一) 勞働者ニシテ其雇主カ彼ノ罹病ノ際、保險所ニ於テ負擔スル者ト  
同一ノ救済ヲ保障シタル時

(二) 外傷、慢性病、老衰若シクハ他ノ健康異常ノ故ヲ以テ繼續シテ就職  
シ得サル者ニシテ其救助ヲ地方貧民救済組合ニ於テ承諾シタル  
時



被保タルべき権利者

若シ保險所ニ於テ此義務免除ノ申告ニ同意ヲセサルトキハ保險監督官(前ニ述ヘタリ)ニ於テ之レヲ裁斷ス

二 被保タルヘキ權利アル者ハ、雇人又ハ前記被保ノ義務者ニ非サル者ニシテ、一ケ年ノ所得二千馬克以上ヲ超ヘサル者ニ限ル、此權利者ハ自個カ被保人タランコトヲ欲スルトキハ、其居住地ノ市町村立ノ保險所(下ニ詳ナリ)ニ就キ申告ス

保險施行機關

第三 保險施行機關

此ノ機關ハ大規模ノ者ハ却テ弊害多キカ故ニ、其ノ基金ノ許ス限リ狹隘ナル區域ニ於テ設立シ、且ツ成ルヘク同一ノ職業ニ従事スル者ヲ藉テ一團トナシ、保險事業ニ相互關係セシムルトキハ、隨テ一致團結ノ精神ヲ鼓舞シ、社會改良上ノ利益鮮カラズ、其他職業病ノ原因豫防等ヲ研究シ、公衆衛生ノ完全ヲ期スルノ便アリ、又右ノ如クスルトキハ、被保人相互ノ監督ヲ充分ニ厲行スルコトヲ得、且ツ虛妄ノ申告ニ依テ救濟ヲ私スルノ弊ヲ防クヲ得ルナリ、故ニ獨逸國ニ於テハ疾病保險所ヲ次

區保險所

キノ六箇ニ分ツ即チ區保險所、工場保險所、土木業保險所、同業組合保險所、鑛業保險所及ヒ市町村立保險所等ニシテ現今ニ於テ其數實ニ二萬二千七百八十箇所ニ達ス

其一 區保險所 Ortskrankenkasse

此ノ保險所ハ市又ハ町村ノ一區域内ニ住居シ同一ノ職業ニ従事スル被保人ノ數、百人以上ニ達スルトキニ於テ之レヲ設立ス、且ツ便宜上數箇ノ町村若クハ數箇同職業者ノ組合相合シテ、一ノ區保險所ヲ設立スルコトアリ(現今獨逸國ニハ此種類ノ者頗ル多シ)

此保險所ノ定款ハ其地方ノ上級官廳(日本ナレハ府、縣廳)ノ認許ヲ得ルヲ要ス、而シテ同所ノ機關ハ被保人總會及ヒ被保人中ヨリ撰出シタル役員ヨリ成立ス、雇主モ亦總會ノ委員及ヒ役員タルヲ得ルト雖トモ三分ノ一以上ノ決議數ヲ超ユルコト能ハス、又此保險所ハ總會ノ決議支出不能被保者ノ數減少等ニ由テ解散スル者トナス

其二 工場保險所 Fabrikkrankenkasse

工場保險所

土木業保險所

此保險所ハ工場内ニ其事務所ヲ有スル者ニシテ五十名以上職工ヲ有スル工場主ハ其工場内ニ保險所ヲ設立スルヲ得、又五十名以内ノ職工ヲ有スル工場主ト雖モ其ノ地方ノ上級官廳ノ命令ニ由ルトキハ之ヲ設立スルノ義務ヲ有ス、而シテ定款ハ工場主其職工ノ同意ヲ得テ之ヲ調製シ役員會議及ヒ總會ニ於テ之レカ議長トナリ、保險所ノ出納及ヒ計算等ノ任ヲ負ヒ、又保險所ノ支出ニ不足ヲ生スルトキハ之ヲ補充スルノ義務ヲ有ス其他ノ事項ハ區保險所ト同一ナリ

其三 土木業保險所 Baukranken kasse

此ノ保險所ハ大ナル土木事業ヲ經營スルニ際シテ、地方官ノ命令ニ由リ其經營中設立スル者ニシテ、其ノ規定ハ工場保險所ト同一ナリ

同業組合保險所

其四 同業組合保險所 Innungskranken kasse

此ノ保險所ハ其ノ組合員ノ徒弟及ヒ助手ノ疾病ニ對シテ設立シ、被保ノ義務アル手工業者等モ亦保險所ノ被保人タルヘシ、此保險所ハ他ノ保險所ノ如ク法人ノ性質ヲ有セス、如何トナレハ法人タル同業組合

鑛山業保險所

ニ附隨シタル一ノ設備ニ過キサレハナリ、故ニ其ノ定款ノ如キモ同業組合ノ定款ノ附録ニ過キス、而シテ此保險所ノ事務ハ徒弟及ヒ助手ニ任托スルヲ得ヘク、又組合員カ保險掛金ノ半額ヲ負擔スルトキハ所長役員及ヒ總會員ノ半數ヲ組合員ヨリ出ス者トス

其五 鑛山業保險所 Knappschaftskranken kasse

這ハ前ニモ言ヘル如ク、坑夫其他ノ鑛山ニ從事スル勞働者ニ對シテ設ケタル者ニシテ大體ハ工場保險所ト同一ナリ

市町村立保險所

其六 市町村立保險所 Gemeindekrankenversicherung

之モ亦特ニ法人ノ性質ヲ有セス、如何トナレハ其經營スル市町村カ已ニ法人ニシテ保險所ハ其一課ニ過キサレハナリ、而シテ此保險所ニ於テ保險セラル、者ハ前記ノ五箇ノ保險所ニ屬スヘキ資格ヲ有セサル者ナリ、例ヘハ被保者タルヘキ權利アル者ニシテ即チ雇人ノ如キ又ハ官吏公吏ノ如キ者之レニ屬ス、其他被保ノ義務アル商工業者ニシテ其ノ營業ノ性質上一定ノ場所ニ於テセスシテ、各所ヲ巡廻スル者ハ其

任意保險所

居住地ノ市町村立ノ保險所ニ屬ス、要スルニ區保險所ニ於テ殆ントアラユル(二)ヨリ(五)ノ保險所ニ屬セサル被保人ヲ保險スル者ナレトモ被保人ノ身分上之レニ屬セサル者ハ此ノ市町村立ノ者ニ收容セラレ、ナリ、又數多ノ市町村相合シテ聯合保險所ヲ設立スルモ妨ケナシ

此ノ各種ノ保險所ハ其地方ニ限リテ一ノ組合ヲ作り協同シテ醫師藥舖、病院等ト交渉シテ契約ヲ締結スルコトアリ

此等ノ諸保險所ノ外ニ任意保險所 *Freiwilige Hilfskasse* アリテ何人ト雖モ罹病ノ際一定ノ救助ヲ望ム者ハ此保險所ニ就キテ保險セシムルヲ得ル者ニシテ、其負擔ノ多少ニ從テ二種ニ分ツ、其一ハ其負擔ノ程度カ市町村立ノ保險所ト同一ナルヲ要ス、而シテ前ニ述ヘタル被保ノ義務ヲ有スル者ニシテ自個ノ志望ニヨリ此ノ保險所ニ就キテ保險スル者ハ他ノ保險所ノ被保人タルノ義務ナシ、其二ハ負擔ノ程度カ市町村立ノ保險所ノ夫レヨリモ小ナレトモ、他ニ救濟ノ法ヲ増ス者アリ(例ヘハ休養金ヲ多クスルカ又ハ滋養品ヲ供給スル等ナリ)而シテ被保ノ義

追加保險

務アル者カ此第二種ノ保險所ノ被保人タルトキハ被保ノ義務ヲ免カル、ヲ得ス、故ニ必ス前記ノ七箇保險所ノ一ニ就キテ保險セサルヘカラス、然レトモ被保ノ義務ヲ有スル者ハ自身所屬ノ保險所ノ負擔ノ程度ノ外ニ猶ホ他ノ救濟ヲ得ンガ爲メニ更ニ此第二種ノ任意保險所ノ被保人タルヲ得ヘシ、否ナ立法者ノ目的ハ成ルヘク此種ノ被保人タラシメ罹病ノ際豊裕ナル救濟ヲ得セシメント欲スルニアリテ要スルニ

此任意保險所ハ被保人タル者ニ階級ヲ設ケス、且ツ隨意ニ解約ヲナシ得ヘク又毫モ強制ノ意義ヲ有セス、猶ホ其他此ノ保險所ノ事務員ハ被保人中ヨリ撰擧シ雇主ヲ加ヘス且ツ掛金ノ全部ヲ被保人ヨリ釀出スル者トス、此ノ如クナルカ故ニ此ノ任意保險所ハ二箇ノ方面ヲ有ス、一ハ一般保險所ノ負擔ヲ補充スル者ニシテ所謂追加保險 *Doppel-oder Reversicherung* ノ機關タリ、故ニ他ノ保險所ニ屬スル者カ此種ノ被保人タル時ハ、同時ニ他ノ救濟ヲ受クルノ便アリ而シテ其他ノ一方ハ何人ニテモ疾病ノ保險ヲナスノ機關タリ

第四 疾病保險ノ加入

雇主ハ新ニ雇入レタル労働者ニシテ(二)ヨリ(五)ノ保險所ニ屬セサル者ハ、其ノ雇入レ後三日ノ間ニ又解雇ノ際ニモ解雇後三日間ニ届ケ出ツヘシ、若シ此際届出ヲ怠ルトキハ二十馬克ノ過怠金ヲ科セラル、モノナリ、而シテ其ノ届ケ所ハ區保險所ノ所屬ノ者ニ在テハ同所定款ニ指定シタル場所其他ノ者ニ在テハ市町村役場トス、其他任意保險所ニ於テモ亦被保人ノ出入毎ニ一ヶ月以内ニ市町村役場ニ届ケ出ツル者トス、之ヲ怠ルトキハ二十馬克ノ罰金ヲ科セラル、ナリ、又雇主ニシテ故意ニ届出ヲナサス、又ハ之ヲ怠リ其ノ經過中届出ツヘキ労働者カ疾病ニ罹ルトキハ、市町村立又ハ區保險所ニ於テ他ノ被保人ト同一ナル保護ヲ受ルヲ得、而シテ其ノ費用ハ雇主ヨリ悉皆辨償スヘキ者トス

被保人カ其ノ所屬ノ保險所ノ被保ヲ止ムルトキハ會計年度ノ終ニ於テ之ヲナスヘク、但シ其際ニハ三ヶ月以前ニ其ノ執務者ニ届ケ出テ且ツ向後他ノ保險所ノ被保人タルノ證明書ヲ示スヘシ、又此ノ労働者

カ被保人タルヘキ義務ヲ有スル職業ヲ止ムルトキハ、之レト同時ニ被保ノ義務ヲ免カル、ハ當然ノ事ナレトモ、若シ労働者カ海陸軍ノ兵役ニ従事スル爲メニ停業シ、又ハ職業ノ性質上一時被保ノ義務ナキ者ニ變業シ、再ヒ従前ノ職業ニ歸參スルトキハ、保險ニ關シテ停業又ハ變業以前ト同一ナル権利及ヒ義務ヲ繼續スルヲ得、別ニ加入金ヲ要セス、又區、土木業及ヒ同業組合保險所ノ被保人ニシテ三週以上保險ニ加入シ其ノ以後收入不能ノ爲メニ勞働業ヲ廢シ保險ヲ止ムルトキハ、其ノ廢止後三週間内ニ於テ救済ヲ要スル場合ニハ、其ノ所屬シタル保險所ハ之ヲ負擔スル者トス、但シ外國ニアル者ハ此限リニ非ス

市町村立保險所ノ加入者ニシテ保險ノ義務ヲ免カレ猶ホ引續キ同市町村内ニ住居スルトキハ、保險掛金ヲナシテ罹病ノ際救済ヲ要求スルヲ得、又區、工場、土木業及ヒ同業組合ノ被保人ニシテ其ノ保險ノ義務ヲ有セサルニ至ルトキモ、猶ホ保險加入ヲ繼續セントスルトキハ、之ヲ遂行スルヲ得ル者ニシテ、此際ニハ掛金ノ全部ヲ自ラ支拂フコト勿論

ナリトス、殊ニ土木、工場、保險所ニ於テハ、保險ヲ繼續スル者ハ總會ノ決議權ヲ有セス、又若シ掛金ヲ二回繼續シテ爲サ、ルトキハ前記各種ノ保險繼續ハ消滅スル者トス

保險ノ負擔

第五 保險ノ負擔

保險ノ負擔ハ病者保護ノ趣意ニ基ク者ニシテ、分ツテ二種トナス、即チ醫師ノ診療及ヒ休養金ニシテ、甲ハ醫師ノ診察料、藥價、眼鏡、脫腸帶其他保險所ノ定款ニ定メタル醫療品ノ代價ニシテ、發病ノ時ヨリ二十六週間救済ス、乙ハ疾病ニ由テ收入杜絶スル者ハ發病後三日ヨリ二十六週間休養金ヲ附與ス、而シテ其額ハ一日ノ收入額ノ百分ノ五十トス、但シ勞働者ニシテ勞銀ノ額一定セル者ハ當該ノ市町村長、雇主及ヒ勞働者ノ意見ヲ聽取シ、地方官廳ニ於テ定ム、之ヲ平均勞銀ト云フ、又疾病ノ治療ハ病院ニ於テナスコトヲ得、但シ其際ニハ前ニ定メタル休養金ノ半額ヲ給スル者トス

平均勞銀

此ノ救済ノ程度ハ即チ最低限ノ負擔ニシテ、市町村立保險所及ヒ任

意保險所ノ負擔ハ悉ク此ノ最低限ノ救済負擔トス

其他ノ保險所ニ於テハ前記最低限救済ノ外、產褥手当及ヒ死亡ノ時埋葬金ヲ保障ス、而シテ產褥手当ノ額ハ休養金ト同一ニシテ、被保人トナリテ半ケ年以上經過シタル工女ノ出産ニ際シテ給與スル者ニシテ分娩後六週間救済ス、又埋葬料ハ一日ノ平均勞銀ノ二十倍トナス、而シテ此埋葬料ハ救済支給中ニ死亡スル者ハ勿論、其後即チ二十六週間後一ケ年内ニ於テ同一ノ病原ニ由テ死亡シ、且ツ臨終迄收入不能ナル者ニモ給與セラル、者トス

以上ノ救済ノ外市町村立ノ者ハ其會ノ決議ニ據リ、其他ノ者ハ總會ノ決議及ヒ法定積立金ノ許ス限りニ於テ更ニ左ノ救済ヲナスコトヲ得ル者ナリ

其一 市町村立保險所ニ於テハ被保者ノ家族ノ救済ヲ負擔シ、休養金ハ發病ノ初日ヨリ給與シ、通例日曜日其他ノ休日ヲ除キタレントモ、此際ニハ休業日ヲモ一日ノ勞銀收得トナシテ加算ス

- 其二 他ノ保險所ニ於テハ前記保險所ノ擴張負擔ノ外左ノ件ヲ增加スルヲ得ル者トス
- 一 休養金ハ普通ノ額ノ百分ノ七十五迄増加スルコト
  - 二 救濟期限二十六週ヲ一ケ年ニ延長スルコト
  - 三 醫療品ノ種類ヲ増加スルコト
  - 四 病院治療ヲ要スル者ノ休養金ヲ其ノ家族ノ狀況ニヨリ普通勞銀ノ半額若クハ四分ノ三ニ増加スルコト
  - 五 工女ニシテ半ケ年以上被保人タルトキハ其ノ分娩ニ際シテ産婆ノ謝禮其他醫療ノ諸費ヲ負擔シ六週間ノ産褥救濟ヲナスコト
  - 六 埋葬料ヲ普通勞銀一日分ノ四十倍ニ増加スルコト
  - 七 被保人ノ妻ノ産褥ヲ救濟スルコト
  - 八 被保人ノ妻ノ死亡ニ際シテハ被保人カ受領スヘキ埋葬料ノ三分ノ二又其ノ小兒ノ死亡ニ際シテハ二分ノ一ヲ給與スルコト
  - 九 恢復期ニ際シテ一ケ年ノ救濟ヲナスコト即チ恢復期病者養生

正誤——十五頁八行 「一被保者タルベキ義務アルモノ」 以下改行ノ事

明治四十年五月二十日發行 國家醫學會雜誌第二四一號附錄 (第四)

所へ無料ニテ收容セラルハヲ得ルコト

以上ハ保險負擔ノ擴張ノ事項ニシテ其ノ負擔ヲ擴張スルカ又ハ保險掛金ノ額ヲ減少スルニ就キテハ各保險所任意ノ撰定ニ由ル但シ何レモ餘剩金額ノ増多シタル場合ニ行フ者ナリ

之レニ反シテ左ノ場合ニ於テハ負擔ノ範圍ヲ縮小スル者トス

- 其一 被保者一ケ年間繼續シテ救濟ヲ受ケ其後猶ホ同一ノ疾病ノ再發ニ由テ更ニ救濟ヲ要スルキハ其ノ救濟期限ヲ十三週ニ縮小ス
- 其二 次ノ場合ニ際シテハ休養金ノ一部若クハ全部ヲ給與セサルモノトス

- 一、被保人カ公權ヲ剝奪セラルヘキ刑事被告人トナリタルトキハ一ケ年間又
- 二、被保人カ故意ニ因テ爭鬪或ハ亂醉シテ疾病又ハ外傷ニ罹リタルトキハ其ノ疾病及ヒ外傷ノ全癒スル迄休養金ヲ給與セサルモノトス

其三 市町村立保險所以外ノ者ハ其ノ被保人カ他ノ任意保險所ヨリ休養金ヲ得タル際ニ自個ノ負擔スル休養金ト合シテ普通勞銀ノ額以上ニ達スルトキハ其ノ勞銀額迄ニ減小スルヲ得其他各保險所ハ被保ノ權利者ニ對シテ被保後六ヶ月後ニ於テ初メテ負擔スル規定ヲ設クルヲ得

第六 保險金ノ釀出及ヒ保險加入金

保險金ノ釀出ハ雇傭ノ關係アル者ハ雇主モ其ノ一部ヲ負擔スルコトハ已ニ總論ニ述ヘタリ而シテ其ノ方法ハ勞銀支拂ノトキ其ノ勞働者ノ負擔スル部分ヲ差引キ自個ノ分ト合シテ保險所ニ拂込ム者トス又被保人カ雇傭ノ關係ナクシテ獨立ナルトキ又ハ被保人タルヘキ權利ヲ有スル者及ヒ任意ニ保險スル者ハ其ノ釀出額ノ全部ヲ自ラ負擔スル者トス

釀出金額ハ市町村立ノ保險所ニ在テハ其救濟負擔ノ程度ノ輕小ナルヲ以テ從テ其釀出金額モ亦多カラズ即チ普通勞銀ノ百分ノ一半乃

至百分ノ三ト定メ雇主ハ其三分ノ一勞働者ハ三分ノ二ヲ釀出スル者トス區工場土木業及同業組合等ニ於テ設立スル保險所ノ掛金ハ勞銀ノ百分ノ四半乃至百分ノ六ヲ徵收ス而シテ雇主ト勞働者ノ負擔割合ハ一ト三トス鑛山保險所ノ負擔及釀出金ハ前記ノ諸保險所ト同一ナリトス但シ雇主ト勞働者ノ負擔割合ハ相方同額トス任意保險所ノ釀出金額ハ其定款ニ規定シ地方廳ノ認可ヲ請クヘキ者ニシテ法律ノ規定ナシ又獨立ナル被保人、被保ノ權利者及任意保險所ノ被保人ハ二回以上繼續シテ保險掛金ヲナササルハ被保ノ效力ヲ失フモノトス

市町村立ノ者ヲ除キテ他ノ保險所ハ新ニ加入スル被保者ニ對シテ加入金ヲ徵收スルヲ得但シ其額ハ保險掛金ノ六週間分以上ヲ超過スルヲ得ス而シテ加入金ハ被保者自身ノ負擔スルモノニシテ若シ加入者ニシテ雇傭關係アルトキハ雇主カ一時之ヲ立替置キ勞銀ノ内ヨリ漸々差引ク者トス一ノ保險所ニ新ニ加入スル者カ已ニ他ノ保險所ニ在リテ三週以上被保人タルトキハ別ニ加入金ヲ出スノ義務ナシ又雇

備ノ關係ナキ者カ其加入金ヲ一時ニ支拂フカ又ハ數次ニナスカハ定  
款ノ定ムル所ニ由ル

遭難保險

## 第二章 遭難保險 Unfallversicherung

遭難保險ノ意義

### 第一 遭難保險ノ意義

遭難保險ハ勞働者保險ノ一部ニシテ勞働者カ就業中不慮ノ災害ニ  
遭遇シ外傷ヲ負ヒ又ハ死亡シタル際ニ於テ傷者又ハ遺族ニ對シ救濟  
ヲ爲スヘキ方法ヲ定規シタルモノナリ

起原及沿革

### 第二 起原及沿革

歐洲ニ於ケル工業ノ發達ニ伴フテ之レニ從事スル勞働者カ蒙ルヘ  
キ危険ノ度モ亦著シク増加シタルコトハ實際ノ經驗及ヒ統計ノ證明  
スル所ニシテ殊ニ大工場及ヒ交通機關等ニ於テ最モ甚シク而シテ其  
器械的及ヒ化學的ノ災厄ニ遭フテ收入ノ一部若クハ全部ヲ喪失シ又  
ハ死亡スル者愈多キヲ加ヘタリ然ルニ是等遭難者ハ元ヨリ豫メ遭難

際ニ備フヘキ除裕トテモナキハ勿論ナリ然ルニ工業界ニ於テハ世  
界の競争ノ熱度愈昂上シ從テ勞働者ノ需要益加ハリ其業ニ熟シ職ニ  
堪ユル者ナリヤ否ヲ質スノ邊ナク直チニ拉致シテ業ヲ執ラシメ又一  
方ニ於テハ工場主ハ成ルヘク生産費ヲ減少セント欲シテ災厄ヲ豫防  
スヘキ裝置設備等ニ怠リ爲ニ勞働者ノ不慮不測ノ災害ニ遭フ者日一  
日ヨリ多キヲ加ヘ終ニ工業界ヲシテ一ノ修羅場ニ變セシム今其光景  
ノ慘憺タルコトヲ豫想センカ竦然トシテ膚ニ粟ヲ生スル者アラン茲  
ニ於テカ災厄豫防及ヒ遭難賠償必要ノ聲ハ四方ニ喧傳スルニ至レリ  
(災厄豫防ノ設備ニ關スルコトハ工業行政ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ省  
略ス)事態此ノ如クナルヲ以テ獨逸國ニ於テハ民法中ニアル損害賠償  
ヲ修訂シ一千八百七十一年左ノ賠償法(Haftpflichtgesetz v. 1871)ヲ發布シ  
タリ其法文ニ曰ク(一)鐵道ニ由テ外傷ヲ負ヒ又ハ死亡スルニ際シ其原  
因カ天災及ヒ自個ノ過失ニ非サルヲ證明スルトキハ其損害ハ鐵道  
營業者ニ於テ賠償スルモノトス(二)鑛山工場等ニ於テ外傷ヲ負ヒ又ハ



死亡シ、且ツ其原因カ鑛業者又ハ工場内職員等ノ過失ニ由ルトキハ其所有主ニ於テ損害ヲ賠償ス、而シテ甲ハ羅馬法ノ損害賠償法、乙ハ佛國ノ法律(Cod. civil. § 1384 參照)ニ基キタル者トス故ニ此損害賠償法ニ由テ勞働者カ蒙リタル災厄ノ幾分ヲ賠償セラルルヲ得ルナリ、然レトモ是レ畢竟机上ノ空文ニ過キサリシ、如何トナレハ其過失ノ何人ニ屬スルカヲ判明スルコト甚タ困難ナルトキ又勞働者自身カ其不注意及ヒ不測ノ際ニ生スル災害ニ對シテハ共ニ賠償金ヲ受クル能ハサレハナリ、又假令雇主カ賠償ノ義務ヲ負フモノトスルモ民事訴訟法ノ規定ニ準ヒ之ヲ法廷ノ審判ニ訴ヘサルヲ得ス、而シテ其裁判ノ終結迄ニハ幾多ノ時日ヲ要シ、其期間ハ負傷シタル勞働者ハ救濟ヲ受クルノ途ナク、死亡者ノ遺族ハ保護ヲ得ヘキ所ナシ、甚シキニ至テハ不慈悲ナル雇主ハ裁判ノ結了期間ヲ成ルヘク長ク延サント欲シ初審ノ裁判ニ服セサル爲テシテ逐次高級ノ裁判所ニ控訴スルヲ以テ、原告タル勞働者ハ其訴訟手續ノ煩勞ト其期ノ延長ニ苦シミ必然勝訴ニ歸スヘキモノモ、終ニ

和解ヲ申告シテ極メテ僅少ノ償金所謂涙金ナルモノヲ得テ、恨ヲ咽ンテ雇主ニ屈服スルニ至ル、嗚呼勞働者ノ境遇モ亦惘然ナル哉

一千八百八十一年勞働者保險ニ關スル勅諭ノ發セラルルヤ、此遭難ヲモ保險スルノ必要ヲ認メラレ、一千八百八十四年六月初メテ遭難保險法ヲ發布シ、其後數回ノ改正ヲ歷テ一千九百年現今ノ制定ヲ見ルニ至リタリ、此制規ノ大要ヲ列擧スレハ左ノ如シ、(一)各種ノ災害ハ其原因ノ如何ニ係ハラズ、勞働者カ就業中ニ蒙リタルトキハ之ヲ賠償ス、(二)而シテ此賠償ハ雇主カ全部負擔スル者ナリト雖モ雇主個人カ之ヲ爲スニ非ラス、同種類又ハ類似ノ工業者ヨリ成立シタル法人、即チ保險組合、ノ負擔スルモノトス、(三)負傷後直チニ此賠償ヲ受クルヲ要セス、負傷後ハ先ツ疾病保險所ニ於テ治療手當ノ救濟ヲ受ル者トス、(四)而シテ其賠償額ノ輕少ニ過クル意見ヲ有スルトキハ、手数料ヲ要セスシテ直チニ工業仲裁裁判所若クハ帝國保險局ニ其審判ヲ請求シ得ルナリ

見ルヘシ立法者カ如何ニ勞働者ノ便宜ヲ計リテ此條例ヲ制定セシ

遭難統計

カヲ故ニ此法發布以後ハ労働者間ニ於ケル歎聲モ漸ク其跡ヲ絶チ、各其業ヲ勵ミ其職ヲ勉ムルニ至リタリ。獨逸國カ僅々三十年前後ニシテ其商工業カ著シキ隆興ヲ呈シタルハ、其原因固ヨリ種々アリト雖モ、此等社會的政策モ亦大ニ與リテカアルヲ知ルヘキナリ。此遭難保險法ニ由テ民法中ノ賠償法ハ著シク其適用ノ範圍ヲ縮小シ、今日ニ於テハ只(一)遭難保險ノ被保者ニ非サル者例ヘハ工場巡視 Fabrikinspektor カ偶然工場内ニアリテ職務執行中、突然汽罐ノ破裂シテ負傷シタル場合ノ如キ又(二)遭難保險組合ノ被保險者ニシテ、他ノ保險組合ノ工場ニ於テ遭難シタルトキ、例ヘハ電氣工場ノ労働者カ所用アリテ機械工場ニ在リテ遭難シタルトキ等ニ賠償スル者トス。斯ル場合數多アレトモ何レモ民法ニ屬スル者ナレハ茲ニ略ス。

第三 遭難統計 Unfallstatistik

遭難統計ノ目的ハ遭難ノ原因及ヒ結果ヲ明ニシ一ハ以テ災厄豫防ノ講究ニ一ハ遭難ノタメニ支出スル費額負擔ノ正確ナル分配ニ好箇

遭難定率

遭難等級

ノ材料ヲ提供ス、故ニ災厄豫防及ヒ遭難定率ハ此統計ノ結果ニ據ラサルヘカラス、而シテ災厄豫防 Unfallverhütungノ統計ニ就キテ最モ必要ナルコトハ、工業ニ使用スル材料ヲ列擧シ及ヒ負傷ノ種類輕重等ヲ分類スルニアリ、此結果トシテ、器械工業ニ於テ災厄ニ罹ルモノ最モ多ク、而シテ負傷ノ種類ハ切傷、挫傷、骨傷等多數ヲ占ム。又統計ニ由テ各種ノ工業ニ於テ災厄ヲ蒙リタル労働者ノ數及ヒ輕重ノ度ヲ明ニス、而シテ其多數ノ負傷労働者ヲ出ス工業又ハ死亡者或ハ重傷者ヲ出ス者ハ其數ニ從テ遭難融出金額ノ負擔ニ種々ノ等差アリ、之ヲ名ケテ遭難定率 *Gefahrenariff* ト云フ。此定率ハ保險組合總會ノ決議ニ基キ帝國保險局ノ認可ヲ得タル者ナリ、又労働者カ蒙ル災厄ノ程度ニ從テ遭難等級 *Gefahrenklasse* ヲ設ク、而シテ負擔ノ割合ノ多少ハ此等級ニモ亦關係スルモノトス、例ヘハ茲ニ化學製品工業ノ保險組合アランニ、其中ノ火藥工場ノ労働者ハ石鹼工場ノ夫レヨリモ災厄ニ罹ルコト多キカ故ニ、甲ハ遭難定率、遭難等級共ニ乙ニ比シテ上位ニ在リテ負擔割合モ多キカ如シ

第四 工業遭難保險 Gewerbenfallversicherung

此保險ハ主トシテ大ナル工業ニ適用スル者ニシテ手工業及ヒ自家工業ノ如キ者ハ之レニ屬セス、而シテ此大工業ハ獨リ個人ノ營爲スル者ノミニ止マラス鐵道、郵便、電信、海軍、陸軍等ニ於ケル官營ノ事業モ之レニ屬ス、而シテ此保險ニ屬スル被保人ハ左ノ如シ

法律上ノ被保人

- 一、 法律上ノ被保人 ニシテ次ノ營業ニ従事スル者
  - 其一 大規模ノ工業ヲ營ム者(鑛山業、礦業及ヒ器械工場ニ従事スル者)
  - 其二 建築及ヒ建具工業ニ従事スル者、其他釀造、化學工業、鍛冶匠、烟突及ヒ窓戶掃除業、屠獸及ヒ賣肉業者
  - 其三 鐵道、郵便、電信、陸海軍ノ經理部ニ従事スル者
  - 其四 通運及ヒ交通業ニ従事スル者
  - 其五 倉庫及ヒ荷物取扱ニ従事スル者
- 以上ノ職業ニ従事スル勞働者ハ勞銀ノ額ニ係ハラヌ被保ノ義務ヲ

定款上ノ被保人

有シ、其他ノ者ハ一ケ年三千馬克以下ノ所得アル者ニ限リ此法律上ノ被保人タルヘシ、而シテ此法律ニ適用スル工場ノ意義ハ汽力其他風水等天然力及ヒ電力、獸力等ノ原動力ヲ永久使用シ、十人以上ノ勞働者ノ就職スル工業ヲ云フ、然レトモ爆裂物ヲ製産スル工業ハ前記ノ規定ニ該當セサル者ト雖トモ工場ト做ス

又此遭難保險ハ被保人カ本業ニ従事セスシテ、雇主ノ爲メニ他ノ勞働ニ従事シタル際ニ災厄ニ罹リタルトキモ亦救濟ヲ受クル者トナス、例ヘハ建具職ニ従事シタル職人カ雇主ノ求メニ應シテ其住宅ノ建具修繕ノ際、或ハ荷馬車ノ御者カ雇主ノ爲メニ其乗用ノ遊散馬車ヲ御シタル際ニ遭難シタル場合ヲ云フナリ

- 二、 定款上ノ被保人 ハ次ノ如シ
  - 其一 一ケ年三千馬克以下ノ所得アル工業者ニシテ平常三名以下ノ勞働者ヲ使用スル者
  - 其二 自家工業者

遭難保險負擔者

其三 三千馬克以上ノ所得アル者

其外定款ニ因テ前記ノ工業ニ從事シ被保ノ義務ナキ者、又ハ工業ニ從事セス時々工場其他ノ營業場ニ出入スル者、其他保險組合ノ役員等ニ對シテ任意保險ヲ規定スルヲ得、但シ前記一二ノ場合ハ工場主又ハ雇主末記ノ者ニ於テ組合ノ經費ヨリ掛金ヲ支拂フ者トス

三、遭難保險負擔者

政府獨特ノ事業(交通、海、陸軍)ニ關スル遭難ノ保險ハ政府自ラ之ヲ負擔施行シ、又民業ト同一ナル官營ニ關シタルモノ、例ヘハ浚渫、山林、農業(牧畜)、鑛山等ハ民設ノ組合ニ其委員ヲ加入セシム、又公共團體カ營爲スル者ノ保險ハ團體自個ニ於テ施行ス、然レモ地方廳ニ於テ團體カ其負擔ニ堪ヘサル者ト做ストハ、他ノ組合ヲ加入セシメテ其負擔ヲ確實ニスルナリ、此ノ如ク政府、團體共ニ組合ニ加盟セサルハ、各自一定ノ委員ヲ設ケテ之ヲ施行セシメ、其定款ニ代ユルニ保險施行細則ヲ設ク、民業ニ於テハ此ノ保險ヲ負擔スルタメニ、一箇ノ機關ヲ設置ス名ケ

保險組合

テ保險組合 Berufsgenossenschaft ト云フ

Berufsgenossenschaft ナ正譯スルトキハ同業組合ナリ、然レトモ已ニ Innung ナ同業組合ト譯シタルヲ以テ、其錯雜ヲ防クガ爲メニ保險組合ト譯シタリ、要スルニ此組合ハ専ラ保險相互ノ負擔ヲナス爲メニ政府ノ命令ニ由テ設ケタル者ニシテ「インメンク」ノ如ク小工業ノ發達進歩ヲ謀ル等ノ者ニアラサレバ、保險組合ト譯スルモ亦大過ナカラシム

其一 保險組合ノ組織

此組合ハ雇主ヨリ成立スル法人ニシテ、前記ノ職業ヲ營ム者ノ中ヨリ同一又ハ類似ノ營業者カ一地方ヲ區劃シテ、其區域ヲ定メ、地方廳ヲ經由シテ、聯邦議會ノ認可ヲ得ル者トス

其二 保險組合ノ機關

保險組合ノ機關ハ役員及總會ニシテ甲ハ總會ニ於テ之ヲ選舉シ組合ヲ代表シ一切ノ責任ヲ負ヒ通常無給ノ名譽職ニシテ、其就任ノ拒絕ニ對シテハ、民法ノ後見人拒絕ノ條項ヲ準用ス、而シテ總會ハ其區域内ニアル組合員全部ヨリ成立ス、然レトモ其人員多數ナルトキハ委員ヲ

保險組合ノ機關

保險組合ノ組織

組合ノ解散

選舉スルモ妨ケナシ、而シテ此總會ノ重ナル任務ハ役員改撰計算ノ調査及承認、及ヒ定款ノ變更トナス、又時宜ニヨリ其組合區域ヲ小分シテ支部 Section ヲ設置シ、其事務ヲ掌理セシムルコトアリ、又此總會ニ於テ勞働者カ蒙ルヘキ災厄ノ程度ヲ考量シテ、遭難等級及ヒ之レカ爲メニ支出スル救濟金(遭難定率)ヲ定ム、而シテ此定率ハ帝國保險局ノ聽許ヲ得サレハ效力ナシ

其三 組合ノ解散

保險組合ニシテ支出不能ナルトキハ、其地方廳ヨリ帝國保險局ニ上申シ、同局ヨリ聯邦議會ニ移牒シテ其解散ヲ命ス、而シテ其組合員ハ各自他ノ組合ニ加入ス、又解散ヲ命セラレタル組合ノ法律行爲ハ帝國又ハ聯邦政府ノ規定ニ準ス

其四 組合ノ分合

數多ノ組合相合シテ一個ノ組合ヲ形成スルコトアリ、或ハ之レニ反シ甲地方ノ同業者カ其組合ヲ離レテ、乙地方ノ組合ニ合スルコトアリ、

組合ノ分合

遭難保險ノ負擔

此場合ニ於テ若シ甲地方ノ組合ノ存在ヲ危クスルノ慮アルトキハ、認可セサルモノトス、又甲組合ノ一部ノ同業者カ其組合ヲ離レテ、乙組合ニ加入セントスルニ際シ、乙ノ組合カ之レヲ拒絶スル場合(救濟負擔ノ支出著シク増加スルカ爲メ)ニハ、聯邦議會特ニ委員ヲ設ケテ之レヲ裁斷ス、其他數個ノ組合ノ一部宛各自ノ組合ヲ脱シ、新タニ一ノ組合ヲ設立スルコトアリ、何レモ此等ノ分合ニ對シテハ聯邦議會ノ認可ヲ得サルヘカラス

四 遭難保險ノ負擔

保險ノ負擔トハ勞働ノ際ニ負傷シ又ハ死亡シタル被保者ニ對スル損害賠償ヲ云フ、然レトモ此災厄カ故意ニ由テ爲サレタルトキハ、賠償ヲ要求スルコトヲ得ス、而シテ此賠償ニ二種アリ

其一 負傷ニ對スル賠償

此賠償ハ其所屬ノ疾病保險所ニ於テ救濟ヲ負擔ス、如何トナレハ、此遭難被保者ハ盡ク疾病被保者ナレバ其重傷ニ非サル者モ盡ク遭難保

負傷ニ對スル賠償

險組合ニ於テ救済スルトキハ、其目的タル診療、投薬、休養金等ハ疾病保  
險ト同一ナレハ、茲ニ二箇ノ機關カ同一ノ救済ヲナスノ煩ヲ免カレス、  
故ニ其輕傷ノモノニシテ十三週以内ニ治スル外傷ノ負擔ヲシテ疾病  
保險所ニ委任シタルナリ、故ニ疾病保險所ノ被保人ハ其掛金ニ因テ疾  
病及輕傷ヲモ共ニ保險シタル者ト做スヲ得ヘシ、又他ノ理由ハ今假ニ  
十三週ヲ疾病保險所ニ於テ救済スルトナスモ、被保者ノ最大部分ヲ有  
スル獨逸全國ノ工業者カ此ニ保險ニ支出スル割合ハ、疾病保險ニ百分  
ノ十六ニシテ遭難保險ニ百分ノ八十四ナリ、故ニ猶此上ニ遭難保險ノ  
救済全部ヲ遭難保險組合ニ於テ負擔スルトキハ、工業者ノ支出増加シ、  
爲メニ製産費ヲモ増額セサルヲ得ス、其結果獨逸カ他國トノ競争上ニ  
多少ノ困難ヲ感スヘキヤノ疑ヒナキ能ハス、故ニ朝野當局者ノ妥協ニ  
由テ此ノ如ク規定シタルナリ、而テ遭難者ハ遭難後四週ハ疾病保險所  
ノ定款ニ定メタル額ヲ受領スレトモ、第五週ヨリ十三週ニ至ル間ハ一  
ケ年平均勞銀一日分ノ三分ノ二ヲ負傷賠償トシテ給與セラル、故ニ此

保險所休養金ノ定額以上ニ屬スル分ハ雇主ヨリ補充ス若シ又負傷者  
カ被保ノ義務ナキ者ナルトキハ、雇主自ラ十三週救済シ其程度ハ前記  
ノ賠償ト同一ナルヲ要ス、又定款ニ規定シタル高給ノ所得アル被保權  
利者ノ負傷シタル際ニハ、十三週間ハ自個又ハ任意保險所ニ保險シア  
ル者ハ同所ニ於テ救済ヲ負擔ス  
此故ニ保險組合ノ負擔ハ専ラ死者又ハ十三週以上ヲ經過シタル負傷  
者ニ對スルモノニシテ診療、投薬ノ外全ク業ヲ執ル能ハサル者ニハ遭  
難賠償金トシテ一ケ年平均勞銀ノ百分ノ六十六ト三分ノ二ヲ給シ、多  
少勞銀ヲ取得スル者ハ其不足ヲ補充シテ普通勞銀ニ達セシム、又入院  
治療ヲナス者ハ入院料ノ外家族アル者ハ之レニ死亡者ノ遺族ト同額  
ナル救済金ヲ與フ而シテ十三週後ト雖モ疾病保險所ハ遭難保險組合  
ノ申請ニヨリ、負傷者ノ全癒スル迄救済ヲ負擔スルヲ得、然レトモ其費  
用ハ組合ヨリ辨済スヘキ者トス、又之レニ反シテ十三週以内ニ於テ保  
險組合ハ其負傷者ノ一切ノ救済ヲ引受クルコトヲ得、此場合ニ於テハ

死亡ニ對スル賠償

疾病保險所ハ自個ノ支出スヘキ休養金ヲ保險組合ニ支拂フモノトス又治癒後ト雖モ遭難ノ爲メ全ク業ニ就ク能ハザルモノハ勞銀ノ三分ノ二又多少ノ勞銀ヲ得ル者ハ其程度ニ從テ多少ノ補助ヲ受クルヲ得ルナリ

其二、死亡ニ對スル賠償

被保者カ就業中遭難シ其結果死亡シタルトキハ埋葬料トシテ一ケ年勞銀ノ十五分ノ一ヲ一時ニ給與ス然レトモ五十馬克ヲ最低限トス又其寡婦及ヒ孤兒共一年勞銀ノ二十分ノ一ヲ受領ス但シ寡婦ハ毎年前顯ノ賠償額ヲ終身孤兒ハ滿十五年ニ至ル迄毎年受納ス又死亡者ニ尊屬者アリテ死亡者ノ勞銀ニ因テ生活シ全ク他ヨリ救濟ヲ受クル能ハサル者ハ他ノ遺族ト同一ナル救濟ヲ受ク然レトモ救濟金ノ總額ハ勞銀ノ百分ノ六十ヲ超ユルコト能ハス故ニ遺族ノ數多キトキハ從テ各自ノ配分モ亦少額ナルコト勿論ナリ又妻女カ勞銀ヲ得テ其家族ヲ養テ良人ハ他ニ收入ノ途ヲ得サル場合ニ於テ其妻女死亡スルトキモ亦

賠償ノ確定

其遺族ハ前ト同一ナル救濟ヲ受ク其他寡婦カ再緣スルトキハ亡夫一ケ年勞銀ノ百分ノ六十ヲ得再緣後ハ救濟ヲ受ケス

五 賠償ノ確定

此遭難賠償ハ疾病保險ノ救濟ト異リ其負擔額多大ナルカ故ニ受領スヘキ賠償額ニ就キテ被保者ト組合トノ間ニ意見ノ衝突スルコト屢アルヲ以テ充分ニ之ヲ確定セサルヲ得ス之ヲ賠償ノ確定ト云フ而シテ雇主ハ其勞働者カ負傷シタル際其治癒ニ三日以上ヲ要スヘキ者ト認ムルトキハ其他ノ警察署ニ届ケ出ツヘク若シ又負傷ノ治癒十三週以上ヲ要スヘキトキ又ハ負傷ノ爲ニ死亡シタルトキハ其定款ニ定メタル確定委員(通常警察官組合ノ役員疾病保險所ノ役員醫師工業視察官等ナリ)ノ審判ヲ要ス若シ遭難者此審判ニ不服ナルトキハ仲裁裁判所(Schiedsgericht)ニ再審ヲ求ムルヲ得又其事件ノ重大ナルトキ(例ヘハ永久救濟ノ如キ)ニ限リ帝國保險局ヘ訴フルヲ得ル者ナリ而シテ此確定ノ手續ハ被保者ニ對シテ其勝敗ニ係ハラヌ無料トナス而シテ此確定ハ

可成速カニ執行シ被保者ヲシテ一日モ早ク救済ヲ受クルノ便ヲ得セシムルハ勿論ナレトモ、避難者及ヒ遺族等ハ其審判ノ結了迄ニ一定ノ金額ヲ前拂ニ受領スルヲ得ルナリ

六 避難保險金ノ釀出

此釀出ハ雇主ノミ之ヲナシテ、勞働者ハ出金セス要スルニ此保險ハ元來雇主ノナスヘキ民法上ノ損害賠償法ノ變形シタル者ナレハナリ、而シテ此釀出ノ法ハ繰替法 *Umlageverfahren* ニシテ、保險組合ノ通知アル毎ニ其金額ヲ其地ノ郵便局ニテ立替支拂ヲナシ、一年ノ終リニ於テ其總額ヲ保險組合ニ通知スルナリ、組合ハ此總額ニ其他ノ經費及ヒ法定積立金等ヲ加算シテ、避難定率ノ比例及ヒ支拂フヘキ勞働ノ高ニ按排シテ各組合員ヨリ釀出セシム、又組合ノ財産保管ハ民法ノ規定(千八百六條ヨリ八條)ニ據ルコト勿論ナレトモ、官廳ノ認可ヲ得テ其半額ハ勞働者ニ利益ヲ與フル事業ニ投資スルヲ得、此ノ如ク勞働者ハ此釀出ニ預カラサルカ故ニ組合員タルノ權利ナキ者トス

七 避難豫防

前ニモ言ヘル如ク具體的ノ豫防法ハ行政法ニ屬スルヲ以テ、只茲ニハ如何ニ其規定ヲ制定スルカヲ聊カ記述スル所アラントス、而シテ此規定ハ獨リ私設ノ工業ニノミ準用セラル、者ニシテ、官設ノ事業ハ別ニ當該官廳ノ定メタル規定ニ據ル  
保險組合ハ避難ノ程度ヲ輕減スルノ目的ヲ以テ、避難豫防規則ヲ調製シ帝國保險局ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルヲ得ル者ニシテ若シ其所屬ノ工業家カ此規則ニ定メタル豫防ノ設備ヲナサ、ルトキハ、一千馬克迄ノ罰金ヲ科スカ、又ハ組合役員ノ決議ニ依リ避難等級ヲ上ホスヘク又工業家カ已ニ最高ノ避難等級ニアルトキハ猶割増金ヲ科スヘシ、又勞働者カ此規則ニ違反スルトキハ六馬克ノ罰金ヲ科ス而シテ此一千馬克迄ノ罰金ハ獨逸刑法第三百六十七條第十四項ニ準シテ裁判所ニ控訴スルヲ得ルナリ  
此豫防規則ハ組合役員ト其組合所屬ノ工業ニ従事スル同數ノ勞働者



ヲ委員トシテ其原案ヲ起草シ之ヲ總會ノ議ニ附ス若シ起草ノ際意見衝突シテ決セサルトキハ帝國保險局官吏ノ臨席決定ヲ乞フヘシ而シテ此勞働者ノ委員ハ勞働者中ヨリ撰擧ス

此規則ノ施行ヲ確實ニナシ及ヒ遭難定率等ノ正常ナルカヲ慥メル爲メニ保險組合ハ技術家ヲシテ各工業家ニ就キテ視察ナサシメ又組合ハ工業家ノ届出テタル勞働者ノ數及ヒ勞銀等カ實際ト符合スルヤ否ヤヲ質ス爲メ事務員ヲシテ右ニ關シタル帳簿書類等ヲ検査スルヲ得而シテ此視察人ハ其視察ノ實況ヲ帝國保險局及ヒ政府ヨリ任命シタル工業視察官ニ報告スルモノトス若シ此組合ノ視察人ト工業視察官トノ間ニ意見ヲ異ニスルトキハ組合ハ其理由ヲ上級ノ工業視察官ニ申告ス

### 第五 農林業遭難保險

農林業ハ地方ニ由テ其狀態ヲ異ニシ從テ此遭難保險法モ帝國ニ一貫スル法律ヲ以テ定ムル能ハス故ニ各聯邦ニ於テ例外ノ細則ヲ規定シ

タル者頗ル多シ然レトモ其精神ニ至テハ工業遭難ト同一ナリ今其異ナル所ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、被保者ノ範圍ハ農林業及ヒ園藝ニ屬スル勞働者及ヒ小營業者ニシテ其條件ハ工業遭難被保者ト同一ナリ

二、保險負擔者モ亦工業保險ノ夫レノ如ク一地方ヲ限リテ組合ヲ設ケ而シテ多クハ行政區ヲ以テ組合ノ區域トナス然レトモ此農林業ノ保險組合ハ次ニ述フル如ク救濟負擔上地方行政廳又ハ公共團體ト關係ヲ有シ且ツ職業ノ性質上一地方ノ行政區ヲ以テ一區域トナスヲ以テ總會ノ決議ニ由リ組合ノ事務ノ一部若クハ全部ヲ其區域ノ行政廳又ハ團體ニ委任スルヲ得ルナリ而シテ此際役員ノ任務モ共ニ委任スルヤ又ハ役員ハ組合ト委任行政廳又ハ團體トノ間ニ介在シテ事務ノ進行ヲ圓滑ナラシムルヤハ總會ニ於テ決ス

三、保險ノ負擔モ少シク前者ト異ナル所アリ

其一、工業保險ニ於テハ負傷者ハ遭難後五週ヨリ勞銀ノ三分ノ二

定期労働

ヲ賠償金トシテ受領スレトモ農林業ニ於テハ此事ナシ要スルニ農林業ノ労働者ハ多クハ雇主ノ家ニ起臥シ且ツ都會ト異ナリ生活費モ低廉ナルニ由ル者ナラン

其二、元來農業労働者ハ工業労働者ノ如ク不絶同一ノ業ヲ執ル能ハス農林業閑散ナル場合ニハ他ノ業ニ就キ労働シテ賃銀ヲ得ル所謂定期労働 Saisonarbeit ナレハ此労働者ノ一年労働ノ計算ハ農林業以外ノ労働ニ由テ得タルモノヲモ加算ス然レトモ此労働ニ由テ蒙リタル災厄ニハ農林業保険組合ハ其救済ヲ負擔セス

其三、工業保険ニヨレハ工業ニ従事スル労働者及被保ノ義務アル者ハ法律上ノ疾病被保人ナレハ遭難後十三週ハ疾病保険所ニ於テ救済スルハ勿論ナレトモ此農林業ノ労働者及ヒ其他ノ下産者ハ定款上ノ疾病被保義務アル者ナルカ故ニ若シ定款ニ於テ此労働者其他ノ者ニ對シテ疾病保険ヲ規定セサルトキニ於テ災厄ニ罹リ遭難スルトキハ其後十三週即チ遭難賠償期ニ至ル迄ノ救済ハ居住地ノ公共團體ニ

海上遭難保険法

於テ負擔スル者トナス又農業ニ往々見ル處ノ物品ヲ以テ勞銀ヲ支拂フ如ク物品ヲ以テ賠償スル場合少カラス此ノ如キ變更ハ總會ノ決議ヲ經ルモノトス

其四、保險金ノ釀出ニ就キ地方農業ノ状態ニ由テ工業保険ノ如ク施行スル能ハサルトキハ組合ノ決議ニヨリ地租割ヲ以テ集金スルヲ得又災厄ヲ生セサル農業ニシテ労働者ヲ最モ稀レニ使用スル者ハ釀出金ノ額ヲ減シ又ハ全ク免除スルヲ得

第六 海上遭難保険法 Seemannsversicherung

一、被保者ノ範圍

- 一、自國ノ船舶ニ乘リ航海業ニ従事スル者即チ水夫、火夫、給事人其他ノ乗組員ニシテ給料又ハ勞銀ヲ受領スル者
- 二、航海業ニ従事セスシテ自國ノ船舶ニ乘リ領海内ヲ航行スル者
- 三、自國ノ浮船渠其他類似ノ設計ニ従事スル者、水先案内者、難破船救済ニ従事スル者、航路ノ安全ヲ保ツ爲メ點燈又ハ警戒ニ従事スル者

其外海上ノ荷役勞働業ニ從事スル者

以上ノ被保人ニシテ海上就業中ニ生シタル災厄、天災等ニ由テ死亡シ又ハ負傷シタルトキハ、救済ヲ保障ス、其他猶海上遭難者タルヘキ業務ナルヤ否ヤノ疑アル者ハ、聯邦議會ニ於テ決定ス、又被保者カ本業ノ外ニ雇主其他ノ依頼ニ因リ他ノ業又ハ難船救助ニ從事中災厄ニ罹リタルトキニモ救済ヲ受ク

此項ニ規定シタル海上航行トハ、灣内及ヒ港内等ノ舟行ヲモ總稱スルモノナレトモ、河川ノ舟行ハ、縱令海ト連續シタル者ト雖モ、此制定ニ適セスシテ工業遭難保險及ヒ農林業遭難保險(甲ハ運輸乙ハ河川漁業)ニ屬ス

就業時間トハ航海業ニ在テハ航海中ハ勿論、其前後ニ於ケル荷役ノ時間ヲモ含ム者トス、又甲ノ船舶ニ就業スル被保人カ偶々自國ノ國旗ヲ掲揚シタル乙ノ船舶ニ在テ就業中、災厄ニ罹リタルトキ、又被保者ニシテ或ル事情ノ爲メ(難船又ハ漂流等ニ由テ)他ノ自國ノ船舶ニ由テ本

國ニ還送セラル、際ニ生シタル災厄ニ對シテモ亦救済ヲ保障ス、以上ハ即チ就業中ニ生シタル災厄ヲ舉ケタル者ニシテ就業外ノ遭難トハ左ノ事項ヲ指ス者ナリ

其一、就業時間中認可ヲ得スシテ所屬ノ船舶ヲ退去シタル時ニ生シタル遭難

其二、許可ヲ得テ上陸中ニ蒙リタル災害

其他被保者範圍ノ(一)ニ屬スル義務及ヒ權利ハ商法及ヒ海員條例ノ規定ニ由ル

又航海業者以外ノ就業時間トハ即チ海上就業中ノ時間ヲ云フナリ、前項述ヘタル者ハ法律ヲ以テ強制的ニ被保人タラシムル者ニシテ、此外ニ保險組合ノ定款上獨立シテ業ヲ營ム水先案内者及ヒ其他ノ海上營業者ハ自個ノ遭難ヲ組合ニ就キ保險スルヲ得、其他定款ニ由テ次記ノ者ヲモ保險スルヲ得ルナリ即チ被保人ノ範圍ニ屬セサル者ニシテ年收三千馬克以内ノ者及ヒ海上營業者ニ非スシテ海上營業上ニ出

海上遭難保險負擔

入シ、又ハ船舶ニ通航スル者等ナリ

此保險法ニ於テモ亦他ノ保險法ニ於ケル如ク收入金ノ額ニ從テ被保人ヲ制限ス即チ海上營業者ニシテ一ケ年ノ收入三千馬克以內ノ者ニ限ルコト、ナス、此項ニ所謂船舶乘組員ノ一ケ年收入トハ政府ニ於テ制定シタル各乘組員一ケ月平均收入ニ十一ヲ乘シ猶ホ船中ノ食料其他ノ賄料トシテ其五分ノ二ヲ加ヘタル者トス其他此所得以外常ニ一定ノ收入アルモノハ之ヲ加算スルナリ又一定ノ收入ヲ算定スル能ハサルトキハ一等水夫 Vollmatrose ノ平均收額ノ四分ノ三トナス且ツ日給ニ由テ就業スル海上労働者ノ收入額一日平均勞銀ノ三百倍トナス、然レトモ其勞働ノ性質上三百日ヨリ多ク或ハ少ナク就業スルトキハ一日平均勞銀ニ一ケ年ノ就業日數ヲ乘シタル者ヲ一ケ年ノ收入額トナス

二 海上遭難保險負擔

工業遭難保險法ニ於テハ遭難者ハ最初十三週間ハ所屬ノ疾病保險

遭難救濟ノ方法及賠償金

所ニ於テ救濟セラル、規定ナレトモ疾病保險法ノ制定上海員即チ船舶乘員ハ疾病保險ノ義務ナク、海員條例第四十五條及ヒ第四十九條ニ由テ傷病等ノ際ニ於テ救濟ヲ受クル者ナリ、而シテ此條ニ由レハ船舶乘員(高級乘員ヲ除ク)ハ其就業中負傷シ或ハ疾病ニ罹ルトキハ船主其治療及其他ノ手當ヲ負擔ス、而シテ其期限ハ船舶航海ノ都合ニヨリ三ケ月ヨリ六ケ月トナス、又商法第五百三十三條ニモ亦同一ノ規定アリ、故ニ海上ノ遭難救濟ハ工業遭難救濟ノ如ク此船主救濟ノ終リタル後即チ三ケ月又ハ六ケ月後ニ於テ負擔スル者トス

三 遭難救濟ノ方法及賠償金

此方法及賠償金等ハ工業遭難ノ際ニ於ケル者ト異ナル所ナケレハ繁ヲ除カンカ爲メニ再述ヲナサス、只此所ニハ此遭難ニ固有ナル者ヲ叙述スルニ過キス

被保者カ遭難ノ際未タ一ケ年就業セサルヲ以テ一年ノ收入額不定ニシテ賠償金ノ額ヲ定ムルコト能ハサルトキハ、遭難者ノ就業以前ノ

所得高ニ從テ算定シ、否ラサレハ遭難當時ノ所得ヲ一位トシテ一年ノ收入額ヲ定ムヘシ、又所得少ナキ乗員カ遭難ニ際シテ賠償金ヲ受クルトキハ、其額ハ十七年以上ノ者ハ準水夫 *Vollmatrosen* 又十九年以後ノ者ハ通常水夫 *Vollmatrosen* ニ準定シタル收入額ノ割合ヲ以テ計算シ、又日給勞銀ヲ得ル者ニシテ十六年以上ノ者ハ普通勞働者ノ勞銀ノ割ヲ以テ算定ス

海上勞働者ニシテ疾病保險ノ被保人タルトキハ、遭難後疾病保險所ニ於テ十三週間救濟ヲ負擔シ、其第五週ヨリ休養金ヲ増加スル等ノ規定ハ工業遭難保險ト同一ナリ、然レトモ一ケ年ノ收入二千馬克以下ノ海上勞働者ニシテ疾病保險ノ被保者ニモ非ス、又海員條例ヲ適用スル能ハサル者ガ遭難シタルトキハ、雇主ハ十三週間ノ救濟ヲ負擔セサルヘカラス、而シテ此救濟ハ船舶乗員ニ在テハ海員條例第四十八條ノ規定ニ據リ、又他ノ勞働者ニ於テハ工業遭難保險ノ定ムル所ニ準シテ施行セラル、者トス且ツ保險組合ハ此雇主ノ支出ノ幾分ヲ負擔スヘキ

コトヲ其定款内ニ定ムルコトヲ得ルナリ

遭難者ノ負傷ガ十三週以内ニ治癒シタルヲ以テ疾病保險所ニ於テ其救濟ヲ停止シタル際ニ於テ、遭難者ハ其負傷ノ結果トシテ十三週後ニ至ルモ收入ヲ減少シタルトキハ、保險組合ハ其救濟停止ノ日ヨリ其減少シタル額ヲ補給ス、此補給ニ對シテ相方意見ヲ異ニシタルトキハ内地ニ於テハ海員局 *Seemannsamt* 又海外航行中ノ時ハ最寄ノ自國領事ニ就キテ判定ヲ乞ヒ、若シ此判定ニ不服ナルトキハ帝國保險局ニ再審ヲ乞フヘシ

被保者カ死亡シタル場合ニ遺族ガ受領スヘキ遭難賠償金ノ額及ヒ其遺族ノ種類等ハ工業遭難保險ノ規定ヲ準用セリ、然レトモ海上ノ遭難ニ際シテハ往々屍體ヲ發見スル能ハサル時アルヲ以テ、猶ホ次ノ條目ヲ設ケタリ、即チ被保者ノ乗組ミタル船舶カ沈没スルカ又ハ商法第八百六十二條ニ由リ行衛不明ト認定セラレ、被保者モ共ニ溺没シタル者ト決シタルトキハ、其遺族ハ死亡者ノ遺族ト同一ナル救濟ヲ受ク、此

際組合ハ其遺族ニ對シテ正規ノ宣誓ヲナシ以テ溺沒者ヨリ他ノ通信  
ナキコトヲ證言セシムルコトヲ得而シテ其賠償ハ船舶沈沒又ハ行衛  
不明ト決定セラレタル日ヨリ支拂フ者トス然レドモ若シ此遭難者ノ  
生存ヲ證明シ得ルトキハ其爾後ノ救濟ヲ停止ス

四 海上遭難保險負擔者

此負擔ヲナス者ハ他ノ遭難保險ノ如ク保險組合ナリ而シテ此組合員  
ハ自個ノ費用ヲ以テ營業スル航海業者及ヒ船主ニシテ其營業開始ト  
共ニ強制シテ組合員タラシム又組合員中新ニ船舶ヲ増加スルトキハ  
船籍登錄局 Schiffregisteramt ヨリ其組合役員ヘ通知シ又新ニ開業スル者  
アルトキハ其開業者ハ地方廳ノ認可ヲ要シ同廳ハ直チニ其認可ノ旨  
ヲ組合役員ニ通知シ以テ遺漏ヲ防ク廢船廢業ノ際ニモ申告ヲナスコ  
ト前ニ同シ而シテ工場ト船舶トハ其性質大ニ異ナルヲ以テ此組合員  
ノ組織モ他ト同一ナラサル所アリ即チ一ノ船舶ニシテ多數ノ所有者  
ニ屬スルトキハ其所有者中ヨリ一ノ組合員ヲ定ム又一ノ船舶カーノ

所有者ニ屬シ且ツ其所在地カ碇繫港 Heinhaven ニアラサルトキハ碇  
繫港ニ住居スル者ヲ代理者トナス而シテ此組合員中ヨリ釀出スル金  
額ノ割合ハ船舶乗員ノ被保者ノ數及定款ニ掲ケタル遭難等級及遭難  
定率ニ準據ス而シテ此等級及定率ハ每五年ニ於テ其期間ニ生シタル  
遭難ノ程度ニ從ヒ向後ノ者ヲ定ム又總會ニ於テ船舶ノ被リタル遭難  
ノ程度ヲ參酌シ前記ノ期間内ニ釀出金ノ割合ヲ變更増減スルコトヲ  
得ルナリ

五 遭難申告及ヒ遭難検査

特ニ危険ナル航海又ハ荷役ニ對シテ定款上釀出金ノ割増ヲ定ムル  
コトヲ得ルナリ此際總會ハ割増ヲナスヘキ定則此割増ニ適切ナル事  
實ノ申告及ヒ確定ニ關スル規則ヲ制定シ帝國保險局ノ認可ヲ經ヘシ  
航海中災害ニ罹リ乗員中ニ死亡者ヲ出シ又ハ三日以上ノ負傷休業  
ヲナスヘキ者ヲ生シタル時ハ其最寄ノ海員局又外國ナレハ自國ノ領  
事ニ照知スヘシ又船舶カ自國ノ港内ニ在テ出帆ノ前後ニ於テ前記ノ

災難ニ遇フトキハ船長ハ其海員局又ハ警察署及ヒ組合ニ届ケ出ツハ  
シ若シ災難ノ場所カ碇繫港ニ非ラサルトキハ届出ヲ受ケタル官署ハ  
其旨ヲ碇繫港ノ官署ニ移牒ス又航海業ニ非サル被保者カ同一ノ災厄  
ニ罹リタルトキハ雇主或ハ其代理者ヨリ前同様ニ届ケ出ル者ナリ  
遭難ノ検査ハ届出後可成速ニ海員局若シクハ警察署カ次ノ件ニ就  
キ施行ス(一)遭難ノ原因(二)死亡若クハ負傷者ノ數及其原因(三)負傷ノ種  
類(四)死亡者又ハ死亡者ト見做スヘキ(行衛不明)者ノ遺族又ハ負傷者ノ  
家族ノ數身分其他トス又此ノ検査ニ際シテハ負傷者遺族組合ノ役員  
等ヲ證人又ハ參考人トシテ招喚シ又事件ノ判セサルモノハ鑑定人ヲ  
招致スルヲ得ルナリ而シテ此検査ノ結了シタルトキハ検査官ハ謄本  
ヲ作り成ルヘク速ニ保險組合ニ送付スヘシ又此検査カ外國ニ於テ施  
行スヘキ場合ニハ船長ハ其最寄ノ領事館ニ就キ領事立會ノ上二名ノ  
最上席船員其他信任スヘキ委員ヲ定メ宣誓ノ上検査ヲナシ其結果ヲ  
成ルヘク速ニ所屬ノ組合ニ報告ス

賠償額ノ確定

六 賠償額ノ確定

遭難検査ノ結果トシテ組合カ賠償ノ義務ヲ有スルトキハ遭難者遭  
難死亡者又ハ行衛不明者ノ遺族ニ對シテ工業遭難保險ニ同一ナル賠  
償ヲナスヘキ旨ヲ通知ス而テ此通知ハ一定ノ書式ヲ有スル料紙ヲ用  
ヒ之レニ賠償ノ高賠償ノ種類ヲ記入シ且ツ收入不能ノ遭難者ニ與フ  
ル通知書ニハ其收入不能ノ程度ヲ記ス而テ此ノ賠償受領者ハ其通知  
後二週間(外國ニ航海ノ者ハ歸港後)地方廳ニ受領者タル事ヲ届ケ出ツ  
ヘシ又此賠償額ヲ請取ルニハ通知書ニ所定ノ郵便局ニ就キ通知書ヲ  
示シテ領收スヘシ  
長期ノ航海中遭難ヲ生シ海員條例所定ノ救濟期限ヲ經過スルモ全  
治セス又ハ全治スルモ收入ノ幾分ヲ減少スル場合ニ於テ船舶ハ猶ホ  
航海ヲ繼續スルトキハ船長ニ於テ假ニ適當ノ救濟又ハ賠償ヲナシ碇  
繫港ニ歸着ノ上所屬ノ組合ニ保險事務ヲ引キ渡シ其假ニナシタル救  
濟及ハ賠償ノ金額ヲ組合ニ請求シ死亡者又ハ行衛不明者ヲ生シタル

賠償ニ關スル爭議  
ノ判決

時ハ其旨ヲ組合ニ通知スヘシ組合ハ此等ノ保險事務ヲ引キ繼キタル  
後遭難賠償ヲナスヘキ旨ヲ被保者及ヒ遺族ニ通知シ其他ノ手續ヲナ  
スコト前ニ記シタルカ如シ若シ此際組合ニ於テ引繼ヲ承諾セサルト  
キハ帝國保險局ノ決定ヲ乞フヘシ

七 賠償ニ關スル爭議ノ判決

若シ組合カ遭難賠償ノ義務ナシト主張シ又ハ賠償額ヲ僅少ニ確定  
シ及ヒ其他ノ救済ノ方法ニ就キテ被保者ト意見ヲ異ニスル時ハ組合  
所在地ニ屬スル仲裁裁判所ニ就キテ審判ヲ求ムヘシ而テ其期限ハ被  
保者カ歐州ニ在ルトキハ一ヶ月以内又歐州外ニアルトキハ三ヶ月以  
内ニ於テスヘシ而テ仲裁裁判所ハ審判ノ結果被保者ノ要求ヲ至當ト  
スルトキハ賠償額及ヒ賠償スヘキ時期ヲ決定ス又若シ要求ノ至當ヲ  
認ムルモ其額及時期等ノ決定ハ帝國保險局ノ詮議ヲ要スル場合ニハ  
仲裁裁判所ハ假ニ若干ノ賠償額及ヒ時期ヲ定メ帝國保險局ノ審判ノ  
後正確ノ額及ヒ時期ヲ通知シ其假支出ノ分ハ正確ノ額ヨリ計算セシ

賠償額ノ變更

ム此際保險組合又ハ賠償受領者カ仲裁裁判所ノ決定ヲ不當ト認ムル  
トキハ一ヶ月以内(歐州以外ノ者ハ三ヶ月以内)ニ於テ地方又ハ帝國保  
險局ニ就キテ再審ヲ求ムルヲ得ルナリ但シ此場合ニハ永久收入不能  
及ヒ死亡ニ對スル賠償ノ件ニ限ルモノトス  
多數ノ保險組合ニ保險ヲナスヘキ義務アル營業ニ於テ遭難者ヲ生  
シタル時ハ其救済及賠償ハ組合各箇ニ於テ分擔ス若シ其分擔額ニ於  
テ各自意見ヲ異ニシ又ハ分擔ヲ肯ンセサルトキハ帝國保險局ニ於テ  
之レヲ決定ス

八 賠償額ノ變更

賠償額ヲ確定スルニハ固ヨリ充分ノ調査ヲナシ將來豫想シタル狀  
態ノ變更ナキヲ期スルハ勿論ナレトモ猶其狀態カ賠償額確定當時ノ  
豫想ノ如クナルヤ否ヤヲ檢スルノ必要アリ這ハ賠償受領者ヨリ特ニ  
請求ナキ者ハ二ヶ年ノ後之レヲ檢シ若シ變更アルトキハ從テ賠償額  
ヲ改ム而テ此變更トハ遭難者ノ狀態及ヒ遺族ノ狀況(例ヘハ孤兒ハ一



賠償金受領ノ停止  
及一時賠償金

定ノ年限ニ達シ賠償受領ノ權利ヲ棄却シタルカ如キノ變更ヲ言フナ  
 リ、又二ケ年ノ後ハ毎年検査ヲナシ、五年ノ後ニ於テ若シ検査ノ必要ヲ  
 生スルトキハ、仲裁裁判所組合ニ代テ之レヲ行フ、故ニ若シ此検査ニ基  
 ケル賠償額ノ改定ニ同意シ難キトキハ、五年以前ナレハ仲裁裁判所ニ  
 又五年以後即チ同裁判所カ自ラ改定ヲ施行スル場合ニハ、地方廳又ハ  
 帝國保檢局ニ就キテ審判ヲ乞フヘシ

遭難者負傷後死亡スルトキハ、遺族ハ其賠償金請求ノ爲メ所屬ノ保  
 險組合及ヒ地方廳ニ届ケ出ツヘシ

九 賠償金受領ノ停止及ヒ一時賠償金

次ノ事項ニ該當スル者ハ其期間中賠償金ヲ受領スルヲ得ス

一、一ケ月以上ノ自由刑ノ宣告ヲ受ケタル者及ヒ其他感化院懲治  
 場等ニ收容セラレタル者

二、外國ノ軍艦ニ使用セラレタル者

三、外國ノ船舶ニ使用セラレテ、外國ニ住居シ組合ニ其居所ノ通知

六

保險金ノ釀出

海上遭難豫防

ヲ忘リタル者

賠償金最高額ノ十五プロセント以下ヲ受領スル被保人ハ、其希望ニ  
 依リ一定ノ賠償金(通常三ケ年分)ヲ一時ニ支給シ、同時ニ賠償ノ關係ヲ  
 取り消スヘシ、但シ此支給ヲ得タル者ハ、其後如何ナル場合ニ於テモ賠  
 償額増加ヲ請求スルヲ得ス、又一時賠償額ニ對シテ同意セザルトキハ  
 仲裁裁判所ニ判決ヲ乞フヘシ

十 保險金ノ釀出

此項ハ工業遭難保險ト同一ナレハ省略ス

十一 海上遭難豫防

此項モ亦工業遭難豫防ト大體ニ於テ同一ナリ、今其少シク異ナル所  
 ヲ舉レハ左ノ如シ

一、保險組合ニ於テ定メタル遭難豫防ノ設備ヲ船舶ニ施スヘキコ  
 トヲ忘ルトキハ、船主及ヒ船長共各百馬克ノ過怠金ヲ海員局ヨリ徴セ  
 ラル、ナリ、若シ此過怠金徴收ニ不同意ナルトキハ、船主及ヒ船長ハ二

七

小船及漁船ノ海上  
遭難保險

過以內ニ若シ出帆間際ニアルトキハ歸港後二週以內ニ海員局ノ監督  
官廳ニ控告スヘシ

二、保諸組合ハ遭難豫防規則ノ謄本ヲ其所在地ノ高級地方廳及全  
國ノ海員局ニ差出スヘシ又海員局ハ此規則ヲ實行シ居ルヤ否ヤヲ檢  
スルタメ時々船舶ヲ視察ス

十二 小船及漁船ノ海上遭難保險

前ニ述ヘタル者ハ専ラ大洋ヲ航行スル大船舶ニ準用スヘキ規定ニ  
シテ、小船ニ對シテ此法ヲ施行スルコト能ハサル場合少ナカラサルヲ  
以テ、茲ニ小船ニ限り適用スヘキ特殊ノ法ヲ設ケタリ

被保人ノ  
圍

其一 被保人ノ範圍

一、五十立方メートル以下ノ容積ヲ有シ、大ナル船舶ニ附屬セス、汽  
力又ハ他ノ器械力ニ由テ推進セサル船舶ニ乘リテ營業スル者

二、漁業營爲ヲナス船舶ニ乘リ、領海内ヲ航行スル者

三、前記ノ小船ニ乘シ又ハ漁業ヲ營ム雇主ニシテ、二人以下ノ乗員

保險負擔

ヲ使用スルモノハ其使用人ト同シク被保ノ義務アリ

其二 保險負擔

此被保人ニハ海員條例ヲ適用セサルカ故ニ、遭難負傷スルトキハ十  
三週間其所屬ノ公共團體ニ於テ疾病保險ト同一ナル救濟ヲナシ、十三  
週後ニ於テ保險組合ノ賠償ヲ受ク、又被保人カ遠隔ノ地ニ於テ遭難シ  
爲メニ所屬外ノ團體ニ於テ救濟スヘキ必要ヲ生シタルトキハ、其費用  
ハ居住地ノ團體ヨリ辨濟ス、又此救濟ノ件ニ付キ團體ト被保人トノ間  
ニ意見ヲ異ニスルトキハ地方廳ニ判決ヲ求ムヘシ

被保者遭難ノ結果死亡シ土葬スルトキハ埋葬料トシテ一日分勞銀  
ノ二十倍ヲ給シ、水葬スル者ニハ之ヲ給セス(此規定ハ航海業ノ被保者  
ニモ同一ナリ)但シ此額ハ五拾馬克ヲ最低限トナス

其三 保險負擔者

保險負擔ハ保險組合ノ内ニ別ニ小船遭難保險所ノ一部ヲ設ケテ其  
事務ヲ處理シ、且ツ組合ト此保險所トハ其出納ヲ全ク區別シ前記被保

保險負擔者

保險金ノ釀出

人ノ外ハ一切保險スルヲ許サス

其四 保險金ノ釀出

保險金釀出ノ額ハ帝國保險局ニ於テ五年毎ニ向後ノ各保險所ノ額ヲ計上シ其釀出ヲ各保險組合所屬ノ沿海町村ニ命ス而シテ此町村ハ自個ノ區域内ニ住居スル被保人ノ數ニ從ヒ按分定率ノ法ニ由テ其額ヲ定メ其半額ヲ町村ニ於テ負擔シ他ノ半額ヲ前記小船及漁船乗員ノ雇主ヨリ募集シ組合ニ納付ス又乗組人カ親子ナルトキハ其親ヨリ出金セシム

此保險金釀出額ヲ不當ト認ムルトキハ帝國保險局ニ訴フヘク又釀出ニ附隨スル爭議ハ地方廳ニ上申スヘシ

因ニ言フ此海上遭難保險ハ他ノ遭難保險ニ比シテ其記事ノ冗漫ニ亘ルモ顧ミス細述シタリ要スルニ日本ハ四面環海ノ國ナルカ故ニ海上ノ業ニ從事スル者多ク又此等海上營業者遭難ノ報ニ接スルコトモ又極メテ頻繁ナリ而シテ之ニ備フルモノハ只僅カニ仁者義人ノ淨財喜捨ニ由テ成ルモノアルノミニシテ之ヲ普ク救済スヘキ完全ナル設備ナシ海運事業ノ愈々

囚人遭難手當

被救濟人ノ範圍

救濟負擔者

益々發展セントスル今日此缺陷アリ豈遺憾ナラスヤ故ニ茲ニ獨逸國ノ海上遭難保險ヲ細述シ以テ外國ニ於ケル這般ノ救済法カ如何ニ發達シタルカヲ紹介セント欲スルノ微意ニ出テシノミ

第四 囚人遭難手當 *Gefangenenunfallfürsorge*

此手當モ他ノ遭難救濟ト殆ント同一ナリ故ニ其大略ヲ記スヘシ

一 被救濟人ノ範圍

被保人ハ囚人及ヒ官公立ノ懲治場等ニ收容セラレ遭難保險ニ規定シタル業務ニ従事スル者

二 救濟負擔者

救濟負擔者ハ其囚人ノ服役スル聯邦ノ政府トス又長ク數多ノ囚人ヲ使用スルモノハ當該官ト特ニ契約ヲナシテ遭難救濟ノ一部若クハ全部ヲ負擔スルコトアリ  
遭難検査ハ典獄又ハ懲治場長之ヲ施行シ負傷者ハ放免後モ此遭難ノ爲メニ收入ノ幾分ヲ減スルヤ否ヲ決定ス而シテ賠償額ノ確定ニハ

調査委員ヲ設ク、又此調査ハ遭難後直ニナスコトアリ或ハ便宜上放免ノ際ニナスコトアリ、且ツ其賠償額ノ變更ニ於テモ検査ノ上之ヲ決定ス、又遭難者遺族若クハ囚人雇主カ賠償額ノ確定ニ不服ナルトキハ監督官廳ニ再審ヲ乞フヘシ

三 遭難救濟負擔

此負擔ハ自餘ノ遭難保險ノ如シ、只此際ニハ長官ノ撰擇ニ由テ病室ニ收容スルカ、又ハ病室外ニ於テ療養セシム、又此遭難者カ收入ノ幾分ヲ減スルトモ服役中ハ賠償ヲ受ケシテ放免後之ヲ受領ス而シテ其額ノ單位ハ其服役ヲナシタル地方ノ勞銀ノ高ヲ以テ定ム、又死亡シタル者ハ其死亡一ヶ月後ヨリ賠償金ヲ受領ス而シテ賠償受領者ハ其寡婦及孤兒ニ限ルモノトス、遭難負擔ノ額ハ他ノ遭難者ニ對スル者ト同一ナリ、只茲ニハ其最高額ヲ定メ遭難者ハ一ケ年三百馬克遺族ハ同シク二百七十馬克以上ヲ受領スル能ハス、其地賠償金ノ一時支拂ノ如キ或ハ金員ノ支出ハ最寄ノ郵便局ニ於

テスルカ如キ、盡ク他遭難保險法ト同一ナリ

第三章 老廢保險 Invalidenversicherung

第一 起原

獨逸國ニ於テハ一千八百八十三年ニ於テ疾病保險法ヲ、又一千八百八十四年ニ於テ遭難保險法ヲ發布シタリ、是レニ據テ勞働者及ヒ其階級ニアル細民ハ疾病ニ罹リ、又ハ就業中負傷シタルトキハ、過失ト否トニ係ハラズ、無料ノ診療ヲ得猶一定ノ金額ヲ受領ス、又遭難死亡者ノ遺族ハ終身又ハ一定時賠償金ヲ得ルナリ、然レトモ細民ノ健康異常ニ由テ生スル勞銀收得不能ヲ救濟スル機關ハ此二法ノミニテハ完全シタルモノトナスヘカラス、如何トナレハ此疾病遭難ノ外猶年齒高老ニ達シ或ハ慢性難治ノ疾病ニ罹リ、收入ヲ減スル者アレハナリ、又况ンヤ此種ノ窮民最モ多數ヲ占ムルニ於テオヤ、故ニ高老及廢疾者ヲ救濟セサレハ社會的保險モ鼎ノ一足ヲ缺キタル者ト一般其完成ヲ期スヘカラ

寡婦孤兒保險

此故ニ獨逸政府ハ孜々トシテ之レカ制定ニ勉メ、千八百八十八年其大要ヲ公布シ、翌年(千八百八十九年)一月政府議案トシテ國會ニ提出シ千八百九十一年ヨリ施行セラレタリ、然レトモ此法ハ他ノ二法ノ如ク單純ナル者ニ非サルカ故ニ施行上衝突スヘキ點少ナカラス、故ニ爾來多大ノ改正補修ヲ歷テ、千九百年一月ヨリ現今ノ法ヲ實施スルニ至レリ、茲ニ於テカ獨逸獨特ノ社會的三大保險ハ漸ク大成ヲ告クルニ至レリ、然レトモ這ハ細民即チ勞働者自個ノ健康異常ニ直接起因スル經濟上ノ損害ヲ掖濟スル機關ニシテ時代ノ要求ハ之レノミヲ以テ満足セス、猶ホ勞働者死亡ノ後所得ノ途全ク絶エ貧ニ迫リ、餓ニ泣ク、此憐ムヘキ遺族ヲ救恤スルハ(遭難死亡者ノ遺族ニ對スル救濟ハ賠償金受領法ニ由テ規定シアレハ之レヲ除ク)社會政策上最大緊要ナリトシテ、目下其草案ノ制定中ナレハ、必スヤ近キ未來ニ於テ寡婦孤兒保險 *Witwen- und Waisenversicherung* トシテ發布セラル、ニ至ルヘシ

趣意

第二 趣意

老廢保險トハ一定ノ年齢ニ達シタル者又ハ慢性難治ノ疾病ニ罹リ(遭難保險ニ由テ賠償金ヲ得ル者ハ除ク)身體又ハ精神ノ異常ヲ呈シ、健康時ニ收得シタル勞銀ノ三分ノ二以上ヲ減少シタル者ニ對シテ、終身適當ノ救濟ヲナス機關ヲ云フ

第三 被保人ノ範圍

此ノ被保人ノ範圍ニ入ル者ハ甚タ許多ニシテ、勞働者及ヒ之レニ準スル者ハ勿論、其他通例ノ雇人教員等ヲモ藉テ被保ノ義務ヲ負ハシム、故ニ現今被保人ノ數實ニ一千三百萬ヲ算ス、此被保ヲ分チテ三種トナス、即チ義務的的被保、任意被保及ヒ保險繼續等ナリ

一 義務的的被保者 ハ左ノ如シ

- 其一 勞働者、工業ノ助手、徒弟、使用人ニシテ勞銀又ハ給料ヲ得ル者
- 其二 工業技術家、工業ニ關係スル吏員、商業使用人、公吏及ヒ私立會社員、教員及ヒ教養者 *Erzieher* 其他ノ雇人ニシテ一箇年二千馬克以下

義務的的被保者

被保人ノ範圍

ノ所得アル者

其三 獨逸船舶ノ乘員ニシテ、一箇年二千馬克以下ノ所得アル者  
以上列舉シタル者ハ盡ク雇傭ノ關係ヲ有スル者ニシテ、滿十六年ヨ  
リ被保ノ義務アリ、然レトモ其職業上、實際獨立業者ナルカ又ハ被雇者  
ナルカノ判明セサル者アリ、例ヘハ他ニ雇ハレテ洗濯ヲナストキハ雇  
傭ノ關係上被保人ナレトモ、自身ノ家ニアリテ他人ノ依頼ニ應シ代償  
ヲ得テ洗濯ヲナス者ハ獨立業者ナリ、故ニ此類ノ保險ニ於テハ其本業  
カ獨立業ニ非サル者ヲ被保者トス

此ノ被保人中、次ノ條件ニ該當スル者ハ被保ノ義務ナシ

其一 本人ノ申告ニ據リ被保ノ義務ヲ免カル、者

- (一) 政府公共團體及ヒ其他ノ者ヨリ初級ノ勞銀(後ニ詳ナリ)以上ニ  
相當スル恩給扶助料ヲ受クル者及ヒ遭難保險組合ヨリ同一ノ勞銀  
以上ニ相當スル賠償金ヲ受領スル者
- (二) 年齢七十年以上ノ者

- (三) 一ヶ年五十日以内ノ被雇勞働ヲナシ其他ハ獨立ノ業ヲ營ム者
- 其二 法律上被保者トナラサル者

(一) 已ニ廢疾者ト認定セラレタル者

(二) 官立學校ノ教員及ヒ教養者ニシテ第五級勞銀(後ニ詳ナリ)ニ相  
當スル恩給扶助料ヲ受クヘキ資格アル者

(三) 公吏其他法人ノ役員及ヒ私立學校教員ニシテ(二)ト同一ナル資  
格ヲ有スル者

(四) 自個修學中ノ餘暇ヲ以テ他人ヲ教育シテ報酬ヲ得ル者

任意保險

義務的被保者ノ範圍ニ在リテ一ヶ年二千馬克以上三千馬克以下ノ  
所得アリ年齢四十年以下ニシテ廢疾者タラサル者ハ隨時任意保險ス  
ルヲ得ルナリ

三 保險ノ繼續及ヒ復新

被保者カ生活上ノ結果トシテ被保義務ヲ脱スルトキハ(即チ使用人

保險ノ繼續及復新

老廢保險負擔者

カ獨立業者トナリタルトキ又ハ婢女カ嫁婚シタルトキノ如キ猶ホ保險ヲ繼續スルヲ得又之レカ爲メニ一時停止シタル保險ヲ隨時復新スルヲ得ルナリ此ノ二箇ノ場合ニ於テハ何レノ勞銀等級ヲ撰ブモ妨ゲナシ

第四 老廢保險負擔者

老廢保險負擔者ハ即チ老廢保險所十一頁九行ニ保險局ト記セシハ誤ナリニシテ分テ二種トナス

甲種老廢保險所

一、甲種老廢保險所 *Versicherungsanstalt* ハ獨全國ニ三十一箇所アリ其内普滯西國ニ十三(内五箇所ハ他ノ聯邦ト共同ス)巴威理ニ八箇所其他ノ大ナル聯邦ニハ各一箇所又自由市及ヒ小聯邦ハ合同シテ各一箇ノ老廢保險所ヲ有シ各自其區域内ニ勞働スル被保ヲ保險スルナリ

甲種保險所ノ組織ハ大體ニ於テ疾病保險所保險組合ト同一ナリ今其異ナルモノヲ舉グレハ次ノ如シ保險所ノ事務ハ官吏、公吏及ヒ定款ニ定メタル同數ノ雇主及ヒ被保者ヨリ成立シタル役員之ヲ施行ス又

老廢救濟所

總會ハ雇主及ヒ被保者ヨリ撰舉シタル各自同數ノ委員ヨリ成立ス老廢保險所ノ區域ハ前ニ記シタル如ク廣キカ故ニ統率上不便少ナカラス故ニ其事務ノ一部(即チ後段ノ救濟要求ノ當否等ノ判決ノ如キ)ヲ地方廳ニ依托ス然レトモ保險所ノ意向又ハ地方廳ノ事務ノ繁閑ニヨリ其政府ノ認可ヲ得テ支部ヲ設置スルヲ得之ヲ名ケテ老廢救濟所 *Reitenstelle* ト云フ而シテ救濟所ニハ別ニ保險所ヨリ役員ヲ派シテ執務セシム然レトモ地方廳及ヒ保險所共ニ雇主及ヒ被保人ヨリ撰出シタル同數ノ委員若干ヲシテ事務ニ參與セシム

乙種老廢保險所

二、乙種老廢保險所

以上三十一箇所ノ保險所ノ外ニ九箇所ノ老廢保險所アリ這ハ大工業ノ設置スル者ニシテ規模堅實ナル工業ハ自ラ保險所ヲ設ケ其工業ニ従事スル老廢者ヲ保險スルヲ得ルナリ然レトモ負擔及ヒ其他ノ規定ハ甲種ノ老廢保險所ト同一ナラサルヘカラス  
現在ノ乙種保險所ハ帝國及ヒ各聯邦ノ鐵道局其他各地ノ大鑛業ノ

老廢保險負擔

保險所等ニシテ海運業カ保險所ヲ設立スルノ意向アリト雖モ未タ其運ヒニ至ラス

第五 老廢保險負擔

老廢保險ノ負擔ハ(一)廢疾救濟金(二)養老金(三)掛金拂戻(四)廢疾ヲ豫防スル疾病治療トス

廢疾救濟金

一 廢疾救濟金 Invalidrente

救濟金ハ其年齢ニ係ハラズ慢性難治ノ疾病ニ罹リ健康時ノ勞銀ノ三分ノ一以上ヲ收得シ能ハサル者ニ對スル救濟法ニシテ故意或ハ刑法上ノ行爲ニ由テ生シタル廢疾者ハ救濟ヲ受クルノ權ナシ又遭難負傷者ニシテ保險組合ヨリ受クル賠償金額カ廢疾救濟金額ヨリ少キトキハ廢疾救濟ヲ受クルヲ得ルナリ

養老金

二 養老金 Altersrente

養老金ハ被保者カ其收入減少スルト否トニ關セス年齢七十一ニ達スルトキニ於テ受領ス然レトモ被保人カ已ニ其以前ヨリ廢疾救濟金

ヲ受領シタル場合ニハ養老金ヲ受クルヲ得ス  
老廢救濟金ハ元ヨリ終身支給スル者ナレトモ次ノ場合ニハ之ヲ受領スルヲ得ス

- (一) 廢疾者ノ狀態變更シ健康時ノ三分一以上ノ勞銀ヲ所得スルトキ
- (二) 廢疾カ故意ニ由テナサレタルトキ
- (三) 廢疾カ犯罪ノ目的ヲ遂行セントシテ生シタルトキ
- (四) 一ヶ月以上ノ自由刑ノ處分ヲ受ケタルトキ又ハ懲治監等ニ收容セラレタルモノハ其刑期中
- (五) 受領者カ外國住居シタルトキ

掛金半額ノ拂戻

三 掛金半額ノ拂戻

此掛金半額ノ拂戻シヲ受クヘキ者ハ  
(一) 少クモ二百週ノ掛金ヲナシタル婦女ニシテ嫁婚シタルトキ但シ是レ迄老廢救濟ヲ受ケタル者ハ此限リニ非ス



(二) 少クモ二百週ノ掛金ヲナシタル被保者カ死亡シ是迄老廢救濟ヲ受ケサルトキハ其遺族ハ此ノ拂戻シヲ受ク  
(三) 被保者カ遭難ニ由テ老廢救濟金ヨリモ多額ノ遭難賠償金ヲ保險組合ヨリ得タルトキ

四 廢疾ヲ豫防スル疾病治療

疾病ヲ適當ノ時期ニ於テ又適當ノ處置ニ由テ治療シ以テ其廢疾ニ陥ルコトヲ豫防スルコトハ各種ノ救濟中最モ重要ナルコトハ勿論ナリ、然レトモ這ハ老廢保險ノナスヘキ事業ニ非スシテ、事態專ラ疾病保險ニ屬スヘキ者ナルカ故ニ、從來立法者及ヒ政府共ニ之レニ重キヲ置カス、此豫防治療ニ就キテハ、老廢保險所各自隨意ノ行動ヲ取ラシメ、條文ニ規定ヲ設ケサリシ、然レトモ此治療ノ愈必要ニシテ且ツ被保者ヲ救助スルノ効莫大ナルヲ以テ最近ノ改正案ニハ之レニ關スル規制ヲ設ケタリ即テ次ノ如シ

老廢保險所ハ其被保人カ疾病ニ罹リタルトキ、之ヲ等閑ニ附スルト

キハ終ニ廢疾ニ陥ルヘキ旨醫師ヨリ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ適當ノ病院或ハ療養所ニ送致シ治療ヲ施スヲ得、又患者カ疾病被保者タルトキハ治療ノ終了迄疾病保險所ノ負擔ハ老廢保險所ニ於テ之ヲナシ、疾病保險所ハ此際被保人ヘ所定ノ休養金ヲ給ス、而シテ此老廢被保人ハ疾病被保人ニ非スシテ猶扶養スヘキ家族ヲ有スルトキハ老廢保險所ハ平均勞銀一日分ノ四分ノ一ヲ給ス、其他老廢保險所ハ此廢疾豫防上必要ト認ムルトキハ其負擔ノ幾分ヲ被保者所屬ノ疾病保險所ヲシテ其定款ノ規定スル限リニ於テ分擔セシムルヲ得ルナリ、又廢疾救濟受領者ニシテ若シ適當ノ治療ヲ施ストキハ、再ヒ普通ノ收入ヲ得ヘシト醫師ノ認メタルトキハ、同一ノ方法ニ由テ療養スルヲ得ルナリ、但シ廢疾者カ扶養義務者ナルトキハ救濟金ノ本額後ニ詳ナリヲ給ス  
被保者カ此治療ヲ受クルヲ肯セス其結果トシテ終ニ廢疾ニ陥リ收入減少スルトキハ其輕重ニヨリ廢疾救濟ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ廢止ス

肺疾療養所

因に云ふ此共済は各般の共済法中最も有効の者にして此恩澤に由て廢疾に陥るを免かれたる細民頗る多し而して老廢保險所も亦大に茲に見る所あり此救済法をして益完全の域に至らしめつゝあり現今獨逸國內にある肺疾療養所 Lungenhilfsstätte oder Lungensanatorium なる者は團體より設立したる者八十五箇私人の營爲に成る者三十六箇所又小兒の肺疾及び癩癧の療養所五十九箇あり其團體より設立したる者の内二十五箇は老廢保險所か専ら自個の被保人を收容する爲めに建設したる者にして一千九百三年迄に老廢保險所は之れか爲めに實に二千九百十萬馬克を支出したり盛なりと云ふべし。

(Deutsches Central-Komitee zur Errichtung von Heilstätten für Lungenkranke, 1906 及び von der Bürgerl. Genußzige der Sozialpolitik. 參照)

第六 保險掛金、待期、過渡期

保險掛金、待期、過渡期、掛金

一 掛金 Beiträge

保險掛金ハ被保人及び雇者カ毎週ナス者ニシテ掛金ヲナシタル度數及び其額ニ從テ救済金ノ高ニ差等アリ而シテ此掛金ヲナス週ヲ掛

掛金週

金週 Beitragswoche ト云フ又兵役ニ従事シ或ハ疾病ニ罹リ若クハ産褥ニ在リテ收入不能ナルカ爲メニ掛金ヲナス能ハサル者モ掛金ヲナシタル者ト做シテ收入不能中ヲモ掛金週ニ算入ス(後ニ詳ナリ)然レトモ疾病ノ爲メ一ケ年以上掛金ヲナサ、ルトキハ其一ケ年後ハ掛金週ノ内ニ算入セス

此ノ一週掛金ハ被保者ノ一ケ年勞銀收入ノ高ニ應シテ各差等アリ今此ノ勞銀高ヲ分チテ五等トス

初等 一ケ年ノ勞銀高三百五十馬克迄ノ者

二等 一ケ年ノ勞銀高三百五十馬克ヨリ五百五十馬克迄ノ者

三等 一ケ年ノ勞銀高五百五十馬克ヨリ八百五十馬克迄ノ者

四等 一ケ年ノ勞銀高八百五十馬克ヨリ一千五十馬克迄ノ者

五等 一ケ年ノ勞銀高一千五十馬克以上ノ者

被保者ハ多額ノ救済金ヲ得ンカ爲メニ自個ノ勞銀等級ヨリ以上ノ級ニ適スル掛金ヲナスヲ得ルナリ、又如何ナル勞銀等級ニ屬スル被保

待期

者モ兵役又ハ疾病ノ爲メニ掛金ヲナサスシテ掛金週ト做ナサル、場合ハ第二級勞銀ノ掛金ヲナシタル者ト同一ナルヘシ、其他教員及ヒ教養者ハ第四級以下ノ勞銀ニ適スル掛金ヲナスヲ得ス(掛金ノ事ハ後ニ詳ナリ)

二 待期

Wartezeit oder Karenzzeit

被保者ハ一定期保險掛金ヲナシタル後ニ非サレハ救濟金ヲ要求スルコト能ハス、故ニ若シ此掛金期限内ニ於テ廢疾ニ陥リ、若シクハ高老ニ達スルトキハ期限ノ終ルヲ待タサルヘカラス、此ノ期限ヲ待期ト云フ而テ此待期ニ三種アリ

其一 廢疾ニ對スル待期ハ二百週ニシテ、此間掛金ヲナシタル者ハ即テ此時ヲ以テ待期ヲ終リタル者ニシテ、其後廢疾ニ陥リタルトキハ直チニ救濟ヲ要求スルヲ得ルナリ又、百週ノ掛金ヲナシタル者其後職業ノ性質上被保者タラサルトキ尙ホ百週ノ任意保險ヲナストキハ其待期ヲ終ルモノトス、然レトモ百週以下ノ掛金ヲナシタルモノニシテ

過渡期

被保者ノ義務ヲ免カル、者ハ尙ホ其掛金週ト合シテ五百週ノ掛金ヲナサ、レハ待期ヲ終ラス

其二 養老救濟ノ待期ハ千二百週ニシテ此週間掛金ヲナシタル者ニ在テ初メテ待期ヲ經過スル者ナリ

其三 最初ヨリ任意保險ヲナシタルモノハ二百ノ掛金週ヲ待期トナス此待期算定ヲ容易ナラシムル爲メ通常一週一回ノ掛金ヲナスヲ要ス

三 過渡期

Uebergangszeit

高老救濟ノ如キハ其待期頗ル長キカ故ニ本法公布ノ時期ニ於テ己ニ老境ニ近ツキツ、アル者ハ到底其待期終了迄生存スルコト能ハサルヲ以テ此恩惠ニ浴スルヲ得ス、故ニ本法發布ノ際一定ノ年齢ニ達シタルモノニ對シテ特別ノ法ヲ設ケテ其待期ヲ少シク短縮シタリ、即チ本法發布ノ時(一千八百九十九年一月)ニ滿四十年ヲ超ヘタル者ハ其超過シタル年數ニ四十(一ケ年四十週ト概算シテ)ヲ乘シ、其得タル數ヲ通

常養老救濟待期ノ一千二百週ヨリ除去シタル者ヲ以テ過渡期被保者ノ養老救濟待期トナス

今此ノ法文ヲ解説スルニ一例ヲ以テスヘシ、即チ茲ニ本法發布ノ時五十二年ト七週ノ齡ニ達スル者アリトスレハ、其四十年ヨリ超ルコト十一年ト七週ナリ、故ニ此ノ十一年ニ四十ヲ乘シ七週ヲ加フルトキハ  $11 \times 40 + 7 = 447$  週ニシテ、一千二百週ヨリ之レヲ除去スルトキハ七百五十三週トナル、之レヲ過渡期ノ待期トナス

第七 救濟金額ノ算定

救濟金ハ二途ヨリ支出セラル、ナリ即チ一ハ國庫ヨリ支辨スル補助金 Staatszuschuss、二ハ保險所ヨリ支出スル救濟金トス而テ甲ハ一人一ケ年五十馬克ヲ給セラレ乙ハ前ニ掲ケシ勞銀等級ニ從テ各差等アリ之レヲ名ケテ救濟本額 Grundbetrag ト云フ其他廢疾者救濟ニハ其掛金ノ多少ニ應シテ割増金 Steigerungsbeträge ナル者ヲ加算ス而テ前ニモ述ヘタル如ク兵役又ハ疾病中ヲモ通常ノ掛金週ト做シ其兵役ニ從事中ハ二級勞銀ノ掛金ヲナシ其他毎週十二ペニヒノ割増金ヲ加算シ

救濟金額ノ算定

救濟本額

政府ノ支出スル者トス又疾病中ハ掛金割増金共二級ノ勞銀ニ準シ其關係保險所ノ負擔トス

今茲ニ此救濟金額ヲ表示スルトキハ左ノ如シ

養老救濟金一箇年分

勞銀等級

初級	三百五十馬克迄ノ者	六十馬克	國庫補助金	五十馬克
二級	三百五十乃至五百五十馬克	九十馬克	同	同
三級	五百五十乃至八百五十馬克	百二十馬克	同	同
四級	八百五十乃至千五百五十馬克	百五十馬克	同	同
五級	千五百五十馬克以上	百八十馬克	同	同

廢疾救濟金一箇年分

勞銀等級

初級	六十馬克	割増金	國庫補助	五十馬克
二級	七十馬克	同	同	同

三級	老廢救濟	八十馬克	同	八	ペンニヒ	同
四級	ト同一	九十馬克	同	十	ペンニヒ	同
五級		百馬克	同	十二	ペンニヒ	同

此廢疾救濟待期ハ前ニ記シタル如ク二百週ヲ以テ終ル者トシタルトモ實際五百週ヲ以テ待期終了スル者多キヲ以テ救濟金支出ニ際シ五百週ヲ單位ト定ム故ニ二百週ヲ經過シテ已ニ待期滿了ノ者ガ救濟ヲ受クルトキハ猶五百週ニ達スル迄ノ掛金ヲナサザルベカラズ而シテ此掛金ハ畢竟單位補充ノ趣意ニ過ギザレバ最下級即チ六十馬克ニ對スル掛金ヲ一時ニ拂込ム者トス

規則大略此ノ如シト雖モ十六年ノ掛金義務ノ初發ヨリ廢疾ニ陥リ又ハ高老ニ達スル迄ニハ被保險者ノ身上許多ノ變轉アリ從テ勞銀ノ收得一様ナラザルガ故ニ老廢保險ノ掛金モ亦從テ幾多ノ増減アルハ言フ俟タザルベシ而シテ斯ル被保險者ガ救濟ヲ受クルニ際シテハ保險負擔者即チ老廢保險所ハ其ノ各種ノ勞銀ニ對スル救濟額ノ平均數ヲ

算出シテ之ヲ救濟本額トナサザルベカラズ故ニ其ノ算法甚タ複雑ナリ只茲ニハ最モ簡易ナル二三ノ例題ヲ掲テ其概要ヲ示スベシ

甲 一箇年ニ受領スル養老救濟金

若シ老廢被保者ガ七十一歳ニ達スル迄同一ノ勞銀ヲ得テ同額ノ掛金ヲナシタル時ハ前表ニ掲ゲタル養老金ヲ得ルナリ然レドモ勞銀ノ増減アルトキハ各種ノ勞銀ニ對スル救濟金ヲ待期迄ノ掛金週千二百ヲ以テ餘シ平均數ヲ得ルナリ

例ヘバ某勞働者百週ハ初級四百週ハ二級三百週ハ三級三百週ハ四級而シテ百週ハ五級ノ勞銀ヲ得タリトスルトキハ左ノ救濟金ヲ受クルナリ

$$100 \times 60 + 400 \times 90 + 300 \times 120 + 300 \times 150 + 100 \times 180 = 117,500$$

即チ百十七馬克五十ペンニヒナリ猶之レニ國庫補助金五十馬克ヲ加フル時ハ百六十七馬克五十ペンニヒノ養老救濟金ヲ得ルナリ

乙 一箇年分ノ廢疾救濟金

此算定モ其式ハ甲ト同一ナレトモ少シク複雑セリ

第一例前ニモ云ヘル如ク二百週ヲ待期トスレトモ五百週ヲ單位トナスヲ以テ茲ニ五級ノ勞銀ヲ得ル某被保者ガ三百週後廢疾ニ陥リタルトキハ猶ホ二百週ノ補充掛金ヲ要ス而シテ其算定ハ左ノ如シ

$$\frac{300 \times 100 + 200 \times 60}{500} = 84$$

此補充掛金ハ初級勞銀ニ對スル者ト做ス(八十九頁參照)故ニ救濟本額ハ八十四馬克ニシテ猶ホ此上ニ割増金トシテ三百週ニ十二ペンニヒラ乘シ即チ三十六馬克(補充掛金ニハ割増金ヲ附セズ)及ビ國庫補助金ヲ合シテ左ノ如クナル

$$84 + 36 + 50 = 170$$

即チ百七十馬克ナリ

第二例 一被保者アリ百四十九週ハ三等勞銀、五十二週ハ病氣ノ爲メニ實際掛金ヲナサザレドモ保險所ハ二等勞銀ヲ得タル者

ト做シ(八十五頁及ビ八十八頁參照)猶ホ二百九十九週ノ補充掛金ヲ爲ストキハ左ノ如シ

$$\frac{149 \times 120 + 52 \times 70 + 299 \times 60}{500} = 79$$

又割増金ハ

$$149 \times 8 + 52 \times 6 = 15.04$$

之ニ國庫補助金ヲ加ヘテ左ノ如クナル

$$79 + 15.04 + 50 = 144.04$$

即チ百四十四馬克四ペンニヒナリ

以上ハ五百週ヨリ不足ノ場合ニ算定スル者ナレトモ若シ被保人ノ掛金週五百以上ナルトキハ救濟本額ノ算定ニハ其内ノ高級ノ分ヲ五百週丈ケ合算ス即チ左ノ如シ  
被保者ガ六百週ハ三級、百週ハ四級、二百週ハ五級ノ勞銀ヲ得テ九百週ノ後救濟ヲ要スルトキハ左ノ算定ニ據ル

$$\frac{200 \times 100 + 100 \times 90 + 200 \times 80}{500} = 90$$

即チ餘リ三級勞銀ノ四百週ノ分ハ合算セス而シテ割増金ハ掛金全週ヲ合算ス

$$200 \times 12 + 100 \times 10 + 600 \times 8 = 82$$

是ニ國庫補助金ヲ加ヘテ左ノ如クナル

$$90 + 82 + 50 = 222$$

即チ二百二十二馬克ナリ

負擔額ノ按配

第八 負擔額ノ按配

一千八百八十九年初メテ老廢保險法ヲ施行シタル當時ニ於テハ各保險所ハ掛金ノ額ヲ隨意ニ定ムヘキ制規ナリシ然ルニ一千八百九十年頃ヨリ國民ニ移住ノ風盛ニ行ハレ獨逸國ノ東北ニ位スル農業地方(例ヘハ東部普漏西部普漏西二州ノ如キ)ノ壯年者ハ爭テ伯林バンザ<sup>II</sup>地方漢堡ノ在ル地方其他萊因州等何レモ商工業地ニ轉住シテ農業

ニ於ルヨリモ多額ノ勞銀ニ衣食スル者増加シ之ニ反シテ東北ノ農業地方ニハ老朽若クハ病弱ノ者多數ヲ占メリ其結果トシテ農業地方ノ老廢保險所ハ一方ニ於テハ掛金拂込ノ數ヲ減シ一方ニ於テハ此存留シタル者ニ對スル救濟ノ愈多キヲ加ヘ其他ノ移住者ヲ收容スル工業地方ニ於テハ強健勇壯ナル者多ク來集スルヲ以テ老廢ニ對スル救濟ヲ要スルコト甚タ少ナク且ツ人口繁殖ト共ニ掛金拂込ノ數益増加シタリ此ノ故ニ東部普漏西州ニ於テハ老廢保險ノ掛金額ヲ其施行當初ノ時(一千八百八十九年)ヨリモ二倍半若クハ三倍ニ増加スルノ止ムヲ得サルニ至リ之ニ反シテ伯林ノ保險局ニテハ一ケ年間ハ掛金ヲ要セスシテ猶充分ノ剩餘ヲ見ルノ盛況ヲ呈シタリ

事態此ノ如クナルヲ以テ農業地方ノ人士ハ大ニ其不平等ヲ唱ヘ或ハ新聞ニ或ハ議會ニ老廢保險法改正ノ必要ヲ極力主張シタリ帝國政府モ亦茲ニ省ル所アリ同法ニ多大ノ改正ヲ施シ負擔ノ平等均一ヲ期シテ一千八百九十九年改正法ヲ公布シタリ而シテ其根底ヨリ變更シ

タル者ヲ此負擔額按配トナス  
改正法ニ據ルトキハ各保險所ニ任意掛金ノ額ヲ定ムルヲ許サス、一  
千九百年ヨリ一千九百十年マテノ十年間ハ全國ノ老廢保險所ヲ通シ  
テ次ノ定率ニ由ルヘキ者トナシタリ

- 初級ノ勞銀ヲ收得スル者ハ一週 十四ペンニヒ
- 二級同上 二十ペンニヒ
- 三級同上 二十四ペンニヒ
- 四級同上 三十ペンニヒ
- 五級同上 三十六ペンニヒ

又此定率ニシテ猶ホ正當ヲ缺クトキハ十年ノ後是迄ノ事實ニ鑑テ  
改率スル所アルヘシ

此改正法ニ由テ一千九百年一月一日ヨリ各保險所ノ資産ヲ分チテ  
共通資産 Gemeinvermögen 及ト特別資産 Sondervermögen トナシ其比例ハ  
甲ヲ百分ノ四十乙ヲ百分ノ六十ト定ム、而シテ共通資産ハ政府ノ規定

共通資産  
特別資産

シタル方法ニヨリ利殖ヲ謀リ且ツ毎年一定ノ時期ニ於テ元利ノ總額  
ヲ帝國保險局ニ報告ス、又帝國保險局ハ臨時吏員ヲ派シテ其報告ト實  
際ト符合スルヤ否ヤヲ検査スヘシ

老廢保險負擔ノ支出モ遭難保險ノ如ク最寄ノ郵便局ニ於テ其保險  
所ノ報告書ニ由リテ支拂ヒ置キ、一年ノ後老廢保險法施行細則ニ準據  
シテ支拂ヒ明細書ヲ作り柏林ノ帝國郵政廳ニ送致ス、同廳ニ於テハ之  
ヲ一括シタル通知書ヲ作り共ニ帝國保險局ニ送ルナリ、又全國ノ各老  
廢保險所ニ於テモ郵便局ニ通知シテ支拂ハシメタル救濟金ノ支途、項  
目及ヒ其他ニ關シ細則ノ書式ニ據リ明細ナル通知書ニ通テ作り、一ハ  
各自ニ備ヘニハ帝國保險局ニ進達ス、保險局ハ此ノ各種ノ通知書ヲ參  
照シテ次ノ順序ヲ以テ郵政廳ニ納金セシム、(一)先ツ救濟金受領者ニ對  
スル國庫補助金及ヒ兵役中ノ掛金週制増金(八十八頁參照等ヲ合算シ  
之ヲ政府ニ通告ス、(二)各保險所カ負擔シタル救濟本額ノ全部、養老金ノ  
四分ノ三及ヒ疾病中ノ掛金週制増金(八十八頁參照等ヲ合計シ其額ヲ



共通負擔

特別負擔

兼テ届ケ出タル各保險所ノ共通資産ニ對シ按分比例ノ法ニ由テ分擔セシメ郵政廳ニ納金セシム之ヲ共通負擔 Gemeinlast ト云フ (三) 各保險所ハ其所屬ノ救濟要求者ニ對シテ負擔シタル養老金ノ四分ノ一掛金週割増高拂戻金(八十一頁参照)等ヲ自個ノ特別資産ノ中ヨリ郵政廳ニ支拂フ者トス之ヲ特別負擔 Sonderlast ト云フ

此法ニ依ルトキハ救濟金額ノ大部ハ各保險所ヲ通シテ其共通資産ノ高ニ應シテ平等ニ按排スルヲ以テ東北地方ノ如キ被保人少數ニシテ却テ救濟金出支ノ多額ナル保險所ニ在テハ其共通資産ノ高モ少數ナレハ共通負擔ノ按分額モ少許ナルヲ以テ各保險所負擔ノ均一平等ヲ期スルニ於テ遺算ナカラシム

保險金融出ノ方法

第九 保險金融出ノ方法

保險掛金ハ雇主及ヒ被雇者各其半額ヲ負擔シ先ツ雇主ヨリ支出シ置キ勞銀支拂ノ際ニ其被雇者ノ分ノ半額ヲ引キ去ルナリ又被保人ハ自身收得ノ勞銀階級ニ屬スル掛金ヨリ猶高級ノ掛金ヲナスヲ得ルナ

リ然レトモ此場合ニハ其剩餘ノ分ハ自個ノ負擔タルコト勿論ナリ如何ナル場合ニ於テモ凡テ掛金ハ雇主カ其全部ヲ負擔セサルヲ要ス畢竟此ノ社會的保險ハ下産者ヲシテ其保險ノ効用ヲ知ラシメ且ツ自身ノ掛金ヲナシタル代價トシテ必要ニ際シテ應分ノ救濟ヲ受クヘキ權利アルコトヲ自覺セシムルヲ以テ目的トスル者ナレハ雇主カ掛金ノ全部ヲ負擔スルトキハ即チ救濟ヲ贈與スル者ニシテ此保險ノ主意ニ背反スル者ナリ

前ニ言ヘル如ク特別負擔ハ救濟金受領者カ保險セラレタル各保險所ニ就キテ其拂込ミタル掛金ノ額ニ應シテ特別資産ノ内ヨリ郵政廳ニ納金スルヲ以テ受領者ノナシタル掛金ノ全部ヲ一時ニ調査セサルヘカラス而シテ其掛金ハ毎週拂込ミテ少クモ五百回多キハ千三百回ニ達シ而シテ其額モ亦時ニ隨テ同シカラス故ニ之ヲ無造作ニ調査スルニハ數多ノ帳簿及ヒ複雑ナル手數ヲ要シ之ニ充ツル經費モ亦少カラス故ニ此弊ヲ除クカ爲メニ零碎貯蓄ニ使用スル切手貼付法 Mark-

切手貼付法

老廢保險切手

ankleberei ヲ掛金釀出ニ襲因シタリ

一 老廢保險切手 Invalidenversicherungsmarke

老廢保險切手ハ各保險所ニ於テ之ヲ製シ郵便局ニ於テ掛金ト引替ニ交付ス而シテ其種類ハ各掛金ノ種類ト同一ニシテ分テ五種トナシ各特別ノ色ヲ以テ之ヲ區別スルコト郵便切手ト異ナラス又各保險所ニ拂込ミタル掛金ノ額ヲ證スル爲メ保險所毎ニ其切手ノ種類ノ色ヲ異ニス例ヘハ甲ノ保險所ニ於テハ掛金ノ額ノ順序ニ從テ青黃赤綠紫トナシ乙ノ保險所ハ綠赤淡綠其他ノ色ヲ用ユルカ如シ而シテ此保險切手ハ一週ノ掛金ニ對スル者ノ外二週及ヒ十三週ニ對スル者ヲモ製スルヲ得ルナリ

此多週ニ對スル分ハ補充掛金(九十頁參照)ヲナス場合等ニ用ヒテ通常ハ一週ノ者ヲ用ユ又保險所ノ區域内ニアル郵便局ハ其保險所ノ切手ノミヲ交付スルヲ以テ其區域内ニ勞働スル被保人ハ其切手ヲ貼付スルコト勿論トス又被保者カ他ノ區域内ニ轉住スルトキハ其區域内

貼付臺紙

ニ通用スル者ヲ貼付スルヲ以テ何ノ保險所ニ何種ノ掛金ヲ幾週繼續シタルカヲ無造作ニ確定スルヲ得ルナリ

二 貼付臺紙 Quittungskarte

此保險切手ハ郵便切手ノ半折大ノ者ニシテ其表面ニハ掛金ノ額及ヒ保險所ノ區域ヲ白字ニ印ス又貼付臺紙ハ往復端書ノ如キ者ニシテ其内面ニハ縱横ノ線ヲ畫キ之ヲ五十二面ニ小分シ其一面毎ニ切手ヲ貼付ス而シテ外面ノ表ニハ臺紙交付ノ年月日臺紙所有者ノ氏名保險所區域最初ニ保險シタル保險所ノ番號(每保險所ニ番號ヲ附シアリ)及ヒ其區域ヲ明記シ裏面ニハ貼付ニ關スル心得ノ大要ヲ記シ一側ニ臺紙交換ノ時ニ摘要ヲ記スヘキ餘白ヲ設ク

貼付臺紙ハ市村役場若クハ警察署ニ於テ交付スルヲ以テ被保者ハ之ニ就テ其交付ヲ乞ヒ而シテ毎週之ヲ雇主ニ差出スナリ雇主ハ兼テ被保者即チ被雇者ノ掛金ニ相當スル保險切手ヲ買ヒ置キ其都度臺紙ノ五十二小面ノ一部ニ順ヲ追フテ貼付シ切手ノ使用済ノ證トシテ其切手ノ上ニ貼付シタル月日ヲ自署シテ被雇人ニ渡スナリ此臺紙ニハ

切手貼付代理者

五十二週ノ切手ヲ貼付シ得ルヲ以テ凡ソ一箇年ニ一葉ノ臺紙ヲ要スルナリ而シテ此五十二小面ニ盡ク貼付シタルトキハ交付シタル所ニ持參シテ新規ナル者ト交換ス若シ被保人カ病氣兵役及ヒ其他ノ事故ニヨリ貼付ノ月日ニ順次ヲ欠クトキハ醫師ノ診斷書兵役證及ヒ其他ノ證書ヲ示シテ其理由ヲ證明スベシ

又交付スル役場等ニ於テハ新舊交換ノ際臺紙ニ就キ掛金ノ額ヲ算シ裏面ノ摘要ノ部ニ記入シ疾病兵役等ノ事故アリシ者ハ同部ニ其日數及ヒ理由ヲ記スベシ

被保者ニシテ一週中數人ノ雇主ニ就キテ勞働スルトキハ一週中最初ノ日ニ使用シタル雇主カ切手貼付ノ義務アル者トス

任意保險ヲナス者ハ自身ニ切手ヲ貼付シテ自書シ以テ使用濟ヲ證明ス

三 切手貼付代理者

保險所ハ此切手貼付ヲ其區域内ニ在ル疾病保險所又ハ共同團體ニ

貼付濟臺紙及ヒ紛失又ハ汚損シタル臺紙ノ處置

委託スルヲ得ルナリ要スルニ此貼付ハ一舉手一投足ノ勞ニ過キサレトモ多數ノ使用人ヲ有スル雇主側ニ於テ兎角之ヲ厭フ者少カラズ故ニ此法ヲ設ケテ第三者ニ委任スルヲ得セシム然ルトキハ雇主ハ其切手ヲ自ラ買フヲ要セス其代價ヲ受托者ニ渡シ受托者ハ切手ノ買入レ貼付自書等ヲ盡ク負擔スルナリ而シテ保險所ハ貼付スヘキ切手ノ代價ノ百分ノ三乃至四ヲ手數料トシ受托者ニ支拂フ者トス

四 貼付濟臺紙及ヒ紛失又ハ汚損シタル臺紙ノ處置

貼付濟ノ臺紙ハ一時下附シタル役所ニ留メ置キ一定ノ時期ニ於テ其區域内ノ保險所ニ送付ス而シテ此保險所ハ各種ノ臺紙ヲ撰分ケ臺紙所有者ヲ最初保險シタル保險所ノ名及ヒ番號ヲ記入シタル者ハ其保險所ヘ轉送ス(百一頁參照)又其轉送ヲ受ケタル保險所ハ其番號及ヒ年月ニ從テ順ヲ追フテ之ヲ保存ス

此等ノ手續ハ頗ル勞煩複雑ナレトモ被保者ハ絶ヘス甲地ヨリ乙地ニ轉住スルヲ以テ臺紙ヲ各保險所ニ保存スルトキハ救濟金請求ノ際

ニ計算ノ基礎タル臺紙ノ所在區々ニシテ之ヲ蒐集スルコト困難ナル  
カ故ニ最初ノ保險所ニ於テ保存シ置キ救濟金要求ノ際之ヲ負擔スベ  
キ保險所(後ニ詳ナリ)ニ一括シテ送致スルナリ而シテ此等ノ轉送再送  
ハ郵税ヲ要セス郵便局ニ於テ速達便 *Half post* ヲ以テ取扱フナリ  
臺紙紛失シタルトキハ雇主及ヒ猶ホ一名(任意被保者ハ一名)ノ保證  
人ヲ立テ紛失シタル臺紙ニ貼付シタル切手ノ數ヲ證明シテ臺紙ヲ新  
規請求スルナリ又之ニ其理由ヲ付シ紛失シタル部分ハ雇主ニ於テ其  
掛金ノ額ヲ自書スベシ而シテ臺紙ノ汚損シタルトキハ其臺紙ヲ示シ  
テ新規ナル者ヲ請求シ而シテ其切手ノ猶ホ用ユルニ足ルベキ者ハ新  
臺紙ニ貼替ヘ再ヒ川ユル能ハサル者ハ雇主ノ自書ヲ要ス  
中止スベキ勞働ニ從事スル者又ハ任意ノ保險ニ於テ切手ノ貼付ヲ  
毎週ナササル者ハ二年ノ後盡ク貼付シ終ルト否ヤニ關セス新舊交換  
スヘシ

五 海員ニ對スル除外例

海員ニ對スル除外例

海員ニ在テハ此制規ヲ屬行スルコト困難ナルカ故ニ別ニ法ヲ設ク  
其大要次ノ如シ即チ各被保人ノ掛金額及ヒ掛金週ハ船内ニ備フル海  
員簿ニ別ニ設ケタル欄ニ記入シ一定ノ時期ニ於テ所屬ノ保險所ニ届  
ケ出テ認可ヲ得ルナリ此際船主又ハ船長ハ其被保者ノ數及ヒ種類ニ  
從テ翌年分ノ掛金ヲ見積リ保險所ニ拂込ムナリ而シテ切手貼付等ノ  
手數ハ相當ノ手數料ヲ得テ保險所ニ於テ之ヲ爲ス近今ニ至ツテ海上  
被保者ヲ有スル沿海ノ保險所相合シテハンザ地方ノ *リベック* 港  
ニ特ニ海上被保者ノミヲ取扱フ保險所ヲ設立シタリ

第十 救濟要求

救濟要求

救濟ヲ要求スルニハ切手貼付臺紙及ビ其他ノ救濟ヲ必要ト認メタ  
ル者醫師ノ診斷書及ビ意見書ヲ差出シ地方官廳又ハ被保人カ乙種保  
險所ニ屬スルトキハ乙種保險所ニ申告スベシ  
同廳又ハ乙種保險所ハ事實ヲ詳細ニ調査シ要求ノ至當ナルコトヲ  
認ムルトキハ甲ハ其旨ヲ區域内ノ保險所ニ通牒ス

又要求ノ理由疑ハシキトキハ該事件ニ關係ナキ被保人及ビ雇主ヲ各一名宛招喚シ陪席ヲ求メテ商議シ、地方官廳ハ其調書ヲ他ノ書類ト一括シテ保險所ニ送付シ、保險所ニ於テハ其調書ニ就キ審議ノ上之ヲ裁斷ス

救濟負擔ノ正當ナルトキハ保險所ハ救濟要求者ニ明細ナル證明書ヲ交附シ、要求者ハ之ヲ以テ郵便局ニ至リ救濟金ヲ受領ス又受領者轉住スルトキハ其都度保險所ニ届出ツベシ、而シテ保險所ニ於テ救濟ヲ不當トシ拒絶スルカ又ハ其要求額ヲ減セントスルトキハ仲裁裁判所ニ就テ審判ヲ乞フベシ

因ニ云フ日本ニ於テモ、近日勅令第二百二十七號ニ依リ帝國鐵道局下級吏員保護ノ目的ヲ以テ救濟組合ヲ設ケラレタリ、而シテ其成績良好ナルカ故ニ製鐵所、製鹽所、印刷局等數多ノ下級吏員ヲ使用スル官衙ニ於テモ此法ニ倣ヒ救濟組合ヲ組織セントスト云フ、又農商務省ニテハ水産業ノ發展ニ資スルタメ漁民及ヒ漁船ニ關スル保險制度ヲ設ケル計畫ニテ多數ノ事項ノ調査方ヲ各地方官ニ通知セリト、是レト云ヒ彼レト云ヒ畢竟時代ノ要求ニ

胚胎スル者ニシテ余濟ハ當局者カ意ヲ此點ニ注ガレタルヲ喜フト同時ニ益々完全ノ域ニ達セントコトヲ祈ル者ナリ

労働者保險ノ副機關

第四章 労働者保險ノ副機關 *Nebenorgane*

仲裁裁判所

此三個ノ労働保險中疾病保險ニ生スル救濟要求者ト保險負擔者ノ爭議ハ便宜上工業裁判所ニ於テ解決ス、然レトモ遭難及ビ老廢保險ニ在リテハ賠償、救濟、養老等ノ金額ノ算定若クハ救濟要求權ノ有無ニ就キ救濟要求者及ビ負擔者ノ間ニ各見解ヲ異ニスル場合頗ル多ク、且ツ其金額モ亦鮮少ナラズ、故ニ此等ノ爭議ヲ判定スル機關ノ必要アリ名ケテ仲裁裁判所ト云フ

又政府ハ各保險機關カ此複雑ナル保險法ノ條目ヲ充分ニ了解シ遺憾ナキ迄ニ保險ヲ施行シ得ルヤ否、又或ハ保險機關カ輕舉ニ出テ爲メニ經濟上ノ困難等ニ陥ルコトナキヤヲ監督スルノ任務ヲ有ス、故ニ地方及ビ帝國保險局ヲ置テ之ガ監督ノ任ニ當ラシム

第一 労働保險仲裁裁判所 *Schiedesgericht*

労働保險仲裁裁判所

位置

組織

一 位置

仲裁裁判所ハ老廢保險所區域内ニ於テ少ナクトモ一個所ヲ設置スルヲ要ス、而シテ其位置及ビ其數ハ各聯邦政府ノ所定ニ任ス、又數個ノ聯邦カ一個ノ老廢保險所ヲ共有シ、仲裁裁判所設置ノ位置ニ就キ共有聯邦ノ意見一致セザルトキハ聯邦議會之ヲ定ム

二 組織

仲裁裁判所ノ主ナル委員ハ所長及ビ陪席委員 *Justice of Peace* トス、而シテ所長ハ同裁判所所在地ノ地方官ヨリ任命シ、陪席委員ハ二十名ノ雇主及ビ被保者ヨリ成立シ、其内幾名ヲ保險組合及ビ老廢保險所ニ於テ撰出スベキヤハ地方官ノ定ムル處ニ由ル、又地方官ハ土地ノ狀態及ビ職業ノ分類等ニ臨ミ、保險組合ヨリ撰出スル陪席委員ヲ工業農林業又沿海地方ナレバ、海上從業者等ノ數ヲ適宜ニ定ムベシ、而シテ此二十名ノ内半數ハ仲裁裁判所ノ所在地又ハ十キロメートル以内ノ地ニ居住スル者ニ限ル、又此委員ハ無給ノ名譽職ニシテ任期ヲ五年トス

仲裁裁判施行

三 仲裁裁判施行

仲裁裁判施行ハ爭議判定ノ申請アル毎ニ其爭議ノ性質ニ適當ナル(例ヘハ農林業ニ關スル者ハ農林業者中ヨリ)四名内雇主及被保者各二名召喚シテ裁判ス、若シ爭議ノ性質上殊更ニ適當ナル委員ノ陪席ヲ要セザルトキハ裁判所所在地又ハ其十キロメートル以内ニ在ル當撰委員ヲ召喚ス、又此委員ノ差支ヘアリテ陪席スルコト能ハザルトキハ十キロメートル以外ノ者ヲ以テ之ニ充ツ、而シテ若シ此判決ニ不服ナルトキハ地方又ハ帝國保險局ニ就キテ覆審ヲ求ムベシ  
此裁判ニハ訴訟入費ヲ要セザレトモ、判定申請者カ不當ノ舉止ニ出テ殊更ニ費用ヲ要シタルトキハ之ヲ賠償セシム、但シ其額ハ裁判長之ヲ定ム、又仲裁裁判所ニ充ツル一切ノ費用ハ其件數ニ應シテ保險組合及ビ老廢保險所ヨリ支出スル者トス

地方保險局

第二 地方保險局

各縣邦ハ其領土内ニ地方保險局ヲ設置スルヲ得ル者ニシテ必ス之

地方保險局ノ組織

レヲ設クルヲ要セス、故ニ現今地方保險局ヲ有スル聯邦ハ巴威理、サラ  
セン、ウルテンベルク、巴典、ヘッセン等ニシテ聯邦中ノ大國タル普漏亞  
ニモ此設置ナク自國ノ保險事業ニ關スル監督及ビ覆審ハ帝國保險局  
ニ委任ス、事態此ノ如クナルヲ以テ兩險局共ニ其ノ組織及ビ施行スル  
事務ハ略同一ナリ

一 地方保險局ノ組織

地方保險局ノ委員ハ終身在職スル者 *ständige* ヲ一定期毎ニ改撰セラ  
ル、者 *nicht ständige* ヨリ成立ス甲ハ終身官ニシテ聯邦政府ニヨリ任  
命シ、聯邦ニ由テ其ノ數ヲ異ニス而シテ其ノ委員ノ中ヨリ委員長ヲ撰  
定ス、又乙ハ雇主及労働者ヨリ各四名ヲ撰出ス但シ其ノ内一名ハ必ス  
農林農ニ從事スル者トナシ而シテ其ノ任期ヲ五年トス

同事務章程

二 同事務章程

地方保險局ヲ有スル聯邦ニ在テハ帝國保險局ニ於テ處理スヘキ事  
項(次ノ帝國保險局ノ部ニ記載スル條項ヲ除キ)ハ自國ノ保險局ニ於テ

帝國保險局

之レヲ爲ス、故ニ帝國保險局ハ地方保險局ノ上階官廳ニアラスシテ兩  
保險局共ニ同一ノ階級ニアルヲ以テ地方保險局ニ於テナシタル判定  
ハ最後ノ判決ニシテ帝國保險局ニ覆審ヲ求ムルヲ得ス

裁判ハ政府委員ノ長裁判長トナリ若干ノ政府委員及各一名若シク  
ハ二名ノ雇主及被保者ヨリ撰出シタル者ノ陪席ヲ求メ仲裁判所ノ不  
調事件ヲ覆審ス、但シ農林業ニ關スル者ハ農林業者陪席ス

三 帝國保險局

其所在地ハ伯林ニシテ局長及高級ノ終身在職者ハ聯邦議會ノ推薦  
ニヨリ特ニ親任セラル、其他ノ官吏ハ宰相是レヲ任命ス、又改撰セラ  
ルヘキ委員ハ十八人ニシテ六名ハ聯邦議會ヨリ、六名ハ雇主、他ノ六名ハ  
被險者ヨリ撰出シ、任期ヲ各五ヶ年トス

帝國保險局ハ普漏西國其他自國ニ地方保險局ヲ有セサル聯邦ノ保  
險事務ヲ直接監督シ、及ヒ仲裁裁判所ニ於テ不調ニ了リタル爭議ヲ再  
審スルコト地方保險局ト同一ナリ、只次ニ記スルモノハ帝國保險局ノ

専掌ニ屬スル主要ノ事務トナス

(一) 老廢保險ノ救濟金要求ニ關スル爭議ハ地方保險局ニ於テセス  
シテ直チニ帝國保險局ニ於テ判定ス

(二) 老廢保險ノ負擔按配ニ於ケル共通負擔及ヒ特別負擔ノ算定(九  
十三頁)ニ關シテハ帝國保險局中別ニ主計課 *Rechnungsstelle*ヲ置キ  
一切ノ計算事務ヲ掌理シ地方保險局ハ之レニ與ラヌ  
(十四頁所載ノ政府監督委員ハ最近ノ法律ニ由テ是レヲ廢止セリ)

### 第五章 労働者保険ノ成績

抑モ労働者保険ハ實ニ二箇ノ目的ヲ有ス、一ハ病ヲ避ケント欲スル  
者ニ向テ充分ニ其ノ希望ヲ達セシム即チ廢疾ニ陥ル可キ慮アル患者  
ヲシテ早ク已ニ療養所ニ送致シテ遺憾ナキ迄ニ治療ヲ受ケシムルカ  
如キ、又他ノ一ハ已ニ病ヲ患フル者ニ對シテ診療投藥等ノ費用ヲ負擔  
シ加之病中ハ勞銀收得不能ナルニモ係ラズ却テ費用ヲ要スルコト多  
キヲ以テ休養金給與ノ方法ヲ設ケ救濟ノ道ニ於テ毫モ間然スル所ナ

カラシコトヲ期セリ、今若シ保險法ナキモノト假定センカ下級民ハ廢  
人ニ陥リ若シクハ早世スルニ至ルヘシ、又保險法施行以來労働者ハ疾  
病ヲ等閑ニ附スルノ害アルコトヲ自覺シ病ヲ得レバ直ニ醫師ニ就テ  
治療ヲ乞ヒ其他平常ノ衛生ニ注意スル等精神修養 *(Geisteskultur)*ノ上  
ニ於テモ亦裨益スル所尠カラス、此ノ故ニ爾來下級民ノ健康状態ハ昔  
日ト大ニ其觀ヲ異ニセリ、今茲ニ一千四百四十一年ヨリ同九百二年ニ  
於ケル死亡表ヲ掲ケテ是レヲ證スベシ

一八四一—五〇年	對千人	平均	二七二
一八五一—六〇年	同	同	二七八
一八六一—七〇年	同	同	二八四
一八七一—八〇年	同	同	二八八
一八八一—八五年	同	同	二七二
一八八六—九〇年	同	同	二五八
一八九一—九五年	同	同	二四五



一八九六—一九〇〇年	對千人	平均	二二四
一九〇一年	同		二一八
一九〇二年	同		二〇六

此表ニ據ルトキハ逐年死亡數ノ減シタルコトハ明瞭ナル事實ナリ、而シテ此ノ死亡數ノ減少ニハ諸般ノ原因アリ就中其ノ最モ大ナルモノヲ醫學ノ進歩ト做サ、ル可カラズ其他勞働者ノ側ニアリテハ勞働者保護法災厄豫防及ヒ勞働者生活狀態ノ向上等モ亦死亡數減少ノ有力ナル原因ナリトス、然レトモ表ニ示ス如ク一千八百八十六年以降即チ勞働者保險法施行以後ニ於テ死亡數ノ著シク減少シタルヲ見ルトキハ此保險法モ亦與リテカアルヲ知ルヘキナリ、上來述フル如ク勞働者保險ハ一方ニ於テハ下級民ノ衛生上ニ鴻大ナル利益ヲ與タヘルト同時ニ亦一方ニ於テハ社界政策上ノ龜鑑トナレリ今聊カ其大要ヲ述フヘシ

社會ノ進歩ノ趨勢トシテ今日ノ工業界ハ昔日ト全ク其ノ趣キヲ異

ニセリ、這ハ獨リ器械應用ノ範圍カ愈益擴大シタルノミナラス、雇者被雇者ノ關係モ亦昔日ノ如ク和氣騷雜タルコト能ハス、又其ノ兩者カ各冷淡ナル態度ヲ持シタル時期ハ早ク已ニ經過シ去リ、今日ニ於テハ兩者ハ全然軋轢反目スルノ狀態ニアルナリ、而シテ此ノ現象ハ決シテ平順ナル社會ノ進運ニ非ラス、故ニ尙是レヲ等閑ニ附シ去ランカ社會ハ遂ニ其ノ秩序ヲ維持スルコト能ハサルニ至ルヘシ、故ニ之レヲ防止スルニハ勉メテ兩者ノ軋轢ノ柔ケ、互ニ相ヒ融和スルノ道ヲ講セザルヘカラス、是レ又一種ノ穩健ナル社會主義ナリ、而シテ其ノ主義トシテ政府カ法律ヲ制定シテ資本主及ビ勞働者ノ不和反目ヲ寬解スルモノヲ名ケテ政府社會主義又ハ講壇社會主義 Staatssozialismus od. Katheder-*sozialismus* ト云フ、其ノ講壇社會主義ト名ケタル以所ハ大學ノ法政科ノ教授ガ專ラ此ノ政策ヲ主張シタルカ故ニシテ、所謂實際ヲ知ラサル見臺印キノ意ナルカ故ニ獨逸ニ於テハ政府社會主義者ニ對シテ講壇ノ名稱ヲ用ユルヲ慎ム

政府社會主義又ハ  
講壇社會主義

労働者保險ハ此主義ヲ具體的ニ實行シタル者ニ外ナラス故ニ此保險ニ於テハ眼中ニ雇主被雇者ノ社會的階級ナク保險施行ノ機關即チ各保險所ノ事務及ビ爭議ヲ判定スル仲裁判所地方及ビ帝國保險局共ニ此ノ兩者ノ内ヨリ各自同數ノ委員ヲ撰舉セシメテ同一ノ權利義務ノ下ニ於テ共ニ事ニ當ラシメ以テ専ラ相互ノ意志ヲ遺憾ナク流通セシメ兩者ノ接近柔和ヲ謀ルナリ此ノ雇者被雇者共ニ同一ノ事ニ當ル制ヲ名ケ *Parteiliche Organisation* ト云フ(假ニ社會的合議制ト譯ス)

此ノ法施行ノ當時説ヲナシテ労働者ハ其ノ知識ニ於テ其ノ品性ニ於テ資本主ト併立シテ事ヲ執ルヘキ資格決シテ是レナシ若シ強テ之レヲ實行セハ計ルハカラザル弊害ヲ醸生シ九俛ノ巧ヲ一簣ニ欠クノ悔恨ヲ免カレザルベシトノ非難盛ニシテ一時ハ物議騷然タリシカ多年ノ經驗ニ徴スルニ初當ノ抗議ハ寧ロ杞憂ニ屬シ其ノ成績良好ニシテ労働者ニ亦自己ノ責任ノ重大ナルヲ覺リ務メテ知識ヲ増シ品位ヲ高尚ニセントスルノ點ニ向ヘリ

又救濟要求者ト救濟負擔者ノ間ニ生スル爭議ヲ仲裁裁判所ニ於テ判定スルコトモ亦社會ノ平和ヲ希圖スル手段ノ一ニシテ昔日ノ賠償金請求ノ訴訟トハ全ク趣キヲ異ニセリ要スルニ仲裁裁判所ハ社會的合議制ニシテ且此ノ爭議ハ要求者ト保險組合若シクハ老廢保險所ノ間ニ生スルモノニシテ雇主タル個人ニ對スル起訴ニ非ラサレハ其敗訴ニ歸シタル者モ勝訴者ニ對シテ怨恨ヲ狹ミ又ハ感情ノ衝突ヲ生スルカ如キ惡結果ヲ來サズ

各種ノ保險法ハ其改正毎ニ被保者ノ範圍ヲ擴大スレドモ新タニ被保者タル者ヨリ毫モ怨言嘆聲ヲ聽カズ悦ンデ其義務ヲ負フ以テ此法カ如何ニ歡迎セララルルカヲ察スベシ

今ヤ本章ノ局ヲ結ブニ當リ獨乙政府ガ本年(明治四十年)九月伯林ニ於テ開催シタル萬國衛生及ビ國勢會ニ提供シタル労働者保險ノ報告書ヨリ左ノ一項ヲ摘録シ以テ其ノ事業ノ如何ニ偉大ニシテ其救濟ニ費ス所ノ金額ノ如何ニ夥多ナルカヲ紹介セント欲ス

社會的保險ノ支出總額

疾病保險

一千八百八十五年以來

休養金

二二二八三九二、八七六

馬克

醫師

五七一、〇〇二、三七八

藥餌

四四〇、一三一、四〇六

入院料

三三七、二三一、六九一

埋葬料

九〇、六八二、四三五

產褥

四一、一二六、四四六

其他ノ支出

四二、七二五、八〇六

一千八百八十五年ヨリ一千九百五年

二七五一、二九一、〇三八

一千九百六年概算

二七〇、〇〇〇、〇〇〇

計

二一〇、二一二、九一〇、三八

遭難保險

一千八百八十五年以來

遭難賠償

八六〇、八八〇、五九二

馬克

遺族賠償

二一四、九六四、八六四

治療費

三八、一一〇、七七六

入院料

六〇、八三七、八五七

埋葬料

七、五六五、〇七三

一時賠償金

八、五四八、五二六

外國人へ賠償金

二、九九八、六一四

一千八百八十五年ヨリ一千九百五年

一一九三、九〇六、三〇二

一千九百六年概算

一四三、〇〇〇、〇〇〇

計

一三三六、九〇六、三〇二

老廢保險

一千八百九十一年以來	馬克
痲疾救濟	六七八、七九八、四九二
養老金	三五五、九四八、八一〇
治療費	六七、六三二、二四七
拂戻シ金	四三、六一一、五六四
結婚後	一五、九五〇、三八〇
死亡後	二二八、四三〇
遭難後	一一六二、一六九、九二三
一千八百九十一年ヨリ一千九百五年	一六六、〇〇〇、〇〇〇
計	一三二八、一六九、九二三
一千九百六年ノ終リ迄デニ救濟ヲ受ケタルモノ凡ソ七千五百萬人ニシテ之レニ費シタル金額ハ實ニ五十六億馬克ニ達シ其内二十四億	

自餘各國ノ労働者共濟法

馬克ハ雇主及ビ政府ノ醸出ニ係ル、而シテ之レヲ一日ノ支出額ニ計算スル時ハ毎日百六十萬馬克ヲ支拂フモノトス、而シテ現今殘留スル金額十八億馬克ニシテ、其内ヨリ累年支出シテ労働者住宅、病室及療養室、労働者ノ浴場其他ノ慈善的經營ニ五億馬克ヲ支出シタリ

全國人口ノ凡ソ四分ニ一ヲ藉テ一團トナシ之レニ強制的ニ被保ノ義務ヲ負ハセタル獨逸ノ社會的強制保險ハ儘カニ成效シタリ同國カ其ノ創設者トシテ其ノ成效者トシテ自カラ許ス蓋シ故ナキニアラザルナリ

**第六章 自餘各國ノ労働者共濟法**

獨逸國ノ労働者保險ガ稍々效ヲ奏スルヲ見ルヤ其隣國ニシテ同文同俗タル澳國ハ直チニ採リテ其一部ヲ施行シ、漸々擴張シテ今日ニ至リテハ老廢保險ヲ除キテ殆ンド獨逸ノ法ト異ナル所ナシ、次デ匈牙利國亦強制法ヲ施行シ、瑞西及ヒ其他ノ諸國ニ於テモ亦已ニ一部ノ保險ヲ強制的ニ施行シ、尙諸多救濟法ヲモ強制セントナシツ、アリ、然レド

モ政府ト議會トノ意見未ダ一致セズシテ其進行何レモ遅々タレトモ近キ未來ニ於テ必ズヤ其範圍ノ擴張スルヲ見ルベキナリ而シテ此等ノ諸邦ハ何レモ歐洲中第二流ニ位スル國ニシテ其ノ富力ニ於テ其ノ兵力ニ於テ現今世界ノ強國ヲ以テ目セラルル英佛二國ニ於テハ其ノ佛國ニ於ケル極ノテ小部分ナル者ヲ除キテハ一モ強制的ノ保險ナク又各々自國ノ制ヲ保守シ更ラニ強制法ニ改メントスルノ傾向ヲ見ズ、畢竟スルニ其ノ然カル所以ノモノハ此ノ二強國ハ後進國タル獨逸ノ製ニ倣フヲ屑シトセザルニ由ルカ抑モ亦自國ノ共濟法ガ燦然トシテ大ニ見ルニ足ルベキ者アリ敢テ他國ノ制ヲ採ルヲ要セザルニ由ルカ這般ノ鑿索ハ暫ク之レヲ他日ニ譲リ只茲ニハ英佛米國等ニ於ケル勞働者共濟法ノ大要ヲ記述スル所アラントス

### 第一 英吉利國

英吉利國ノ勞働者保險ハ盡ク私設ノ相互保險組合ニシテ且ツ孰レモ任意保險ナレハ政府ヨリ法律ヲ出シテ強制的ニ被保ノ義務ヲ負ハ

英吉利國

ス如キコトナク又掛金ノ全部ハ被保者ヨリ拂ヒ込ムナリ而シテ英國ニ於ケル著大ナル保險組合ニ二種アリ一ハ共濟組合一ハ同業職工組合 Trade unions ニ設立シタル保險所トス

共濟組合

### 一、共濟組合 Friendly Societies

共濟組合ニ於テ救濟スル範圍ハ頗ル廣ク各種ノ損害ヲ保險ス亦多額ノ掛金ヲナストキハ從テ多大ノ救濟ヲ得ルコト等通例ノ保險會社ニ異ナラズ且ツ此組合ハ何人ニテモ保險スルヲ得ル者ナレドモ組合ノ目的主義上被保人ハ勞働者及ビ下級細民大部ヲ占ム今其保險スキ損害ヲ分チテ左ノ四種トナス

其一、組合員自身ノ外妻、子、父母、兄弟、姉、妹、甥、姪、被後見者等ノ疾病又ハ五十年後ニ生ジタル廢疾及組合人ノ寡婦孤兒ヲ救濟ス

其二、組合員ノ出產、死亡、又ハ組合員ノ妻子ノ死亡ニ際シテ一定ノ資金ヲ保險シ其他猶太教徒ノ命ズル勞働ヲ拒絕シタル爲メニ生ズル收入不能ノ際一定ノ金額ノ支出ヲ保障スル所謂資金保險 Capital value

資金保險

sicherung ナリ

其三、組合員ガ勞働供給ノ爲メ旅行スルニ際シ其ノ旅費ヲ給シ、其他困窮ニ迫リシ時一定ノ救濟ヲナシ、又組合員所有ノ漁網、小艇ノ破損及ビ失喪ヲ保險ス

其四、組合員ノ工具ノ火災ヲ保險ス

救濟ノ種類ハ此ノ如ク多種多様ナレトモ各組合ガ盡ク此ノ救濟ヲ保險スルモノニアラズ、都會ニアルモノハ其大部分ヲ負擔スレドモ小市又ハ町村ニアル小組合ハ其ノ二三ノ負擔ニ止マルノミ故ニ被保者モ亦數多ノ組合ニ保險セシメテ其ノ足ラザル所ヲ補フナリ然カレドモ何レノ組合ニ於テモ組合員ノ疾病及埋葬費ヲ保險セザル者ナシ

共濟組合ノ機關ハ總會及其内ヨリ選出シタル若干ノ評議員トス而シテ、此評議員ハ各自繁多ノ職業ニ従事スルヲ以テ此ノ事務ニ專任スル能ハズ、故ニ特ニ事務員ヲ設ケテ之レニ主任、收入役、書記、及仲裁裁判役等ノ事務ヲ委任ス、而シテ其執行上ニ就キテハ評議員責任ヲ負フ、又

此組合ノ規模ハ甚ダ種々ニシテ一地方ニ限ル者アリ、或ハ廣ク國內ノ數區ニ亘リ各要處ニ出張所ヲ設クルモノアリ、而シテ掛金ハ毎年會計年度ノ初メニ於テ其年ノ支出ヲ豫算シテ徵收ス、又組合中ニハ一定ノ時期ヲ經過シタル後ニ於テ餘剰金ヲ其掛金ノ高ニ應シテ割戻ス法ヲ設クルモノアリ、而シテ掛金ハ市街ニ在リテハ集金人ヲ派シテ徵收ス

組合ハ商法上ノ登記ヲ經テ法人組織タルヲ得然ルトキハ印紙稅免除、豫備金ノ自由放資等其他各種ノ特權ヲ有ス、又一方ニ於テ組合ハ毎年精細ナル決算表、毎五年ニ出納表ヲ當該監督官廳ニ差出スヘク、其他數多ノ監督ヲ受クヘキ義務アリ

共濟組合ハ各國ノ任意保險組合中最大ナル者ニシテ大英國ニ二萬七千六百十五箇所出張所ヲ合シテアリテ凡六百萬人ノ組合員ヲ有ス、而シテ此ノ組合ニ於ケル被保者ハ獨逸ノ社會的保險ノ如ク上方ニ限リアリテ二千馬克以下ノ年收アルモノ下方ニ無制限ナル者ニ非ズシ

テ却テ下方ニ制限ヲ設ケタリ即チ保險請求者ニ對シテ健康及ヒ所得ノ程限 *Gesundheit* und  *Einkommensgrenze* ヲ設ケタリ故ニ請求者ハ甲ニ在リテハ組合ガ指定シタル保險醫ノ診査ヲ受ケザルヘカラズ又乙ニ在リテハ一定ノ所得例バ一週二十四志以上ノ所得アル者ニ非ラザレバ被保者タルコト能ハス是レ全ク下級民救濟ノ普及ヲ妨クル者ニシテ猶改善ス可キ點ナリトス

事實上已ムラ得ザル場合ニアリテハ政府ハ此組合ニ補助金ヲ支出ス

### 職工組合保險所

#### 二、職工組合保險所

此ノ保險所ハ職工組合ニ關スル事務ノ一部ト見ル可キモノニシテ、各組合(例バ鐵工組合煉瓦工組合等)ニ其組合員ヲ保險スル機關アリ孰レモ政府ノ干涉ヲ蒙ラズ頗ル自由ナル行動ヲ有スル任意保險ニシテ其掛金ハ被保者ノ負擔トス而シテ其ノ組合中ニテモ創立古クシテ多數ノ組合員ヲ有スル者ハ救濟ノ種類モ從テ多數ナレトモ、小弱ナル組

合ニ有テハ同盟罷業者シクハ失業保險ノ外病疾及ヒ埋葬ノ際ニ救濟スルニ止ムル者アリ又此組合ハ孰レモ法人ノ資格ヲ有シ救濟組合ト均シク其定款ハ法律ノ規定ニ準スベク且ツ毎年精算報告ヲ監督官ニ差出す者トス今下ニ掲グル者ハ機械製造ニ従事スル職工組合ノ救濟法ニシテ其規模最モ大ナル者ノ一ナリトス而シテ此救濟ニ充ツヘキ資金ハ左ノ釀出金ヨリ生ス(一)加入金ニシテ年齢ニ從テ十五ヨリ五十志迄トス(二)毎週ノ掛金一志(三)若シ不足ヲ生スルトキハ組合ノ資金ヨリ一時繰替金トシテ補助スル者等トス又被保者ニ對スル救濟負擔トシテ(一)失業ノ際ニ初當十四週毎週十志其後三十週間ハ毎週七、其後ハ毎週六志ヲ給ス(二)疾病ノ際ニハ初當二十六週間ハ毎週十、其後ハ毎週五志ヲ給與ス(三)遭難ノ際ニハ一時限リ百磅死亡ノ者(四)老廢ニ陥リタルモノニシテ五十年後十八年以上二十五年以下掛金ヲ繼續シタル者ハ七、二十五年以上三十年迄ノ者ハ九、三十年以上ノ者ハ十八志毎週受領ス(五)被保人死亡スルトキハ寡婦ハ一時二十五磅給與セラレ

三、埋葬保險組合

此ノ組合ハ其掛金モ僅少ニシテ從テ救濟モ豊裕ナラズ通常死亡ノ際遺族ニ埋葬金ヲ給スルニ止マルナリ此ノ組合ハ初メハ共濟組合ノ一部ナリシガ都合ニヨリ一千八百九十六年分離シテ獨立セリ

四、遭難保險

現今ノ法律ハ一千八百九十七年ニ公布シタルモノニシテ此法ニ據ルトキハ危險ナル工業ヲ營爲スルモノハ其勞働者カ就業中遭難シ次ノ災害ヲ蒙ルトキハ損害ヲ賠償スル義務ヲ有ス即チ勞働者ガ遭難死亡スルトキハ其遺族ニ死亡者一ケ年分勞銀ノ三倍ヲ給ス但シ三百磅ヲ超過ス可カラズ又負傷シタルモノニハ勞銀收得減少ノ程度ニ從テ遭難後第四週ヨリ每週一週間勞銀ノ百分ノ五十迄ヲ給ス其治療及ヒ攝養ノ費ニ就テハ規定ナク負傷者及雇主トノ協定ニ任ス賠償金支拂中其支拂者ハ時々醫師ヲ派シテ遭難者ヲ診察セシメ勞銀收得減少ノ程度ヲ確ムベシ且ツ六ヶ月以上賠償金ヲ支拂ヒタルトキハ雙方合

第二 佛蘭西國

意ノ上一時ニ一定ノ償金ヲ渡シテ賠償ノ關係ヲ解クヲ得ルナリ又支拂者カ公賣處分ノ宣告ヲ受ケタルトキハ受領者ハ法律上ノ先優權ヲ有ス而シテ賠償請求時効ハ六ヶ月トス若シ爭議ヲ生スルトキハ相方ヨリ撰出シタル審判委員ニ因テ解決セラレ不服ナルトキハ區裁判所ニ於テ覆審ス此際取訴者ハ僅少ナル裁判入費ヲ納ム

一 救濟組合 Societes de secours mutuels

其一 成立及沿革

佛蘭西國ノ勞働者保險モ亦其大部分ハ任意保險ニシテ一千八百五十年以降ノ營爲ニ係ル者ナレトモ其發達未ダ完全ナラザルモノ多シ  
佛國ニ在リテハ一千八百五十二年ニ於テ始メテ疾病遭難廢疾及埋葬ニ際シテ金圓ノ支出ヲ保險スベキ組合ヲ組織シタリ而シテ此組合ハ法人ニシテ印紙稅免除其他ノ特權ヲ有シ且ツ一定ノ人員ヲ限リテ養老金ヲモ保險セリ以テ一千八百五十六年ヨリ政府ハ此組合ニ對シ



テ毎年二十萬フランヲ補助シ、其代價トシテ組合ハ積立金ノ一部ヲ以テ養老保險ノ基金ヲ作ルヘキ義務ヲ有セリ

一千八百八十九年ニ組合ハ其ノ定款ニ改正ヲ加ヘタリ、而シテ其重要ナル者ハ以前ハ疾病、遭難、及老廢共ニ保險セザル可カラザリシニ今回ノ改正ニ由レバ其内ノ一若シクハ二ヲ隨意ニ保險シ得ルナリ、且ツ各組合聯合シテ大ナル組合ヲ組織シ得ルヲ以テ移住シタルモノハ猶ホ保險繼續ノ便利アリ、又政府ハ從來ノ補助金ノ外毎年豫算ニ一定ノ金額ヲ計上シ組合ニ下附シテ養老保險ヲ益獎勵シタリ

救済負擔

其二 救済負擔

組合員疾病ニ罹カルトキハ診療、投藥ノ外休養金ヲ得ルナリ、而シテ休養金ハ組合ノ資産ノ多少ニ由テ同シカラズ、概シテ一フラン半トス、又埋葬金トシテ凡五十フランヲ給與セララル、ナリ

組合ノ收入

其三 組合ノ收入

組合ノ收入ハ(一)掛金ニシテ一ヶ月一人平均ニ十三フラントシ、其全

養老保險局

二、養老保險局

部被保者ノ負擔トス(二)加入金ニシテ組合毎ニ小異アレドモ概シテ四十年以上ノ者ハ十八フラン、三十年ト四十年ノ間ノ者ハ十フラン、十六年ヨリ三十年迄ノ者ハ五フラントス、但シ他ノ組合ヨリ移轉スル者ハ之レヲ要セス(三)罰金(四)名譽委員ノ掛金ニシテ各組合共ニ名譽委員ナルモノアリ、這ハ通常ノ被保人ヨリ社會上ノ位置高キ者ニシテ組合ノ信用上此ノ委員ヲ設ケテ被保人トシ其掛金額モ普通ノ組合員ヨリ多シ(五)其他不時ノ贈與、寄附金等モ收入ノ一部トス

此ノ組合ハ佛國全體ニ於テ一萬五千五百九十箇所アリテ三百萬人ノ被保人ヲ有ス

此ノ養老保險局 *Coisse national des retraites pour la vieillesse* ハ一千八百

五十年ニ創立シタル官營ノ者ニシテ其規模最モ大ナリ、而テ掛金ハ毎年一フランヨリ五百フラン迄トシ其掛金ニ對シテ政府ハ五分ノ一ヲ補助ス、又此養老金ハ被保人五十年ノ後受領スルモノニシテ其額ハ(其

生命及遭難保險

掛金及ヒ被保ノ年限ニ由テ等差アレドモ(毎年一千二百五十フラン最高限、三百六十フランヲ最低限トナス)而シテ被保者ノ掛金ノ額カ三百六十フランニ達セザル時ニ於テハ其ノ不足分ヲ政府ヨリ補給ス且ツ廢疾者ハ其收入不能トナリタル時ニ救済金ヲ受領シ其額ハ前ト同一ナリ、其他被保者ガ死亡スルトキハ掛金ノ拂戻シヲ得ルナリ、同局ハ一千八百九十六年ヨリ資本主ガ自己ノ使用人ノ爲メニ設ケタル退隱料及扶助料ニ充テタル資本ヲ保險スルコト、ナレリ、故ニ資本主ガ破産シ又ハ退隱料等ノ支拂ヲ停止スルトキハ使用人ハ直ニ保險局ヲシテ右ノ本ヲ他ノ財産ヨリ分離セシムルヲ得ルナリ

養老保險局ハ郵便貯金庫ノ一部ニシテ本局ヲ巴里ニ置キテ各地ノ徵稅署若シクハ各郵便局ヲ以テ支局トシテ其出納ヲ司ラシム

三、生命及ヒ遭難保險

此保險モ亦官營ニシテ死亡ノ際三千フラン迄ノ支出ヲ保障ス而シテ掛金ハ其保障スル額ニ從テ同ジカラズ、又六年以下六十年以上ノ者

坑夫強制保險組合

ハ保險スルヲ得ズ、且ツ此保險ニハ醫師ノ診斷書ヲ要セス、但シ被保後ニケ年間ニ死亡シタル者ハ掛金ニ利子ヲ附シテ拂戻スベシ

遭難保險ノ掛金ハ一ケ年三、五、八フランノ一ヲ拂戻ム者ニシテ被保者ガ災害ニ遭テ勞働シ能ハサルトキハ掛金ノ三百二十倍ノ賠償金ヲ得ルナリ、遭難者ガ收入全ク不能ナルトキハ前記ノ賠償金ト同額ノ者ヲ政府ヨリ補助ス、而シテ收入不能ナルヤ否ハ仲裁判所ニ於テ判定ス

四、坑夫強制保險組合

坑夫保險ハ佛國ニ於ケル強制保險ノ一ニシテ一千八百九十四年ノ法律ヲ以テ鑛業ニ從スル坑夫ヲシテ盡ク此ノ法ニ據ラシメタリ

(一) 疾病保險 *Caisse de secours* ノ精神ハ獨乙ノ強制保險ト異ナラズ、即チ二千四百フラン以下ノ勞銀ノ年收アル勞働者ハ勞銀ノ百分ノ二雇主カ百分ノ一ヲ齎出シ、又疾病ノ救済ハ定款ノ定ムル處ニ據ル而シテ保險所ノ事務ハ九名ノ委員ヨリ成立シ、其内六名ハ被保者ヨリ三名ハ雇主ヨリ撰出スル者トス

(二) 養老保險 *Caisse des retraites* ニアリテハ一ヶ月勞銀ノ百分ノ四ヲ  
雇主及ヒ勞働者各半額宛ヲ負擔シテ毎月老廢保險局即チ最寄ノ郵便  
局ニ納メ同局ヨリハ保險局領收簿ヲ交付シ其内ニ納金ノ額月日等ヲ  
記入ス而シテ救濟要求ノ件ハ老廢保險局ノ被保險人ト異ナルコトナ  
ク五十五年以後ハ毎年三百六十フランヲ給セラル又被保者カ移住ス  
ルト雖モ領收簿ニ由テ調査スルヲ以テ極メテ簡便ナリ

海員共濟組合

五、海員共濟組合

(一) 養老廢疾共濟組合ノ救濟額ハ三百八十四フランヨリ一千六十八  
フランニシテ養老金ハ被保者カ五十年以上ニ達セサレハ要求スルコ  
ト能ハス而シテ被保者ハ勞銀一ヶ月分ノ百分ノ三ヲ掛金トシテ拂ヒ  
込ムナリ但シ其半額ハ雇主ノ負擔トス

(二) 遭難及疾病共濟組合ノ掛金ハ老廢共濟組合ノ半額ニシテ雇主及  
ヒ被保人各半額ヲ負擔ス而シテ遭難又ハ疾病ノ際ニハ其ノ掛金ノ多  
少ニ從テ二百フランヨリ三百フランヲ給與セラル

遭難保險

前記二個ノ共濟組合ハ共ニ海軍省監督ノ下ニ在リ且ツ強制的ニシ  
テ勞働者ハ必ス被保者タラサル可カラス而シテ救濟金ノ不足ヲ生ス  
ルトキハ政府ニ於テ一時補充シ次年ノ餘剩ヲ以テ還納セシメ又頻年  
不足ヲ生スルトキハ政府ノ許可ヲ得テ掛金ノ額ヲ増スヲ得ルナリ

六、遭難保險

此保險法ハ一千八百九十八年ニ公布セラレタル者ニシテ任意保險  
ノ法ニ從ヒ遭難賠償モ亦獨乙ノ如ク組合ニ於テセスシテ雇主個人ノ  
負擔ナリ且ツ雇主ガ破産處分ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賠償要求者ハ  
先優權ヲ有ス而シテ此ノ保險ヲ施行スル工業ハ獨逸ノ者ト略ホ同一  
ナレトモ海上遭難保險ハ別ニ法ヲ設ケタレハ之レニ屬セス

遭難賠償ハ次ノ如シ

- (一) 遭難後收入全ク杜絶シタル者ハ年收ノ三分ノ二ヲ給ス
- (二) 遭難後收入ノ一部ヲ永ク減少シタル者ハ其減少額ノ半額ヲ給ス
- (三) 遭難後一時收入ヲ減ジタルモノハ第五日ヨリ減少シタル期限内中

勞銀ノ半額ヲ給ス

(四) 遭難者死亡スルトキハ其寡婦ハ亡夫ノ一年勞銀ノ百分ノ二十ヲ得

(五) 孤兒ハ其ノ數ニ應シテ一年分勞銀ノ百分ノ十五乃至六十迄ヲ給與セラル

其他雇主ハ醫療ノ費用及ヒ死亡者ニ對シテ百フラン迄ノ埋葬料ヲ負擔ス

若シ遭難者ヲ出シタル時ハ取敢ス救急ノ手當ヲ施シ置キ二十四時間ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村役場ニ届出ツ役場ニ於テハ工業視察官ニ通知シ重傷ノ者ハ區裁判所ニ移謫シ孰レモ雇主立合ノ上遭難検査ヲ行ヒ遭難ノ原因程度及ヒ種類等ヲ査定シ賠償負擔ノ額ヲ定ム又雇主タル工業家が營業稅ノ五分ノ一ヲ特別ニ納稅スルトキハ破産ニ際シテ遭難賠償ヲ要スルトキハ官營ノ老廢保險局ニ於テ之レヲ負擔ス(一三二頁參照)

北米合衆國

第三、北米合衆國

北米合衆國ノ勞働者保險ハ政府ノ命令等ニ據ラス、勞働者ハ各所ノ私立保險會社ニ就キテ自己ノ疾病、生命、埋葬、老廢等其定款ノ規定ニ從テ保險スルモノニシテ合衆國ニ於テハ此ノ保險ニ屬スル勞働者保險最モ多數ヲ占ム、其他同業者相結ビテ一ノ相互保險ヲ營爲スルアリ、或ハ大規模ノ營業者カ自己ノ使用人ノ爲メ保險金庫ヲ設置スル者等アリテ孰レモ皆箇々獨立ノ私營ニ成ル者ニシテ其數甚タ多シ故ニ只茲ニハ其最モ完全ニ發達シ規模ノ廣大ナル者二三ヲ示スニ過ギス其他ノ組合モ之レト大差無シト知ラルヘシ

鐵道職員保險

一、鐵道職員保險

此保險ノ數ハ頗多ナレトモ就中創立最モ古ク(一千八百八十年)且ツ規模ノ大ナル者ハバルテモール及ヒヲハヨ鐵道共濟所 Relief Department of the Baltimore and Ohio Rail road ナリ而シテ其保險救濟ヲ受クヘキ場合ハ即チ(一)遭難其他ノ原因ニ由テ死亡シタルトキ(二)就業中負傷ノ

結果ニ由テ廢疾ニ陥リタルトキ(三)疾病或ハ自餘ノ原因ニ由テ廢疾ニ陥リタル時(四)負傷ヲ蒙リタルモノニ要スル外科的治療費等トス又掛金及救濟金額ハ勞銀ニ由テ各差等アリ勞銀支拂ノ時差引クモノトス

初級	三十五弗迄	一弗	〇、七五弗	〇、五〇弗
二級	五十弗迄	二弗	一、五弗	一、〇〇弗
三級	七十五弗迄	三弗	二、二五弗	一、五〇弗
四級	百弗迄	四弗	三弗	二、〇〇弗
五級	百弗以上	五弗	三、七五弗	二、五〇弗
初級	〇、二五弗	〇、五〇弗		
二級	〇、五〇弗	一、〇〇弗		
三級	〇、七五弗	一、五〇弗		
四級	一、〇〇弗	二、〇〇弗		

被保者一ヶ月分ノ勞銀等級

掛金(甲)

掛金(乙)

遺難後二十六週間救濟金額一日分

二十六週後一日分

疾病ハ五十週一日分

手工業者ニ屬スル勞働者組合ノ保險

五級 一、二五弗 二、五〇弗

遺難死亡 疾病ニ因スル死亡

五級	五〇〇〇弗	二五〇〇弗
一〇〇〇〇弗	五〇〇〇弗	
一五〇〇〇弗	七五〇〇弗	
二〇〇〇〇弗	一〇〇〇〇弗	
二五〇〇〇弗	一二五〇〇弗	

表中甲ハ列車運轉ニ從事スル者ニシテ乙ハ事務員其他危險ナラザルモノニ從事スル職員ナリ

其他尙此ノ金庫ニ退隱料ノ制アリテ勞働者ニ一定ノ掛金ヲナサシメ鐵道會社ヨリ一ケ年二萬五千弗宛ヲ支給ス而シテ退隱料要求者ハ年齢六十五年以上ニシテ會社二十年以上繼續シテ勤務シ過失ニ由ラズシテ退社シタルモノニ限ル

二、手工業者ニ屬スル勞働者組合ノ保險

各種ノ手工業労働者ノ組合ニ於ケル掛金及救済等ハ大同小異ナリ  
今茲ニ舉グル處ノモノハ最モ完全ナル組織ヲ有スル者即チ印刷業勞  
働者 Typographiaノ救済法ニシテ之レヲ四種ニ分ツ

其一、旅費ニシテ二年以上就業シタル労働者ヲ解僱セラレタル(不  
正ノ所業ノ結果ニアラズシテ)他ノ地方ニ赴クトキハ二十弗以下ノ旅  
費ヲ組合ヨリ借用スルヲ得、而シテ職業ニ就クトキハ毎週勞銀ノ十分  
ノ一宛ヲ辨済ス

其二、失業救済ニシテ三年以上従業シ毎週勞銀ノ額ヨリ百分ノ三  
宛ノ掛金ヲ爲シタルモノハ失業ニ際シテ一週三弗宛六週間給與ス

其三、疾病救済ニシテ二年以上労働シ同上ノ掛金ヲナシタル者ニ  
シテ疾病ニ罹カリ所得ノ途ヲ絶ツトキハ一週五弗宛十三週支給ス但  
シ其疾病ガ不品行若シクハ不攝生ヨリ生シタルトキハ之レヲ給セス

其四、埋葬ノ費用ニシテ同上ノ労働者カ死亡シタルトキハ五十弗  
ヲ給シ、就業五年乃至十年ノ者ニハ二百五十弗、十年ヨリ十五年迄ノ者

第七章 失業保險 Arbeitslosenversicherung

ニハ三百五十弗十五年以上ノ者ニハ五百五十弗ノ埋葬料ヲ得ルナリ

失業保險トハ或ル原因ニ依リテ已ムヲ得ズシテ業ヲ失ヒ勞銀收入  
ノ斷絶スル者ニ對シ其失業中若干ノ收入ヲ保障スル機關ヲ云フナリ、  
而シテ今失業者ヲ分チテ廣義ノ失業者及ヒ狹義ノ失業者ノ二種トナ  
ス、甲ハ總テ業ヲ失フモノニシテ自己ノ好ンテ業ヲ擲チ或ハ身體違和  
ノ爲メニ業ヲ執ルコト能ハザル者等之レニ屬ス、乙ハ神身全ク強健ナ  
レトモ社會上ノ變動ニ由リ業ヲ失フ者ヲ云フ、甲ニ屬スルモノニシテ  
健康異常等ニ由テ生シタル失業ニ對スル救済ハ已ニ第一章ヨリ第三  
章ニ於テ叙述シタルヲ以テ今茲ニハ乙ノ失業保險ヲ説クヘク、猶ホ之  
レニ先チテ失業ノ原因及之レニ對スル豫防策ノ概要ヲ記スヘシ

第一、失業 Arbeitslosigkeit

失業ノ原因ヲ分チテ四種トナス(一) 商工業不振ノ結果經濟界ノ恐慌  
ヲ來シ之レニ由テ工業家ハ製産額ヲ減少スルニ至リ從テ之レニ從事

スル労働者ノ幾分ヲ解備スルノ已ムヲ得ルニ至ル(二)定期失業ニシテ  
職業ノ性質上毎年一定期間共全部或ハ一部ヲ停業スルカ爲メニ此期  
間中労働者カ業ニ離ルル者ヲ云フ(三)限局性失業ニシテ這ノ失業ハ(一)  
ニ於ケルカ如ク經濟界全般ノ不振ニ非スシテ一地方又ハ一工業ニ於  
テ其競争ノ結果又ハ一部ノ外國品ノ需用増大シタル爲メニ其製産ヲ  
縮少シ労働者ヲ減スルニ至ル者(四)其他雇主ノ都合上解備セラル、者  
等トス

此等ノ失業ハ今日ノ資本經濟組織 *Kapitalistische Wirtschaftsordnung*  
ニ於テハ決シテ輕々ニ閑却スルコト能ハサル者ニシテ從來發生シタ  
ル革命ナル者ハ全ク此ノ失業ノ増加ニ起因シタリ、今其一ニヲ舉ゲ  
ンニ一千八百三十年ニ巴里ノ失業者ハ市街ニ於テ非常ナル暴動ヲナ  
シタリ、次テ一千八百四十八年ニ於テハ全歐洲ニ亘ル經濟恐慌ヲ生シ  
爲メニ許多ノ失業者ヲ生シタル結果有名ナル六月革命 *Junirevolution*  
ヲ巴里ニ於テ演出シタリ、又一千八百七十一年ニ於テモ巴里ニ於ケル

公共ノ團體ト失業タル細民及労働者ト合同シテ擾亂ヲ起シタリ

## 第二、失業豫防

失業豫防

労働紹介

解備申告期延長

一、労働紹介 *arbeits nach weis* ノ法ヲ改善整理シ其範圍ヲ擴大ニシテ  
各地方ト聯絡共通シテ各需給ヲ均一ニナスコト

### 二、解備申告期延長

獨逸ノ工業條例ニ由ルトキハ解備申告期ハ二週間(續編「解備申告」參  
照)ニシテ即チ雇者又ハ被雇者カ事故アリテ解備ヲ望ム時ハ二週間以  
前ニ労働契約解除ノ申告ヲナスモノニシテ其申告後二週間以内ニ於  
テ雇主ハ他ノ労働者ヲ索メ、被雇者ハ新規ニ雇者ヲ探スナリ、若シ此ノ  
二週間前ニ兩者ノ一方カ解約ヲ實行シ雇備ノ關係ヲ斷ントスルトキ、  
若シ雇者ヨリ之レヲ爲ストキハ二週間分ノ給料ヲ拂ハサルヘカラス、  
又被雇者ナルトキハ申告後ノ給料ヲ得ルコト能ハサルナリ、故ニ此ノ  
解備申告期ヲ延長シ一ヶ月以内トナス時ハ雇者ヨリ解備申告ヲ受ケ  
タルトキハ労働者ハ勞銀ヲ收入シツツ、此ノ一ヶ月以内ノ長時間ニ於

テ百方周旋シ手ヲ盡シテ新備者ヲ索ムルヲ得ルナリ

三、失業豫防ニ關スル同工業者ノ盟約

經濟恐慌ノ結果トシテ製産額ヲ減少スル時ニ當リ直チニ多數ノ労働者ヲ解僱スル時ハ之レカ爲メニ社會ノ安寧ヲ害スルノ恐アルヲ以テ工業者ハ盟約シテ自己ノ労働者ヲ猶ホ其ノ儘ニ使用シ其製産額ニ應シテ労働時間及勞銀ヲ減少シ労働者ヲシテ全ク業ヲ失フコトヲ豫防スルナリ労働者モ亦勞銀收得ノ途ノ杜絶スルヨリモ此ノ方勝レルヲ以テ此ノ少給ノ勞銀ヲ忍ヒテ只管事業ノ勃興ヲ待ツノ外ナシ

四、老廢保險法ノ改正

各工場ニ於テハ労働者ノ老境ニ近ツキ或ハ其労働力ノ幾分カ消耗シタル者ヲ解僱シ壯年血氣ノ労働者ヲ以テ之レニ代ユルコトハ日常見ル所ノ事實ナリ而シテ老廢保險ニ在リテハ高老者ハ七十一年ヨリ養老金ヲ得廢疾者ハ其ノ收入三分ノ一以下ナルトキニ於テ初メテ救濟金ヲ得ヘキ規定ナルガ故ニ此ノ被解僱者ニシテ七十一年以前又ハ

勞銀三分ノ一以上ヲ得ル者ハ進ンテ労働ニ從事セントスルモ壯年者ノ爲メニ駕凌セラレ退テ老廢保險ノ救濟ヲ得ンニハ其資格ナシ茲ニ於テカ彼等ハ失業者トナルノ己ムヲ得ザルニ至ル故ニ老廢保險法ヲ改正シテ此ノ失業者ヲ保險スルノ策ヲ講セザル可カラズ

失業豫防ノ方法此ノ如シト雖モ時ニ或ハ數多ノ失業者ヲ出スコトアリ(殊ニ冬期)故ニ公共團體及ビ慈善家等ノ經營ニ成レル設備ヲ要ス即チ飲食品供給所、木賃宿増設等之ナリ其他官廳又ハ市役所等ニ救助労働 *Notarbeits* ヲ與ヘ公園市街ノ掃除ヲ命スル等經費ノ許ス限リニ於テ失業者ニ業ヲ授ケ多少ノ收入ヲ保障スルヲ要ス否ラザレバ彼等ハ貧民救助ニ據ラザル可カラズ然レドモ失業者ハ其ノ資格上決シテ貧民ニ非ラズ假ニ之レニ由テ一時救護スルモ到底多少ノ失業者ヲ救濟スルコト能ハズ故ニ彼等ハ竊盜ヲナスカ若シクハ不平家ニ煽動セラレテ遂ニ國家ノ治安ヲ攪動スルノ恐アリ

第三、失業保險



此ノ保險法ノ考案種々アレトモ實行サレタルモノ甚ダ少シ要スルニ失業保險施行ノ困難ナル點ハ労働者ガ全ク已ムヲ得シテ失業シタルカ怠惰ニシテ業ヲ執ルヲ欲セザルカ或ハ自己ノ過失ニ由テ業ニ離レタルモノナルカヲ容易ニ鑑別スル能ハザルニアリ又之レヲ任意保險トナサンカ被保者ノ數少キガ故ニ充分ナル救済ヲ爲ストキハ隨テ多額ノ掛金ヲ要スルヲ以テ好成績ヲ得ルコト能ハサルベシ而シテ現今任意ノ失業保險ヲ實行シテ良成績ヲ得タルモノハベルン市(瑞西)ニ於ケル保險ニシテキヨルン市ニ於テモ亦一千八百九十六年ヨリ同保險ヲ設ケテ稍良況ヲ呈シツ、アリ其他ノ獨逸ノ市街ニ於テハ尙ホ考量中ニ在リテ未ダ實行ノ運ニ至ラズ、英、米等ニハ數多ノ職工組合中ニ失業保險ヲ設ケタルモノアリト雖モ孰レモ已ムヲ得スシテ失業シタル者ト怠惰又ハ過失ニ由テ業ニ離レタル者トノ鑑別ニ至リテハ最も漠然トシテ概シテ完全ナル保險ト云ヒ難シ現今世人ノ知悉スル失業保險法ノ考案ハ次ノ三種トス

一、アドレル氏案

ゲラルク、アドレル氏ガ嘗テバーゼル(瑞西)大學ノ經濟學教授タリシ時(現今キールノ大學教授)ニ案出シタル者ニシテ一名バーゼル式トモ云フ、此案ニ從ヘバ該保險ハ政府即チ地方廳ノ事業ニシテ強制シテ施行ス、而シテ其ノ範圍ハ工業、土木工業等ノ失業ニ陥リ易キ職業ニ従事スル者ニシテ已ムヲ得ズシテ業ニ離レタル者ノミヲ保險シ自己ノ過失又ハ好ンデ業ヲ擲チ及ヒ同盟罷業ノ失業者ハ保險ヲ拒絕ス、又此保險所ハ一方ニ向テ確實ナル労働紹介ノ勞ヲ執リ各地ノ労働紹介ニ交渉シテ労働者ヲシテ適當ノ職業ニ就カシム故ニ保險所ト紹介所ヲ兼有シタルモノナリ、而シテ若シ地位ヲ得テ之レニ赴ク被保人ニハ其地ノ距離及掛金ノ額ニ應ジテ旅費ヲ給ス、此保險所ハ失業ノ第一週ハ猶ホ自治ノ餘資アル者ト做シテ救済セズ、第二週ヨリ三ヶ月間救助救助費ノ醸出ハ被保者及ヒ雇主ヨリ掛金スルモノニシテ、被保者ノ

分ハ勞銀等級及ヒ其ノ從事スル工業家ハ每週三サンチーム土木工業家二十サンチーム拂込ムナリ而シテ此兩者ノ拂込ミ掛金ヲ以テ救濟費ノ全部ニ充テ官廳ハ保險ニ關スル事務ノ經費ヲ負擔ス且ツ保險所ハ毎年收入全部ノ四分ノ一ヲ遺シテ積立金トナス

二、ゾンネマン氏案

社會黨選出代議士レホボルドゾンネマン氏(フランクフルト住)ノ考案ハ人口一萬以上ノ公共團體ニ於テハ其内ニ在ル丁業鑛業等ニ從事スル勞働者手工業ノ徒弟及ヒ店舖ノ使丁ニシテ一ケ年ノ所得二千馬克以下ノ者ニ對シテ強制的ニ失業保險ヲ施行スルニ在リ而シテ之レニ供スル費用ハ雇者及ヒ被雇者ノ掛金公共團體及ヒ聯邦ノ補助ヨリ成立スルモノニシテ此ノ案ニ於テモ亦勞銀ノ多少ニ由リテ掛金ニ差等アリ而シテ其拂込ノ方法ハ疾病保險ニ異ナラズ又二十六週以上掛金ヲナシタルモノニ非ラザレバ失業救濟ヲ要求スルコト能ハズ即チ二十六週ノ待期ヲ設ク且ツ被保者ガ好ンテ業ヲ擲チ又勞銀上ノ事

ニ就キ雇主ト爭議ヲ生ジ爲メニ解僱セラレタル者及供給シタル職業ヲ故ナク拒絶シテ自カラ業ヲ執ラザル者ハ救濟ヲ受クル能ハス而シテ救濟ハ七十五日間トシ失業當日ヨリ規定ノ救濟金ヲ給ス

此失業保險ニハ公吏一名其ノ長トシテ事務ヲ總掌シ其他雇者及被保人ヨリ撰出シタル委員若干名ヲ以テ之レヲ補助ス

三、シヤンツ氏案

ウユルツブルグ大學經濟學教授ゲラウグシヤンツ氏ハ全ク他ノ方面ニ於テ此失業救濟ノ方法ヲ求メント欲シタリ氏ノ提案ハ純粹ノ保險ニ非ラズシテ強制貯金ニアリ故ニ各勞働者ハ其所得シタル勞銀ノ内ヨリ一定額ノ分數ヲ所屬ノ疾病保險所ニ貯金スルノ義務ヲ負フ而シテ雇者モ亦其勞銀ノ一部ニ對スル額ヲ被保者ノ分ト合シテ貯金ス其方法ハ疾病保險ノ如ク勞銀支拂ノ時其勞働者ノ貯金スル分ヲ差引キ自己ノ分ト合シテ保險所ニ貯蓄スルコト掛金拂込ト異ナルコトナシ又保險所ハ此ノ貯金ヲ保管スル者ニ非ラス猶ホ一括シテ區貯金庫

ニ送付ス

獨逸國ニハ郵便貯金法ナク之レニ代ユルニ政府ノ嚴重ナル監督ノ下ニアル區貯金庫 *Bearbeitungsbank* ナ各地ニ設ケ以テ中央集金ノ弊害ヲ除キ資本ヲシテ各地平等ニ豊潤ナラシムルノ策ヲ取レリ

此ノ貯金百馬克ニ達セザル間ハ労働者カ業ヲ失フト雖トモ貯金ヲ引出スコトヲ許サズ而シテ百馬克以上ニ達スルトキハ失業ニ際シテ一週五乃至八馬克ヲ疾病保險所ヨリ支出ス故ニ一週八馬克宛引キ出スト雖モ尙ホ十二週間繼續スルヲ得ヘシ此案ニ於テモ亦任意業ヲ擲テ又ハ過失ニ由テ業ヲ失フタル者ハ貯金ヲ引出スコトヲ許サズ而シテ此案ハアドレル氏案ノ三ヶ月ゾンネマン氏案ノ七十五日ノ救濟受領期間ニ比シテ八十四日間ナリ故ニ孰レモ殆ント大同小異ト云フヘシト雖トモ貯金ノ百馬克ニ達スルニハ幾多ノ時日ヲ費スヘキ者ニシテ此ノ所謂待期ノ長キハ該案ノ短所ナリトス

同盟罷業保險

### 第八章

### 同盟罷業保險

*Strikeversicherung*

同盟罷業保險トハ同業ニ従事スル労働者又ハ一地方ニ在ル労働者ガ一團トナリテ平時勞銀ノ内ヨリ若干ヲ貯金シ置キ其ノ一團體ノ一部カ同盟罷業ヲナシテ勞銀ヲ得ル能ハザル場合ニ於テ其團體全部ノ貯金ヲ以テ罷業者ヲ救濟スル方法ヲ云フ

同盟罷業保險ヲ説クニハ同盟罷業ノ何者タルカヲ知ルヲ要ス故ニ本題ニ入ルニ先ツテ同盟罷業ノ大要ヲ述ベントス

同盟罷業論ハ社會政策學ノ一大要部ヲ占メ其説ク所頗ル廣濶ニ亘リ本編ニ於テ之レヲ盡クスコト能ハス故ニ唯茲ニハ同盟罷業保險ノ前提トシテ其概要ヲ記シ詳細ナルモノハ他日別ニ小冊子トシテ世ニ公ニスヘシ

同盟罷業概論

#### 第一 同盟罷業(一名社會的武器)概論

茲ニ説ク所ノ者ハ廣義ノ同盟罷業ニシテ労働者或ハ雇主ノ多數カ一致シテ自己ノ主義ヲ貫徹センカ爲メニ其ノ手段トシテ職業ヲ停止スル動作ヲ言フ而シテ同盟罷業ハ相方共ニ最後ニ取ルヘキ處置ニシテ當初ハ第二者ヲ介シテ平和的ニ交渉シ兩々相對峙シテ讓歩セサル際ニ於テ交渉全ク破レ終ニ同盟シテ労働者ガ其労働ヲ拒絶スルカ雇

社會的武器

主カ勞働者ノ就業ヲ拒絕スルノ已ムヲ得ザルニ至ル、其狀全ク國際談判破裂シテ戰ヲ宣スルモノト異ナル所ナシ而シテ國家ノ戰爭ニ於テハ爭鬪ノ用具トシテ劔戟ヲ要スレドモ雇主勞働者間ノ戰鬪ニ在リテハ別ニ成器ヲ用ヒズ、唯同盟シテ業ヲ休止スルヲ以テ唯一ノ武器トナス故ニ同盟罷業ヲ名ケテ社會的武器 *Soziale Waffen oder Soziale Kampfmittel* ト云フナリ

同盟罷業ヲ分チテ(一)勞働拒絕(二)勞働者拒絕ノ二種トナス、其他尙ホ一種ノ製品排斥モ亦勞働者カ其ノ目的ヲ達セシカ爲メニ取ルヘキ手段ニシテ假ニ同盟罷業ノ一種ト做ス今順ヲ追フ之レヲ記述スベシ

勞働拒絕

一 勞働拒絕(狹義ニ於ケル同盟罷業)

勞働拒絕 *Arbeitsinsetzung*(獨)*Strike*(英)トハ同一ノ職業ニ從事スル勞働者カ一致シテ自己ニ有利ナル勞働契約ヲ新タニ締結セシガ爲メニ其決行ヲ期シテ業ヲ罷ム者ヲ云フ、而シテ其廣狹、大、小、ハ其利益ノ多少ニ因テ異ナリ一市内又ハ一地方或ハ一國內ノ大部ニ亘ル者アリ、甚シキ

總同盟罷業

ハ一國內ノ勞働者ハ其職業ヲ問ハズ盡ク罷業スルコトアリ名ケテ總同盟罷業 *Generalstrike* ト云フ、這ハ專ラ勞働者ニ政權賦與ノ請願目的トナス者ニシテ最近ノ例證ヲ舉レバ一千九百二年四月十五日白耳義國ニ於テ選舉權賦與請願ノ目的ヲ以テ民主社會黨ハ總同盟罷業ヲ宣告シ三十萬ノ勞働者之レニ參加シタレトモ資力缺乏ノ爲メ一週間ニシテ解散シタリ、同年五月十五日瑞典國ニ於テモ同一ナル目的ヲ以テ總同盟罷業ヲ企テタレドモ三日以上持續スルコト能ハザリシ、又若シ勞働者ガ示威ノ目的ヲ以テ一ノ工場又ハ一個ノ鑛山ニ從事スルノミナラズ他ノ數多ノ工場又ハ鑛山ニ從事スルモノモ相合シテ同盟罷業ニ聲援シ共ニ勞働ヲ拒絕スル者ヲ共同勞働拒絕又ハ共同罷業 *Gruppen-strike* ト云フ

共同勞働拒絕又ハ共同罷業

前記ノ勞働者ニ有利ナル契約トハ專ラ勞働増給、勞働時間短縮、監督者ノ處置、罰金輕減、勞銀差引キノ減少等總テ勞働契約上ノ規定ヲ變更スルニアリトス、然リ而シテ今日ノ勞銀制度 *Lohnsystem* ガ同盟罷業ヲ

誘引スルコトハ争フベカラザル事實ニシテ労働契約ハ労働力ノ賣買ナリ、理論ヨリ断定スル時ハ労働力ノ需要者(資本家)及び其供給者(労働者)ハ他ノ貨物賣買ト均シク同等ノ權利ヲ以テ賣買ノ契約ヲナスベキ者ナレドモ實際ニ於テ決シテ然ラズ、此契約ニ於テハ弱者(労働者)ハ強者(資本家)ノ爲メニ壓セラレ意ニ滿タザル者モ終ニ黙契ノ間ニ完了シ去リテ實行セラル、ニ至ルナリ、商業上ノ賣買ニ於テハ需用者ノ定メタル甲ノ物品代價ガ供給者ノ意ニ滿タザル時ハ其貨物ヲ貯藏シ代價ノ騰貴ヲ俟テ他ノ乙丙丁等ノ物品ヲ相當ノ代價ニ於テ供給スルヲ得ルノ便アレドモ労働者ノ労働力供給ハ全ク之レト異ナレリ憐ムベシ彼等ノ労働力ハ唯一ノ賣物ナルガ故ニ其代理ノ如何ニ係ラズ之レヲ供給セザレバ明日ノ麵包ヲ得ルコト能ハズ坐シテ餓死ヲ俟ツノ外ナシ、故ニ自己ニ取リテ極メテ不利益ナル労働契約ヲモ締結スルノ已ムヲ得ザルニ至ルナリ而シテ資本主ノ利得巨大ニシテ自己ノ労働額ガ其ノ九牛ノ一毛ニモ足ラザルヲ知ルヤ彼レモ人ナリ如何ゾ此ノ不利

益ニ對シテ無限ノ服従ヲ甘ンスベキ、機會ダニアラバ事ニ托シテ此怨恨ヲ訴ヘ利權回復ヲ謀ラントスルハ人情ノ然ラシムル所又決シテ否認ズベキニ非ラズ、信トヤ彼等労働者ハ自己ノ勢力ガ所有ル點ニ於テ微弱ニシテ個人ヲ以テハ到底資本主ニ對スル能ハザルガ故ニ同感同情ヲ懷ケル同業者ト結托シ多數ヲ率ヒテ彼レニ當リ勝ヲ制シテ以テ自己ノ要求ヲ滿サンコトヲ期ス、此故ニ今日ノ労働制度ハ同盟罷業ノ伏魔殿タル觀ナキ能ハズ、又譬へ同盟罷業ノ誘因ガ労働制度ニ在リトスルモ今日ノ社會状態ハ決シテ之レヲ根底ヨリ改更スルヲ許サズ、若シ出來得ベクンバ資本主ガ利益ヲ労働者ニ分配シ又損失ヲ彼レニ負擔セシムルノ法ヲ講ズルニ在リ

昔日ノ同盟罷業ニハ常ニ擾亂ヲ伴ヒ罷業者ハ物件ヲ破壊シ人ヲ傷クル等ノ舉止ニ出テシカ今日ハ決シテ斯カル暴動ヲ企テズ、要スルニ彼等ガ騒亂ヲ敢テスル時ハ忽チ社會ノ同情ヲ失シ必勝ヲ期スベキ正當ノ理由アルニ係ラズ終ニ失敗ニ歸スルヲ以テ頗ル慎重靜肅ノ態度

ヲ取リ只管整然トシテ罷業シ以テ企業家ニ對峙シ、一方ニ於テハ社會ニ同情ヲ求メ、一方ニ於テハ企業家ヲシテ計算上和ヲ講ズルノ已ムヲ得ザルニ至ラシム

同盟罷業ハ孰レモ多少ノ損害ヲ免カレザル者ニシテ其爭鬪者ハ勿論一般ノ經濟界モ亦影響ヲ蒙ルナリ而シテ勞働者ハ之レニ由テ勝ヲ制スルモ其ノ得ル所決シテ失フ所ヲ補フニ足ラズ、彼等ハ之レガ爲メニ粒々辛苦ノ間ニ貯蓄シタル金圓ヲ盡盡シ剩ヘ負債ヲ生シテ債鬼ノ來襲ニ逢フ者比々皆然カリトス、又資本主ノ側ニ於テモ同盟罷業ニハ甚カラザル經濟上ノ困難ヲ感ズルモノニシテ、現今ノ産業組織ハ盡ク連帶工業ニシテ甲ノ貨物製産ハ乙丙ノ半製品及原料等ノ産出ニ伴ハザル可カラズ、然ルニ此際一朝其或ル部ノ事業中止センガ諸般ノ工業ハ其連鎖ヲ斷タレ遂ニ工業界ノ一頓挫ヲ來タスヤ明カナリ

各種同盟罷業中交通機關ノ同盟罷業ヲ以テ最モ厭フベキ者トス、如何トナレバ是レニ由テ第三者即非爭鬪者ガ殊更ニ不便ヲ感ズルヲ以

勞働者拒絕

テナリ又石炭ノ如キ日常(歐洲ニテハ)欠クベカラザル物品ヲ産出スル事業カ勞働拒絕ノ結果一時休業センカ其社會全般ニ及ボス影響ノ如何ニ偉大ナルカヲ察スベキナリ

二 勞働者拒絕

勞働者ガ此ノ如ク同盟シテ就業ヲ拒絕シ以テ資本主ニ迫ル彼亦是レニ備フル所ナクシテ可ナランヤ之レヲ *Arbeiterausspernung* (英) 又 *Lock out* (英) ト云ヒ假ニ勞働者拒絕ト譯ス

一工場ニ従事スル勞働者ノミナラズ數多ノ工場ニ就業スル者相合シテ罷業スルガ如ク雇主ニ於テモ多數ノ同業者一致團結シテ自己ノ使用スル勞働者ノ就業ヲ拒絕スルコトアリ之ヲ雇主同盟 *Unternehmerverband* ト云フ、而シテ勞働者拒絕ハ同盟罷業ト均シク雇主ガ勞働契約ヲ自己ニ有利ナル者ニ變更セント欲スルカ或ハ勞働者側ヨリ變更セシムコトヲ請求セラル、モ從來ノ契約ヲ維持セント欲スル場合ニ於テ爲スモノニシテ二箇ノ場合共ニ勞働者ニ取リテハ不利益ニシテ穩和

雇主同盟

ノ手段ニ依リテ遂グル事能ハザル時ハ雇主ハ強迫シテ其目的ヲ達セ  
ンコトヲ期スルニアリ畢竟スルニ雇主ノ側ヨリ拒絶スルモ或ハ労働  
者ノ側ヨリスルモ只前後ノ差アルノミニシテ甲ノ場合ニ於テハ雇主  
攻勢ヲ取り乙ノ場合ニ於テハ労働者カ攻勢ヲ取ル者ナリ

労働者拒絶ハ労働拒絶即チ同盟罷業ニ比シテ稀レニ見ル所ノ現象  
ナリ要スルニ同盟罷業ハ専ラ輕躁ノ徒カ附和雷同スルガ故ニ事ヲ舉  
グル頗ル急激ニシテ其利害得失ヲ熟考スル暇ナク漫リニ全勝ヲ期シ  
徒ラニ罷業ノ好結果ヲ豫想シ常ニ輕佻ノ舉止ニ出ヅル者ナリ労働者  
拒絶ハ決シテ然ラズ資本主ガ其労働者ヲシテ就業セシメザルハ萬已  
ムヲ得ザルニ出ヅル者ニシテ周密ナル考量ヲ盡シ其損害ヲ打算シタ  
ル後ニ非ザレバ決行セズ且ツ此拒絶モ労働者ノ如ク數多ノ同業者ガ  
同盟シタルモノニ非ザレバ効少キガ故ニ是非共連帶共同ヲ  
同業者ニ懇請セザルヲ得ズ然カレドモ同盟拒絶ハ同盟罷業ノ如ク容  
易ニ決行シ難シ如何トナレバ(一)雇主間相互ノ關係ハ労働者ノ夫レノ

如ク淡白水ノ如キ者ニ非ズ(二)雇主ハ相互日常競争ヲ爲シツ、アルヲ  
以テ一致同盟ハ概シテ不可能ナリ(三)雇主ハ若シ公衆ニ同情ヲ失フト  
キハ其損害ヲ蒙ルコト労働者ヨリモ大ナルガ故ニ同情ノ得喪ニ留意  
スルコト最モ周到ニシテ一朝労働者ヲ拒絶センカ事ノ真相ヲ知ラザ  
ルモノハ直チニ被動者ニ同情ヲ寄スルハ人情ノ常ナルヲ以テ折角ノ  
計劃モ終ニ水泡ニ歸スルナキヲ保セザレバナリ畢竟資本主ガ進ンデ  
労働者ヲ拒絶セズ常ニ被動守勢ノ態度ニ出ルハ蓋シ這般ノ原因ニ基  
クモノナラン

然レドモ現今ノ經濟組織ハ競争ヲ避ンカ爲メニ企業家ハ成ル可ク  
大ナル組合同盟等ノ結成ヲ企圖シ其結果トシテ有名ナル英米ノ「トラ  
スト」Trusts 又ハ諸邦ノ「シンデケート」Syndicat 或ハ特ニ獨逸ノ「カルテ  
ル」Kartelle等ヲ組織シテ各其目的ヲ達センコトヲ期ス故ニ今後ハ益々  
單獨營業減少シ共同營業增多シ其組織堅實トナランカ從テ競争ヲ避  
ケ得ルノミナラズ連帶責任ノ力モ亦強大トナルヲ以テ共同シテ労働

者ヲ拒絕シ得ルナリ信トヤ近年有名ナル英國ノ機械及ビ造船會社及製靴會社ノ勞働者拒絕及ビ丁抹國ノ勞働者拒絕ノ効ヲ奏シタルハ孰レモ資本家ノ鞏固ナル同盟組合ニシテ其ノ主ナル目的ハ競争排除ニアリト云フ此ノ如ク資本主ハ決シテ闘争ニ備フルガ爲メニ共同營業ヲ組織シタル職工組合 Gewerkschaften ト對峙スルノ姿勢ヲ取ルニ至レリ若シ此有様ヲ以テ進行スル時ハ遂ニ社會的闘争ノ状態ニ一新生面ヲ見ルノ期ナシト云フベカラズ

勞働拒絕ニ在テハ猶ホ幾分カ同盟ニ加ハラザル者アルガ故ニ之ヲシテ作業ヲ繼續セシメ或ハ他ヨリ失業勞働者ヲ拉致スルヲ得レドモ勞働者拒絕ニ在テハ資本主ガ原動力ノ位置ニアリテ其勞働者ヲ盡ク拒絕スルヲ以テ工場ハ閉鎖サレ生産ノ途全ク斷絶ス此ノ故ニ一般公衆ノ生活上ニ必要ナル者歐洲ニ於ケル石炭米露ニ於ケル石油ヲ産出スル工業家ガ一致シテ勞働者ヲ拒絕スル時ハ公衆ハ俗ニ所謂喧嘩ノ側杖ニ打タレデ其損害最モ多大ナラザルヲ得ズ故ニ此際ニハ通常政

### 製品排斥宣言

主義及目的

府ガ其間ニ斡旋シテ成ル可ク速カニ解決スルヲ要ス

### 三 製品排斥宣言

#### 其一 主義及目的

製品排斥宣言 Verurteilung (獨) Boykott (英) ハ其起源新ニシテ最初北米合衆國ニ行ハレ漸次歐洲ニ流傳シタル一種ノ社會的闘争武器ニシテ前記ノ拒絕ト異ナル所以ハ製品排斥ニ於テハ其名ノ示ス如ク資本主個人ニ對スル闘争ニ非ラズシテ資本主ノ製産スル物品ヲ排斥シテ其販賣ヲ妨グルニアリ

交通機關ノ發達移住ノ自由及ビ勞働紹介ノ擴張ハ同盟罷業ヲシテ益其成効ヲ困難ナラシム如何トナレバ從來使用シタル勞働者ガ同盟罷業ヲ宣言スル時ハ資本主ハ他ヨリ失業勞働者ヲ招聘シテ其欠ヲ補タテ以テ同盟罷業者ハ之レガ爲メニ自己ノ示威運動ハ無益ニ屬シ却テ自ヨリ失業者ニ陥ルノ不幸ヲ見ルコトアリ故ニ此際ニハ製品排斥ヲ以テ自己ノ主張ヲ貫ク最良法トナスナリ此法ニ於テハ資本主ト勞



製品排斥ノ方法及手段

働者ノ關係ハ毫モ變更セズ猶ホ労働者ハ從來ヨリモ能ク勉強シテ力  
ソ及ブ限リ生産ニ從事シ決シテ不平ノ色ヲ顯ハサズ其結果トシテ生  
産ノ額ハ益増加スルニ至ルナリ然レドモ労働者ハ其工場ニ於テ製産  
スル物品ヲ購求セザルコトヲ盟ヒ尙多數ノ労働者ヲ勸誘シテ同盟ニ  
加ハラシムルヲ以テ資本主ニ於テハ荷捌ケ甚ダ不活潑ニシテ終ニ荷  
物過剩シ代價下落ノ困難ニ陥リ漸ク排斥同盟者ト交渉シテ其ノ主張  
ノ幾分ヲ雍容スルナリ

其二 製品排斥ノ方法及ビ手段

排斥スベキ物品ハ専ラ労働者ノ需用品ニシテ他ノ物品ハ之レヲ排  
斥スルコト能ハズ故ニ其運動ノ勢力ハ甚強大ナレドモ其範圍ハ極メ  
テ狭小ニシテ畢竟スルニ労働者ノ使用スル日用品ヲ製作スル資本主  
ニ對スル闘争ニ過ギス

然レドモ労働者ハ元ヨリ闘争者ノ工場ヨリ直チニ物品ヲ購入スル  
者ニアラズ必ズ小賣店ニ就キ之レヲ求ムルカ故ニ闘争者ノ物品ヲ販

製品排斥ノ經濟上  
ニ及ボス影響

賣スル小賣店モ亦其渦中ニ投ゼザルヲ得ズ而シテ小賣業者ハ社會ノ  
階級上資本主ヨリモ労働者ニ近キヲ以テ強迫セラレテ終ニ同意スル  
モノ多ク排斥運動中ハ其資本主ノ荷物ノ取引ヲ拒絶スルニ至ルナリ、  
而シテ排斥宣告ハ通常労働者集會所ニ於テスルアリ或ハ労働者ノ機  
關新聞貼紙等ニ由テ廣ク公衆ニ示ス

排斥運動ニ關シ其製品ガ速カニ需用セザレバ腐敗又ハ變質スルヲ  
恐アルモノ(例ハ飲食物)ナル時ハ此運動概シテ勝利ヲ得ルナリ其他物  
品ノ販路全ク其工場所在地方ニ限局スル者ハ排斥者ニ取リテ大ニ便  
利ナレドモ販路廣ク且ツ外國ニ輸出スル者ニ在テハ排斥功ヲ奏セス  
又此ノ運動ヲ確實ニナスガ爲メ同盟者カ物品ヲ全然排斥シタルヤ否  
ヤニ就キテ監査スルノ必要アリ這ハ同盟者ノ内ヨリ委員ヲ撰ミ一方  
ニ於テ労働者ヲ監督シ一方ニ於テ小賣業者ヲ視察シテ各排斥品ノ賣  
買ヲ嚴重ニ禁制ス

其三 製品排斥ノ經濟上ニ及ボス影響

製品排斥ハ消極的ノ運動ニシテ勞働問題ヲ解決スベキ資格ヲ有セ  
ス如何トナレバ製品排斥ハ只資本ト勞力トノ闘争ニシテ之レガ爲メ  
ニ勞働者ノ品位ヲ向上ニシテ物質的ノ豊裕ヲ謀ルカ如キ副意味ヲ有  
セザレバナリ而シテ同盟罷業ト物品排斥ノ重ナル種別ハ甲ニ在テハ  
製産作用俄然停止勞働者ハ收入ヲ失フヲ以テ購買力モ共ニ喪失シ從  
テ荷物ノ一般停滯ヲ免カレズ之ニ反シテ乙ハ只製産ノ變位ニシテ製  
産ノ總額ニ於テハ變更スルコトナシ即チ一ノ工場ニ於テ製産スル物  
ヲ排斥スル時ハ他ノ工場ニ於テ製産シタル者ヲ以テ之レヲ補ハザル  
ベカラズ故ニ甲ノ工場ニ於テ荷物ノ販路塞カルトキハ他ノ工場ノモ  
ノハ甚シク之レヲ擴張シ得ルナリ又甲ハ自由ノ勞働契約ニ由テ生ジ  
タル相互ノ争ニシテ歸スル所雇主ト被雇者ノ外ニ累ヲ及ボス者ナシ  
然レドモ乙ニ在テハ雇主被雇者ノ外ニ第三者即小賣業者モ亦其一要  
素トナラザルヲ得ズ畢竟今日マデ此ノ排斥運動ノ甚シカラザリシハ  
其物品ノ範圍最モ狭小ナレバナリ獨逸ニ於テハ麥酒ノ排斥運動時々

起ルノミニシテ其他ノ者ハ之レヲ聞カス要スルニ麥酒ハ勞働者唯一  
ノ嗜好品ニシテ須臾モ之レヲ欠クコト能ハズ故ニ麥酒醸造ニ從事ス  
ル勞働者ガ同盟シテ他ノ勞働者ト結托シテ自己ノ從事スル醸造場ヨ  
リ製産スル麥酒ヲ飲用セサルコトヲ宣言ス

其他争闘者ノ一方カ自己ノ主張ヲ貫カントシテ他ノ一方ノ製品業ヲ排  
却スル手段ヲモ名ケテ「ボイコット」ト云フ近キ例ヲ示セハ清國ノ米國輸入  
品排斥ノ如キ亦東京ニ於ケル電車賃値下ケ運動トシテ電車不乘同盟ヲ結  
成シタルカ如キ皆ナ此ノ類ナリ遣ハ雇主ノ關係アル雇主勞働者ニ非ラス  
シテ蓋ク通常人ノ集合體ナリ

### 同盟罷業ニ對スル 豫防策

#### 第二 同盟罷業ニ對スル豫防策

同盟罷業ハ勞働ト資本ノ軋轢ヲ實現シタルモノニシテ其結果ハ經  
濟社會全體ニ波及シ終ニハ國安ヲ害スルノ虞アルヲ以テ適當ノ處置  
ニ依リ未然ニ之レヲ豫防スルカ或ハ己ニ爆發シタル者ニ對シテハ成  
ル可ク速カニ終ラサルノ策ヲ講セザル可カラズ其一法トシテ社會ノ  
輿論及ビ之レヲ發表スル不偏不羈ナル新聞ヲシテ充分其ノ理由ノア

融和會議

ル所ヲ公ニセシム、同盟罷業ノ母トモ云フ可キ英國ハ早クモ已ニ此法ヲ利用シテ罷業熱ヲシテ速カニ緩解セシメタルコト屢々之レアリ、然レトモ是レ全ク姑息ノ法ニシテ是非共特ニ是レニ對スル完全ナル設備ヲ要ス名ケテ *Kingungsamt* (假リニ融和會議ト譯ス)ト云フ

融和會議ハ資本主及ビ勞働者ヨリ同數ヲ委員及ビ其ノ長トシテ法律ノ智識アル者ヨリ成立シタル所謂社會的合議制ナリ而シテ委員長ハ相方ノ意見ヲ聽キ猶ホ其他決定ニ必要ナル事實證據等ヲ調査シテ讓歩和解ヲ勸誘スル者トス

融和會議ノ完全シタル邦國ヲ英國トナス、故ニ先ヅ英國ノ制度ヲ説キ次テ獨逸ニ及ブベシ

英國ノ制度

一、英國ノ制度

英國ニ於ケル融和會議ニ關スル制度ハ一千八百六十年代ニ在ルケツトレ一及ムルデルラー氏ノ創意ニ成ル者ヲ以テ嚆矢トナス、而シテ現今英國ニハ二個ノ融和機關アリ一ヲ宥和會議 *Boards of Conciliation*、

融和會議

*Stühnenamt* 一ヲ判決會議 *boards of arbitration. Schiedsamt* ト云フ

融和會議ハ便宜上英國内ノ各工業組合又ハ一地方毎ニ常設シタル一種ノ和解機關ニシテ工業組合或ハ區劃シタル地方ノ資本主及勞働者ヨリ同數ノ委員ヲ撰出シ局外ニアル法律家ヲ以テ其委員長トシテ事ニ當ラシメ、又其委員中ヨリ若干ノ特別委員ヲ撰定シ之レヲ常置委員トシテ會議ノ事務ヲ掌理セシム、而シテ鬭爭ノ單簡ナルモノ(例之一小工場ニ限ル同盟罷業ノ如キ)ハ悉ク此常置委員ノ勸告ニ由テ和解セシム、然レドモ猶ホ勸解不調ニ終ルカ若シクハ重大ナル事件(例之共同罷業ノ如キモノ)ニ至リテハ委員總會ヲ招集シテ調停ヲ試ム、又罷業ノ範圍最モ廣クシテ一地方又ハ一工業組合以外ニ亘ルトキハ關係地方又ハ關係シタル組合ノ宥和會議委員共同シテ調停ノ事ニ當タル

判決會議

然レドモ相方意見ヲ主張シ固ク執テ動カス到底讓歩和解ノ見込ナキ時ハ相方ヨリ二名ノ委員ヲ撰出シ學識德望兼備ノ法律家或ハ實業家ニ委員長ノ任ヲ托シテ曲直ヲ判定ス之レヲ判決會議ト云フ

若シ此決定ヲ肯セザル時ハ雙方ニ自由ノ行動ヲ取ラシムルノ己ムヲ得ザルニ至ル

二、獨逸國ノ制度

獨逸國ニ於テハ一千八百九十年ノ法律ヲ以テ工業裁判所中ニ融和會議ヲ設ケテ勞働條件ニ關スル爭議ヲ判決スル機關トナシタリ其後一千九百一年之レヲ改正シテ現今ノ制度トナレリ(續篇工業裁判所參照即チ次ノ如シ)

勞働條件ニ關スル爭議ヲ解決スル爲メ工業裁判所ハ融和會議ヲ開キ爭議ニ關係スル資本主及ビ勞働者ヲ招喚ス而シテ若シ一方ニ於テ招喚ヲ肯セザルトキハ百方盡力シテ出席ヲ促ス又雙方ノ委員ハ通常三名ヲ以テ定員トナス融和會議ニ列席スル委員ハ工業裁判所長ヲ議長トシ同盟罷業ニ關係セサル勞働者及資本主各二名其他必要ト認ムル時ハ猶其他ノ局外者若干名ヲ招致シテ陪席セシム且裁判長ハ議事進行中ニ猶ホ多數ノ爭鬭ニ關係シタル者ヲ招喚スルヲ得ルナリ又被

招喚者之レヲ拒ムトキハ百馬克迄ノ罰金ヲ科セラル

此ノ會議ノ議程ヲ分チテ四次トナス

其一ハ先ヅ相方ノ主張スル所ヲ聽取シテ其ノ爭點ノアル所ヲ定メ判決上必要ナル事項ヲ調査ス

其二ハ對審ニシテ勞働者及資本主鬭諍ニ關スル各自其意見ヲ陳述ス

其三ハ即チ和解調停ヲ勸誘スル者ニシテ議長及ビ列席委員ハ此際充分ニ相方ノ理由ノアル所ヲ説明シ且ツ讓歩ノ上和解スルノ利益アルコトヲ極力陳辯スルナリ

其四ハ若シ勸解不調トナル時ハ議長ハ其ノ理由ヲ公表ス

第三 同盟罷業保險

一、資本主ノ同盟罷業保險

同盟罷業保險ハ初メ資本主ノ側ヨリ計畫セラルモノニシテ即チ同盟罷業ニ依テ生シタル經濟上ノ損害ヲ相互ノ共濟法ニ由テ救濟ス

同盟罷業保險  
資本主ノ同盟罷業  
ノ保險

ルノ目的ニ出デタルモノナリ其獨逸ニ於ケル者ハ一千八百九十一年  
鐵山地方ノドルトムンドニ創設セラレタリ而シテ此救済ヲ受クルニ  
ハ一定ノ條件ニ準セザル可カラズ即チ資本主ハ同盟罷業ヲ解除スル  
ガ爲メ一旦融和會議ヲ請求シ又ハ他ノ方法ヲ以テ調停ヲ試ミタルモ  
相手方ガ之レヲ肯セザルヲ以テ同盟罷業ニ遭遇スルノ止ムヲ得ザル  
ニ出デタルモノニシテ保險組合ニ於テ充分之レヲ調査スルヲ要ス其  
他英國北米合衆國等ニハ此ノ設備少ナカラス而シテ孰レモ資本主ガ  
罷業ヲ誘發セスシテ被動的ニ除義ナクセラレタル時ニ救済ヲ受クル  
者トス

二、労働者ノ同盟罷業保險

是レ亦近今ノ企圖ニ出ヅル者ニシテ單ニ同盟罷業ニ由テ生スル經  
濟上ノ損害ヲ共濟スベキ目的ヲ以テ組織的ニ成立シタル團體ハ極メ  
テ少ナク且ツ其ノ規模モ極メテ微弱ナリ要スルニ此ノ救済ハ如何ナ  
ル同盟罷業ニ際シテモ爲スベキ者トスルトキハ其出支夥多ニシテ到

底實行シ難シ又此ノ如クスルトキハ經濟社會ガ蛇蝎ノ如ク嫌忌スル  
同盟罷業ヲ惹起スベキ原因トナルヲ以テ政府ニ於テ其設立ヲ聽許セ  
サルヘク然ラバ資本主ガ發意シタル同盟罷業即チ労働者拒絶ノ爲メ  
ニ停業ヲ餘義ナクセラレタル者ノミニ對シテ救済ヲ爲サンカ同盟罷  
業ハ通常労働者側ノ企圖ニ出ヅル者ニシテ被働的罷業ハ極メテ稀ナ  
ルガ故ニ此等ヲ救済スルニハ別ニ一ノ機關ヲ要セス事實此ノ如クナ  
ルヲ以テ今日迄ハ少クモ獨逸國ニ於テハ労働者同盟罷業保險ハ其發  
達モ幼稚ナリトス

然レドモ英國ニ於テハ救済組合中ノ一部トシテ罷業中ノ收入不能  
ヲ保障スルモノアリ例之同國ノ職工組合ノ如キハ一千八百九十六年  
ニ同盟罷業救済トシテ十五萬五千二百二十八磅百五十五萬一千二百八  
十圓ヲ支出シタリ其他北米合衆國ニ於ケル手工業ニ屬スル労働者保  
險ニ在リテモ同盟罷業ヲ救済スル規定アリテ一千八百九十七年ニ六  
十六萬二千七百七十三弗ヲ支出セリ

要スルニ同盟罷業保険ハ到底言フ可クシテ行フ能ハザル底ノ事業タルヲ免カレザル可シ、如何トナレバ(一)保険業ノ指南車トモ云フベキ統計ヲ得ルニ困難ナルコト(二)損害調査ノ正確ヲ期スルニハ調査委員ヲシテ其社會内部ノ實際ヲ明カニセサル可カラス、這ハ労働者ニ於テハ容易ナルモ資本主ハ之レヲ厭フノ傾向アレハナリ(三)然ラハ同業者ヨリ成立シタル保険組合ヲ組織シタランニハ内部ノ實際ヲ知ルニ比較的容易ナルヘク從テ損害ノ調査確實ナルヘシト雖トモ然レトモ職業ノ性質上同盟罷業ノ厄ニ遇フ者同一ナラズ鑛山業紡績業ノ如ク罷業屢々發生シ他ノ業ニ於テハ毫モ之レヲ見サル者アリ、故ニ甲ノ業ニ於テハ其支出非常ニ多額ニシテ到底自個ノ獨立ヲ保シ難シ、抑モ保險業ハ多額ノ支出ヲ要スルモノト否ラサルキノトヲ相混シ其過不及ヲ兩々相殺平均シテ初メテ斯業ノ成功ヲ見ル者ナルニ此ノ如ク其ノ多ク災厄ニ罹ル者ノミヲ藉テ成立シタルモノハ其結果甚ダ不良ナルガ故ニ必ズヤ同盟罷業ノ發起セサル工業ト合同シテ共濟セサルヘカラ

同盟罷業統計

ス而カモ乙ハ之レヲ肯スルヤ否ヤ甚疑ハシ

第四 同盟罷業統計

最近ノ同盟罷業ノ統計ノ一斑ハ左ノ如シ

國	英	佛	逸	獨	年	度	數	(罷業シタル労働者ノ數)
一	一	一	一	一	一九〇一	一〇五六	五五二六二	
一	一	一	一	一	一九〇二	一〇六〇	五三九一二	
一	一	一	一	一	一九〇三	一三七四	八五六〇三	
一	一	一	一	一	一九〇四	一八七〇	一二三四八〇	
一	一	一	一	一	一九〇二	五一二	二一二七一四	
一	一	一	一	一	一九〇三	五六七	一二三五	
一	一	一	一	一	一九〇〇	六四八	一八八五三八	
一	一	一	一	一	一九〇一	六四二	一七九五四六	
一	一	一	一	一	一九〇二	四四二	二五六六六七	
一	一	一	一	一	一九〇三	三六〇	一一三八七三	

附  
錄

獨逸社會的保險法綱要完

獨逸勞働者保護法綱要(獨逸社會的保險法綱要續編)目次

第一編 總論	一四
第一 勞働者保護法ノ定義	一
第二 勞働者保護ノ趣意	一
第三 起源及ヒ沿革	一
第二編 各論	五一
第一 人身保護	五
一 幼年勞働者保護	六
二 若年勞働者保護	七
三 工女保護	八
第二 最長勞働時	二
一 衛生ノ目的ニ因スル最長勞働時限	二
二 作業ノ性質ニ因スル最長勞働時限	三
三 入時間勞働	三
第三 日曜日休業	四
第四 健康及ヒ風紀ノ保護	六
一 健康保護	六
其一 負傷ニ對スル保護	六
其二 疾病ニ對スル保護	九
二 風紀維持ニ關スル保護	九



第五	勞銀支拂ニ關スル規定	六
一	物品支拂ノ嚴禁	六
二	其他ノ規定	六
第六	勞働契約保護	七
一	勞働規則	七
二	解僱申告	七
三	罰金	七
第七	勞働者保護法適用ノ擴張	七
第八	工場以外ニ使用スル幼稚者ノ保護法	七
一	他人ニ屬スル幼稚者ノ保護	七
二	自己幼稚者ノ使用ニ關スル規定	七
第九	勵行機關	八
一	工場建築ノ認可	八
二	工業視察官	八
三	工業避難保護組合ノ監督	八
四	工業裁判所	八
其一	組織	八
其二	裁判事故	八
其三	裁判施行	八
其四	裁判入費	八
五	罰則	八
第十	自餘各國ノ保護制度	九

一	英吉利國	九
其一	生命及ヒ健康ニ對スル保護	九
其二	未成年者及ヒ工女ニ對スル保護	九
其三	勞働時及休業	九
其四	勞銀支拂ニ關スル規定	九
其五	勵行機關及其方法	九
二	佛蘭西國	九
其一	勞働時及ヒ休憩時	九
其二	健康及ヒ風紀ニ關スル保護	九
其三	勞働支拂ニ關スル規定	九
其四	徒弟ニ對スル保護規定	九
其五	保護法勵行	九
其六	罰則	九
三	北米合衆國	九

獨逸勞働者保護法綱要目次終

目次

### 引用書目

本書ヲ草スルニ當リ屢々引用シタル載籍中其十五ヲ撰ヒ、多ク參考ノ資ニ供シタル者ヨリ順次ニ列舉ス

1. Conrad, Handwörterbuch der Staatswissenschaften. 2. Aufl. 6 Bdl. 1898—1900.
2. Biermer, Sozial- und Gewerbepolitik. 1902.
3. Elster, Wörterbuch der Volks wirtschaft. 2 Bdl. 1906—1907.
4. Van der Borch, Sozialpolitik. 1904.
5. Frankenstein, Arbeiterschutz. 1898.
6. Zaehner, Arbeiterversicherung im Auslande. 2 Bdl. 1898—1903.
7. Wödtke, Krankenversicherungsgesetz. 1902.
8. Wödtke, Unfallversicherungsgesetz. 1902.
9. Mittelstein, See unfallversicherungsgesetz. 1901.
10. Landmann-Krusp, Kommentar zum Invalidenversicherungsgesetz. 1902.
11. Landmann, Gewerbeordnung. 2 Bdl. 1903.
12. Berger-Wilhelmi, Reichsgewerbeordnung. 1902 (Kommentar.)
13. Reichsgesetzblatt Jahrgg. 1890—1905.
14. Zeitschrift für Sozialwissenschaft Jahrgg. 1903.
15. Archiv für Sozialwissenschaft Jahrgg. 1906.

# 獨逸勞働者保護法綱要

獨逸社會的保險法綱要續編

戶塚 卷藏 纂著

## 第壹編 總論

勞働者保護法ノ定義

第一 勞働者保護法ノ定義 *Arbeiterschutzgesetz*

勞働者保護法トハ自由ノ勞働契約ノ結果、勞働者ニ生スヘキ災害ヲ政府ノ法律ヲ以テ未然ニ防止スル者ヲ云フ

勞働者保護ノ趣意

第二 勞働者保護ノ趣意

前世期ノ初メニ當リテ器械力ヲ使用シテ物品ヲ製産スル經濟界ノ發展以後古來ヨリノ風習茲ニ一變シ、勞働者及ヒ雇主ハ一心同體タリシ良慣習ハ全然打破セラレ、勞働力ハ一種ノ賣物ノ觀ヲ呈シ來リ雇主被雇者各相反目シ資本ト勞働トノ間隙ヲシテ益大ナラシム而テ其ノ主因ハ工業家ニ在リテ、彼等ハ常ニ荷物ヲ販賣スヘキ市場ノ擴張ヲ謀ルカ爲メニ其ノ製産費ヲ成ルヘク減少スルコトニ腐心セリ、而シテ製

産費ヲ減少スル捷徑ハ勞銀ヲ出來ル限リ減却スルニアリトナシ、勞銀ノ低廉ナル幼年及ヒ若年ノ勞働者又ハ工女ヲ成ヘク多ク拉シ來リテ執業セシムルニ至ル、是レニ由テ幼年勞働者ハ身體ノ發育ヲ害セラレ工女ハ家事ヲ執リ家庭ヲ視ルコト能ハス、加之勞働時ハ益延長セラレ晝間ノ勞働ノミヲ以テ満足セス夜業ニ就カシム、其結果トシテ風俗ノ壞亂スルコト甚シク、又工場ニ於ケル衛生上ノ注意ヲ欠ケル爲メ勞働者ノ疾病ニ罹ル者日ヲ追フテ増殖シ、多大ノ早世者ヲ出ス等其慘狀言語ニ絶セリ

事態此ノ如クナルヲ以テ之レヲ自然ノ成リ行キニ任スルトキハ如何ニ憐愍ナル結果ヲ生スヘキヤ計リ難キカ故ニ勞働者ヲ此ノ慘虐ヨリ救出スヘキ法律ノ必要ヲ認メタリ、而テ當初ハ先ツ保護ノ最モ必要ナル者即チ幼年、若年者、工女ニ對スル保護規定ヲ施行シ、又一方ニ於テハ其工業ノ種類ニ從テ最モ慘虐ヲ極メタル者ニ對シテ之レヲ改善スルノ法ヲ設ケ、漸々施行ノ範圍ヲ擴張シテ終ニ一般工場及ヒ勞働者ニ

普及スルニ至レリ

此故ニ勞働者保護ノ精神ハ法律ヲ設ケテ勞働時勞働ノ種類、勞働契約、勞銀ノ支拂等ヲ制定シ以テ勞働者ノ衛生ヲ保護シ及ヒ家庭生活又ハ風紀ノ向上ヲ企圖スルニ在リ

勞働者保護法、發布ノ當初ニハ此法律ハ自由勞働契約ノ主義ヲ無視シタル者ニシテ時代思潮ニ反流セリトシテ反對ノ聲喧シカリシカ、今日ニ至リテハ其說終ニ跡ヲ絶チ却テ保護ノ必要ヲ唱フル者ノミトナレリ、是レ全ク實際ノ要求ニ由テ生シタル者ニシテ此點ニ於テハ事實上ノ利益ハ自由ヲ根據トシタル理論ニ勝レリ

### 起原及沿革

#### 第三 起原及沿革

獨逸帝國ノ建設以前ニ於テハ聯邦各自ニ勞働者保護法ヲ設ケテ之レヲ施行シタリ、而テ、一千八百六十六年北獨同盟成立後ハ法令ノ統一ヲ謀ルノ意義ニ基キ、其ノ覇者タル普魯西ノ法律ヲ參酌訂正シテ同盟聯邦普通ノ法律トナシタル者多シ、而テ此勞働者保護法モ亦其一ニシ